SLK-CLASS

取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（3-50）のようなかたちで示しています。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

表記と記載内容について

警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意　！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

環　境

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

環境保護について

ダイムラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

環　境

ダイムラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

警　告

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

1. 安全のために

2. 安全装備

3. 運転する前に

4. マルチファンクションディスプレイ

5. 運転するとき

6. 快適・室内装備

7. 万一のとき

8. 点検と整備

9. サービスデータ

10. こんなときは

11. さくいん

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり､添加剤などを混入すると､エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕を持って走行できるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。

  ◇エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。

  ◇燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。

  ◇給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。

  ◇給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。

◇作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。

◇キャップの取り外し / 取り付け **(3-36)** は確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。

◇燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。

◇給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。

◇給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

◇手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

◇気化した燃料を吸い込まないように注意してください。

◇給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。

◇ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ロールバー周辺に荷物を置かないでください。急ブレーキ時や急ハンドル時または事故のとき、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（2-15）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は助手席に

子供を助手席に座らせるときは、シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

ドアやバリオルーフ、ドアウインドウやリアクォーターウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

ドアウインドウやバリオルーフの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置およびギア位置 3、2、1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。
- できるだけ、走行モードを C モードにして走行してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- SLK 55 AMG は、以下の注意事項を守ってください。
  - ◇ 走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。
  - ◇ エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。
- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させせないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させせると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約 12cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールは使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(5-16)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを **N** に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを **P** に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを **P** か **N** に戻すように心がけてください。**R** に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

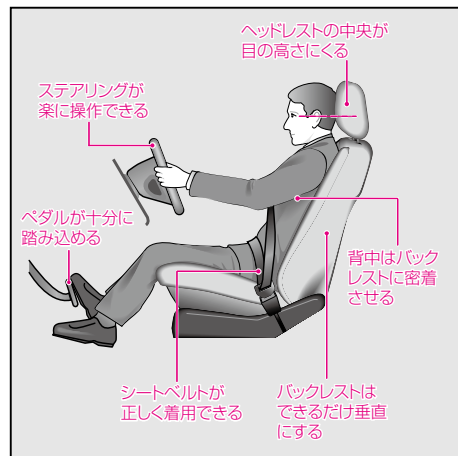
- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 承認されていない燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- 無線機や、オーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは､必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

警　告

- 運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意！

- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

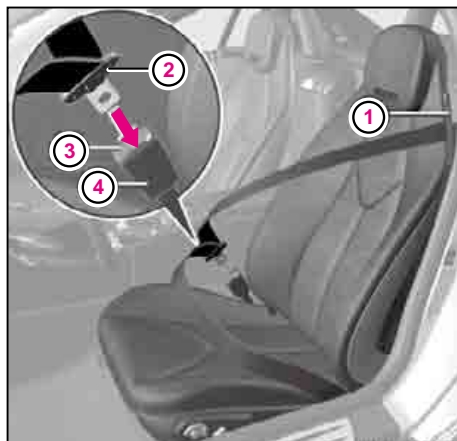
※車種や仕様によりシートの形状などは異なります。

シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置であり、急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。

シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

※車種や仕様によりシートの形状などは異なります。

シートベルトの着用

① ベルトループ
② プレート
③ 解除ボタン
④ バックル

シートベルトを着用する

▶ プレート②を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認し、プレート②の先端をバックル④に差し込みます。

▶ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

警　告

ベルトループ①を通るシートベルトに、ねじれがないことを確認してください。事故のときに致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート②を持ち、バックル④の解除ボタン③を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

知　識

ベルトループ①にシートベルトを通して使用すると、シートベルトが着用しやすくなります。

警　告

- すべての乗員がシートベルトを着用してください。シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれていないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

- シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

  ◇バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ◇コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。

  ◇シートに深く腰かけてください。

  ◇肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに頭や首、肋骨や腹部に強い衝撃を受けます。

  ◇腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。

  ◇シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。

  ◇1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

  ◇シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。

  ◇子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

  ◇子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

  ◇着用前に、シートベルトやバックルに汚れや損傷がないか確認してください。

シートベルト

注 意 !

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  - ◇たばこの火など、熱いものを近付けない
  - ◇バックル部分に異物を入れない
  - ◇ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にかけない
  - ◇分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、シートベルトがバックルに差し込まれているときに作動します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席のシートベルトテンショナーは作動しません。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

注　意！

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- 助手席に人が乗っていないときは、シートベルトをバックルに差し込まないでください。事故などのときに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

知　識

- シートベルトテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- 助手席に重い荷物などを積んで、シートベルトをバックルに差し込んでいるときは、助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、自動的に解錠されます。

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを **2** の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

知　識

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

SRS エアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。

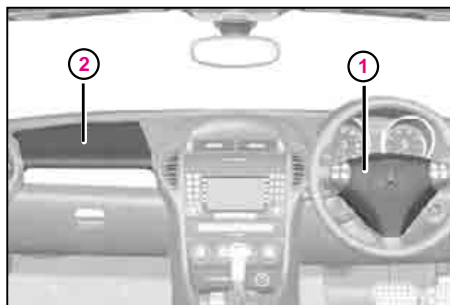
エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。

衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。

衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

知 識

SRS は Supplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

運転席 / 助手席エアバッグ

右ハンドル車

① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部

② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散･軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

ただし、衝撃の強さにより、シートベルトを着用していないときも作動することがあります。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席エアバッグは作動しません。

ヘッドソラックスサイドバッグ

③ ヘッドソラックスサイドバッグ
シートのバックレスト側面

ドアやその付近に横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のヘッドソラックスサイドバッグが作動し、上体への衝撃を分散・軽減します。

ヘッドソラックスサイドバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

ただし、衝撃の強さにより、シートベルトを着用していないときも作動することがあります。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席のヘッドソラックスサイドバッグは作動しません。

SRS エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを 1 の位置にすると数秒間点灯します。また、2 の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないとき、エンジンがかかっているときに点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システムの故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

エアバッグが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。

警　告

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれがあります。また不意に作動するおそれもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後方に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ウインドウやドアの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- シートに市販のシートカバーを使用しないでください。ヘッドソラックスサイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間に、ペットや荷物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。

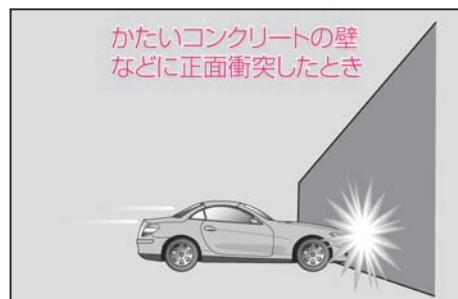
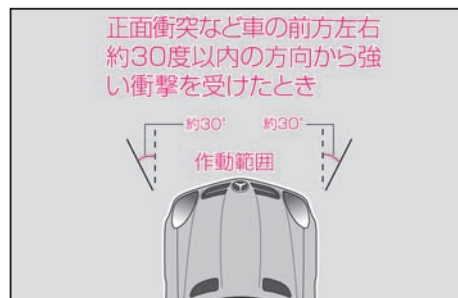
注　意　!

- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

知　識

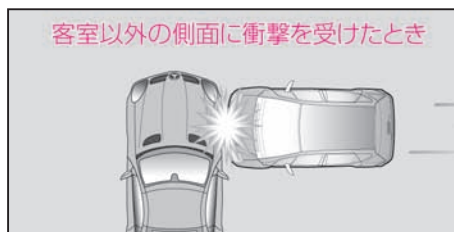
- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。
- 運転席/ 助手席エアバッグは、車が横転したときに作動することがあります。
- 助手席に重い荷物などを積んで、シートベルトをバックルに差し込んでいるときは、助手席エアバッグおよびヘッドソラックスサイドバッグが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、自動的に解錠されます。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯させるときは、非常点滅灯スイッチを押します。
- エアバッグの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

ヘッドソラックスサイドバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

ヘッドソラックスサイドバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

知　識

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、サンバイザーに貼付されています。

警　告

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫して致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシート

- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の状態を確認してください。

  ◇ チャイルドセーフティシートがセンサー付き純正チャイルドセーフティシートであり、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していること

  または

  ◇ 助手席の乗員の体重が一定以下であり、シートベルトのバックルを差し込んだときに助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していること

  後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、チャイルドセーフティシートを装着しないでください。助手席エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

- 前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されてけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正の物に交換してください。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実にシートに装着してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。

  ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

  ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になることがあります。

  ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

  ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

助手席エアバッグオフ表示灯

① 表示灯

助手席エアバッグの機能が解除されているときは、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯します。

助手席エアバッグオフ表示灯①は以下のときに点灯します。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたとき（チャイルドセーフティシート検知システム）

または

- 一定以下の体重の乗員が助手席に乗車して、シートベルトをバックルに差し込み、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたとき（助手席検知機能）

詳しくは**(2-18、20)**をご覧ください。

注　意　！

チャイルドセーフティシート検知システムまたは助手席検知機能が作動していないときに、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯して、助手席エアバッグの機能が解除されても、ヘッドソラックスサイドバッグとシートベルトテンショナーの機能は解除されません。

警　告

チャイルドセーフティシート検知システムに関する警告

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。助手席エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。
  - ◇ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。
  - ◇ チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着するタイプのみを使用して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
  - ◇ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

助手席検知機能に関する警告

- チャイルドセーフティシートを装着して子供を乗車させるときは、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していることを確認してください。
- チャイルドセーフティシートを装着して子供を乗車させたときに助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。
  - ◇ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。
  - ◇ チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着するタイプのみを使用して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー社の純正チャイルドセーフティシートには、助手席に装着すると助手席エアバッグの機能を解除する、センサー付きシート（ベビーセーフ プラス、デュオ プラス、キッド）があります。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、純正チャイルドセーフティシートを使用してください。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約10kg以下	新生児〜9カ月位
デュオプラス	9〜18kg	8カ月〜4歳位
キッド	15〜36kg	3歳半〜12歳位

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

注　意！

純正チャイルドセーフティシートでも、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯**(2-17)**が点灯します。

注 意 !

助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

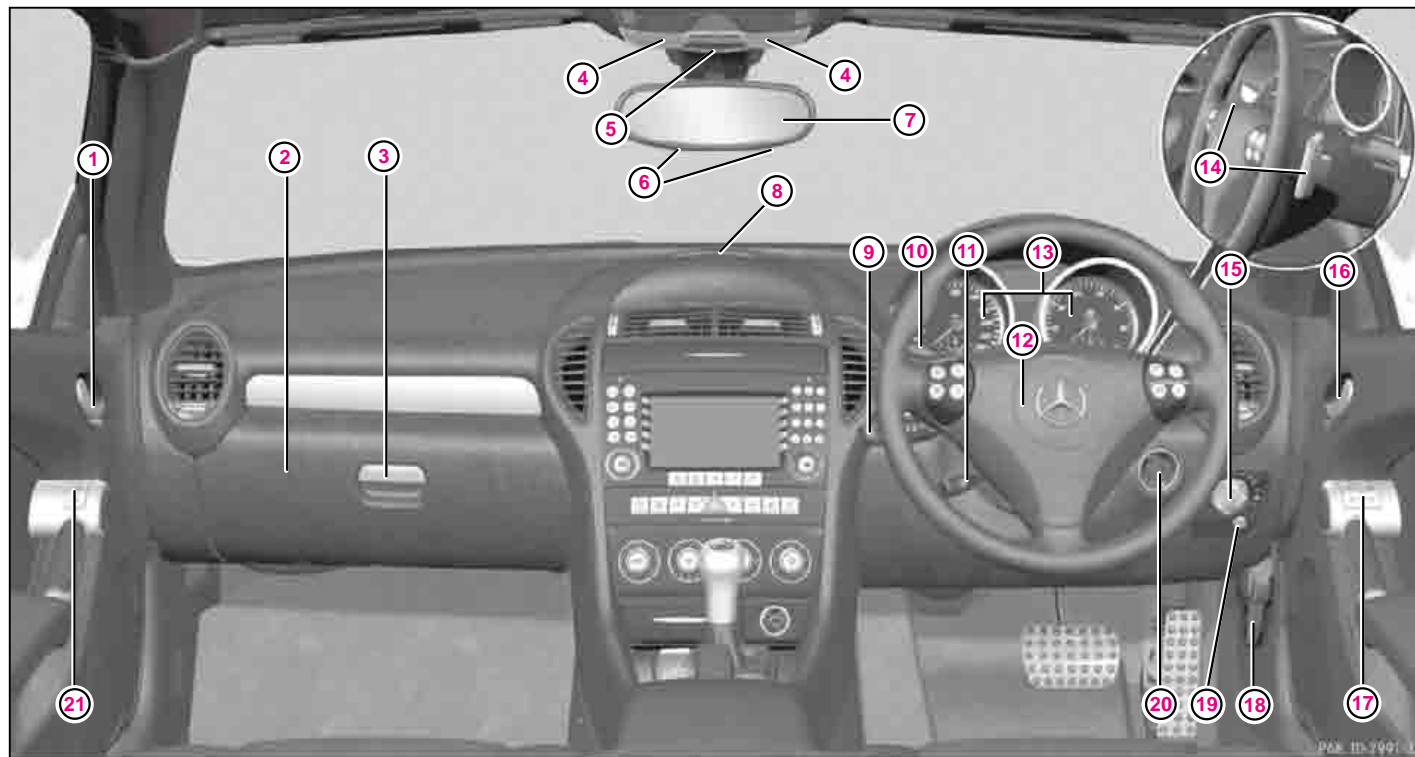
警 告

助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードや IC カードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれがあります。また、センサー付きチャイルドセーフティシートを検知できずに、助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

助手席検知機能

助手席に乗車している乗員の体重が一定以下であるとき、または助手席に乗員が乗車していないと判断したときに、シートベルトのバックルが差し込まれているときは、助手席エアバッグの機能が解除されます。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯**(2-17)**が点灯します。

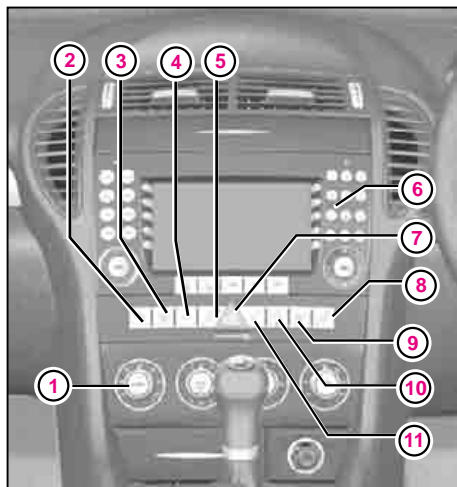
インストルメントパネル

右ハンドル車

※車種や仕様、装備の違いにより、スイッチなどの有無や形状は異なります。

	名称	ページ
①	ドアレバー（助手席ドア）	3-20
②	グローブボックス	6-22
③	グローブボックスハンドル	6-22
④	ルームランプ	6-14
⑤	点灯モード切替スイッチ / 手動点灯スイッチ / 読書灯スイッチ	6-14
⑥	読書灯	6-15
⑦	ルームミラー	3-51
⑧	パークトロニックインジケーター＊	5-56
⑨	コンビネーションレバー（ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー）	5-25 5-28 5-30
⑩	クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバー	5-46 5-52
⑪	ステアリング調整レバー	3-57
⑫	ホーン / 運転席エアバッグ	2-9
⑬	メーターパネル	3-58
⑭	パドル＊	5-11 5-14
⑮	ランプスイッチ	5-22
⑯	ドアレバー（運転席ドア）	3-20
⑰	ドアウインドウスイッチ（運転席側ドアウインドウ / 助手席側ドアウインドウ）	3-39
⑱	ボンネットロック解除レバー	3-31
⑲	ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル＊	5-27
⑳	エンジンスイッチ	5-2
㉑	ドアウインドウスイッチ（助手席側ドアウインドウ）	3-39

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

センターコンソール

センターコンソール

右ハンドル車

	名称	ページ
①	エアコンディショナーコントロールパネル	6-3
②	エアスカーフスイッチ（助手席）＊	3-19
③	シートヒータースイッチ（助手席）	3-17
④	ESP オフスイッチ	5-43
⑤	ドアロックスイッチ（施錠）	3-26
⑥	マルチファンクションコントローラー	別冊
⑦	非常点滅灯スイッチ	5-29
⑧	エアスカーフスイッチ（運転席）＊	3-19
⑨	シートヒータースイッチ（運転席）	3-17
⑩	パークトロニックオフスイッチ＊	5-60
⑪	ドアロックスイッチ（解錠）	3-26

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

警　告

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- 重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

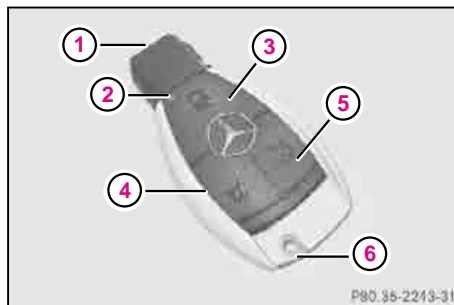
注　意 ！

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。
- キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、わずかに電力を消費しています。走行しないときは、バッテリー保護のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

キー

知　識

- 2 つのキーを見わけるため、キーのストッパー（3-10）の色は異なります。
- 新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ トランクオープナーボタン
⑥ エマージェンシーキー

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- 以下の各部の解錠 / 施錠
  - ◇ドア
  - ◇トランク
  - ◇燃料給油フラップ
  - ◇グローブボックス
  - ◇アームレストの小物入れ
- トランクを開く
- ドアウインドウを開く＊
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウを閉じる＊
- バリオルーフの開閉＊

操作時に表示灯②が 1 回点滅します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

トランクを開く

▶ トランクオープナーボタン⑤を押し続けます。

トランクが少し開きます。

知 識

- 車が施錠されているときにトランクオープナーボタン⑤を押し続けると、トランクだけが解錠されて、少し開きます。その後トランクを閉じると、トランクは施錠されます。
- トランクが独立施錠 (3-30) されているときは、解錠ボタンまたはトランクオープナーボタンを押して、トランクを解錠したり開くことはできません。

注 意 !

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じるとき＊は、身体や物が挟まれないように注意してください。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れが確実に施錠されていることを確認してください。
- トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- 車の後部左側にあるアンテナを取り外したときは、リモコン機能の感度が低下します。
- 貴重品は絶対に車内やトランク内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン機能の設定切替

リモコン操作で解錠するときの作動内容を切り替えることができます。

リモコン機能の設定を切り替える

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯②が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン④を 1 回押すと、以下の各部が解錠されます。

  ◇運転席ドア

  ◇燃料給油フラップ

  ◇グローブボックス

  ◇アームレストの小物入れ

- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン④を押すと、助手席ドアとトランクが解錠されます。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 再度、施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯②が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

知　識

- リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

  ◇ドアを開く

  ◇トランクを開く

  ◇エンジンスイッチにキーを差し込む

  ◇ドアロックスイッチ（解錠）を押す

- バッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

- キーの電池が消耗すると操作時に表示灯が点滅せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納することができます。

格納されたドアミラーは、ドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については**(4-48)** をご覧ください。

知　識

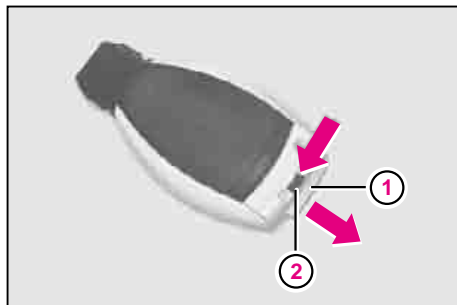
- ドアを開かなくても、格納されたドアミラーの位置が少し動くことがあります。その場合は、ドアミラー格納 / 展開スイッチ **(3-56)** を押して、元の位置に戻してください。
- ドアミラー格納 / 展開スイッチ **(3-56)** でドアミラーを格納してから施錠したときは、ドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または約 40 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については**(4-41)** をご覧ください。

エマージェンシーキー

① エマージェンシーキー
② ストッパー

キーに収納されています。

リモコンが作動しない場合に、運転席ドアを解錠／施錠するとき **(3-24、25)** やトランクを解錠するとき **(3-31)**、トランクを独立施錠するとき **(3-30)** に使用します。

エマージェンシーキーを使用する

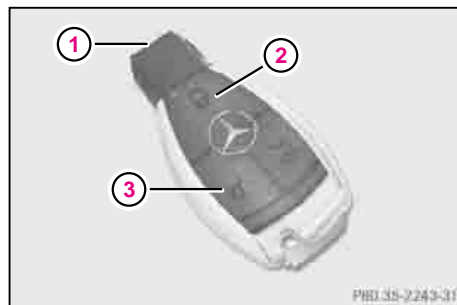
▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

リモコン操作でドアウインドウとバリオルーフを開閉する＊

① 発信部
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

※ 車種や仕様によりドアハンドルの受光部が運転席側だけの場合があります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン操作でドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを開閉できます。

ドアウインドウとバリオルーフを開く

▶ キーの発信部①をドアハンドルの受光部に向けて解錠ボタン③を押し続けます。

バリオルーフが閉じているときは、バリオルーフが開き、ドアウインドウが閉じた状態になります。

バリオルーフが開いていて、ドアウインドウが閉じているときは、ドアウインドウが開きます。

解錠ボタン③から手を放すと、作動中のドアウインドウやバリオルーフはその位置で停止します。

詳しくは **(3-48)** をご覧ください。

ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じる

▶ キーの発信部①をドアハンドルの受光部に向けて施錠ボタン②を押し続けます。

バリオルーフが開いているときは、バリオルーフが閉じ、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも閉じます。

バリオルーフが閉じていてドアウインドウやリアクォーターウインドウが開いているときは、ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じます。

施錠ボタン②から手を放すと、作動中のドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフはその位置で停止します。

詳しくは **(3-49)** をご覧ください。

3

注 意 !

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。
- リモコン操作でドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じているときに身体が挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタン②から手を放し、解錠ボタン③を押し続けて、ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを開いてください。
- 万一のとき以外はバリオルーフの作動を途中で停止しないでください。
- リモコン操作で施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じていることを確認してください。

知 識

- リモコン操作をするときは、キーの発信部①をドアハンドルの受光部に向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

電池の交換

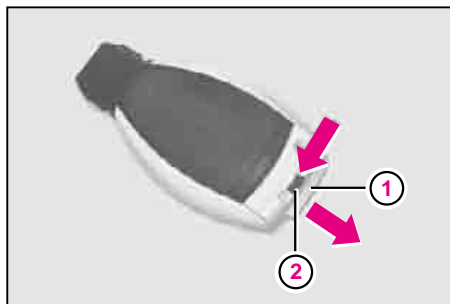
リモコンの作動可能距離が短くなったり、いずれかのボタンを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

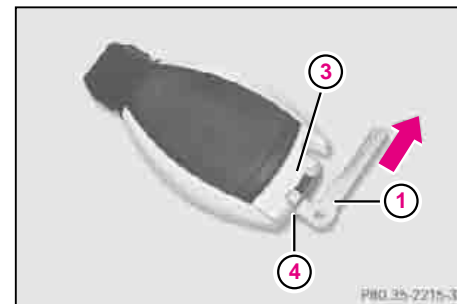
電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

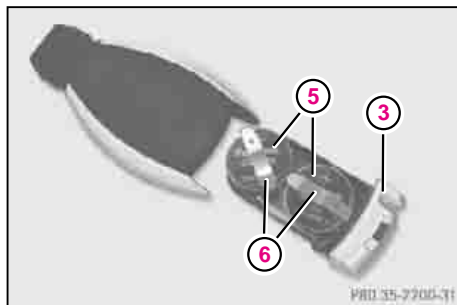
電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

キーのいずれかのボタンを押したときに、キーの表示灯が 1 回点滅すれば電池は正常です。

① エマージェンシーキー
② ストッパー

電池の交換手順

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜き取ります。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー①を凹部④にかけてロックを外しながら、電池ケース③を引きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を外し、新しい電池と交換します。

電池は 2 個とも⊕を上にして、電極板⑥の間に取り付けます。

▶ 電池ケース③を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー①をキーに収納します。

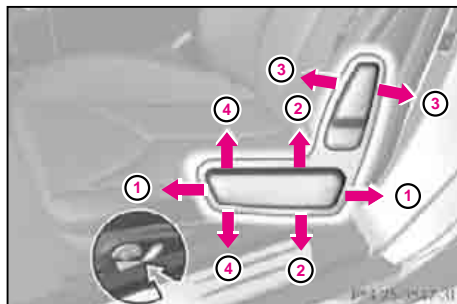
知　識

- リチウム電池（CR2025）を 2 個使用しています。
- 電池を交換するときは 2 個同時に交換してください。
- 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

環　境

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分を依頼してください。

シート

シートの調整

左側シートのスイッチ
① シートの前後位置調整
② シートの高さ調整
③ バックレストの傾き調整
④ シートクッションの傾き調整

注　意　！

シートの調整をするときは他の乗員の身体などが挟まれないように注意してください。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、または調整する側のドアが開いているときに調整することができます。

シートの前後位置を調整する

▶ ①の方向に操作します。

シートの高さを調整する

▶ ②の方向に操作します。

バックレストの傾きを調整する

▶ ③の方向に操作します。

シートクッションの傾きを調整する

▶ ④の方向に操作します。

知　識

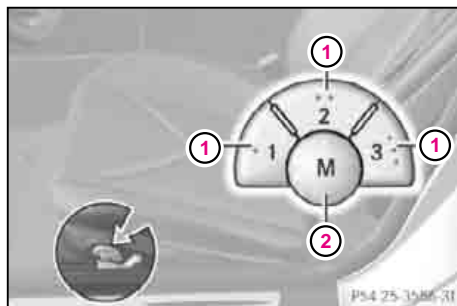
- バックレストを後方に傾けたときに、バックレストが車室後部に当たりそうになると、シートが前方に移動します。
- シートを後方または下方に動かしているときに、バックレストが車室後部に当たりそうになると、バックレストが起き上がります。

エアスカーフ装備車

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 上げるときはヘッドレストを持って上に引き上げます。

▶ 下げるときはヘッドレストを持って下に押し下げます。

シートのメモリー機能

左側シート
① ポジションスイッチ
② メモリースイッチ

シート位置をポジションスイッチに記憶させることができます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、または記憶 / 呼び出しする側のドアが開いているときに操作できます。

シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、ステアリングの位置 **(3-59)**、ドアミラーの角度 **(3-55)** も正しく調整します。

知　識

ドアミラーの角度を調整するときは、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしてください。

▶ メモリースイッチ②を押します。

▶ 3 秒以内に 1 ～ 3 のいずれかのポジションスイッチ①を押します。

そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

他のポジションスイッチ①にも同様の方法でシート位置などを記憶させることができます。

記憶させたシート位置を呼び出す

▶ 呼び出したいポジションスイッチ①の 1 ～ 3 のいずれかを押し続けます。

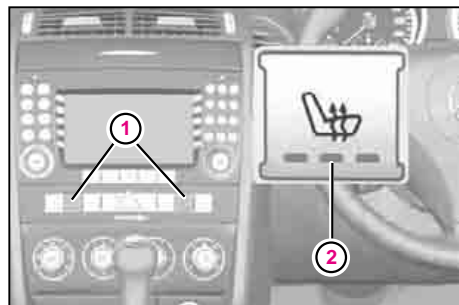
シートなどが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

知　識

安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、シートなどの動きが停止します。

注　意　！

- 運転席のシート位置を呼び出すときは、停車しているときに行なってください。走行中に呼び出すと、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

シートヒーター

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

エンジンスイッチが 1 か 2 の位置のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

注　意　!

- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用したり、シートヒーターを連続して使用しないでください。

  異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
  ◇ 乳幼児、高齢者、病人、体が不自由な方
  ◇ 皮膚の弱い方
  ◇ 疲労の激しい方
  ◇ 眠気をさそう薬を服用した方
  ◇ 飲酒した方
- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

知　識

多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

エアスカーフ＊

① エアスカーフスイッチ
② 表示灯

ヘッドレストの送風口から、乗員の頭部周辺に暖気を送風します。送風の強さを 3 段階に調整できます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに作動します。

エアスカーフを強で使用する

▶ エアスカーフスイッチ①を押して、表示灯②を 3 つ点灯させます。

エアスカーフを中で使用する

▶ エアスカーフスイッチ①を押して、表示灯②を 2 つ点灯させます。

エアスカーフを弱で使用する

▶ エアスカーフスイッチ①を押して、表示灯②を 1 つ点灯させます。

知　識

スイッチを押してから送風が開始されるまで約 7 秒かかります。

エアスカーフを停止する

▶ エアスカーフスイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

知　識

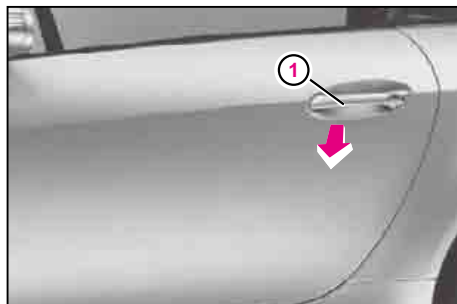
スイッチを押してから送風が停止するまで約 7 秒かかります。

注　意　！

- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。火傷をするおそれがあります。
- 送風口の周囲は大変熱くなりますので触らないでください。火傷をするおそれがあります。
- エアスカーフを使用するときは送風口を覆わないでください。過熱や火災、故障の原因となるおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

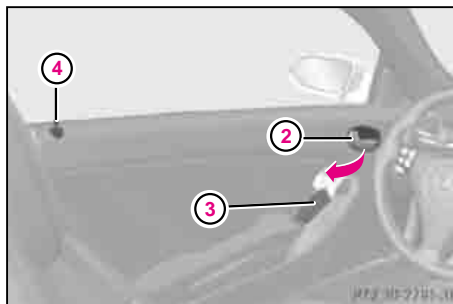
ドア

ドアの開閉

① ドアハンドル

車外から開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

車内から開く

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ④が上がって解錠され、ドアも開きます。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ③を持って確実に閉じます。

知　識

ドアウインドウが全閉のとき、ドアを開くとドアウインドウが少し下降し、ドアを閉じると上昇します。

警　告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全 (半ドア) な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

注　意 !

- 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。
- ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- ドアウインドウが凍結していたり、バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやドアウインドウ、シール部などを損傷するおそれがあります。

知　識

- 助手席のドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。
- ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マーク （10-6）が表示されます。

イージーエントリー機能

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態でエンジンスイッチにキーを差す
- エンジンスイッチが **0** の位置のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- エンジンスイッチが **1** の位置のときは、運転席ドアを閉じて、**2** の位置にする

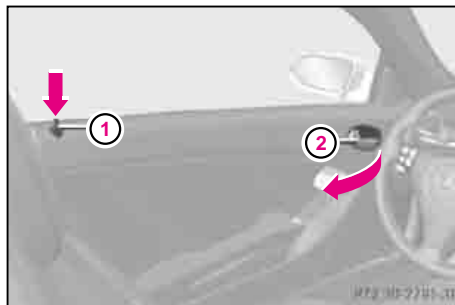
この機能の設定と解除については **(4-48)** をご覧ください。

警　告

子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってドアを開いたときなどにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

知　識

- イージーエントリーの作動を停止するときは、ステアリング調整レバーか、運転席のポジションスイッチまたはメモリースイッチを操作してください。
- ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

ドアごとに解錠 / 施錠する

① ロックノブ
② ドアレバー

解錠する

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

ドアが解錠され、開きます。

施錠する

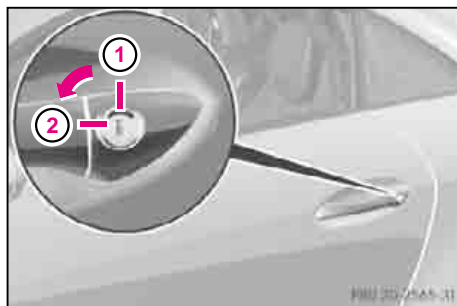
▶ ロックノブ①を押し込みます。

知　識

助手席のドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

注　意 ！

- 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。
- 運転席ドアは、完全に閉じていないときはロックノブを押し込むことはできません。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠する

左ハンドル車

① エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
② 解錠の位置

リモコン操作ができないときは、運転席ドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキー **(3-10)** を差し込み、解錠できます。

解錠する

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②(前方)にまわします。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

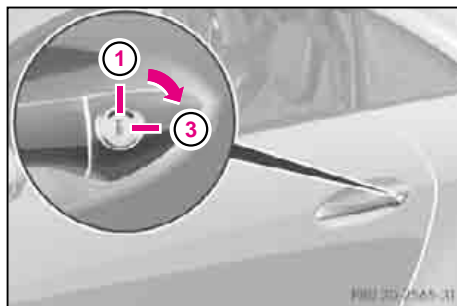
▶ エマージェンシーキーを①の位置にまわして抜きます。

知　識

助手席ドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

注　意　!

- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、助手席ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れは解錠されません。
- 盗難防止警報システム装備車では、リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を解除するには、キーの [解錠ボタン] か [施錠ボタン] を押すか、キーをエンジンスイッチに差し込みます。

非常時の車の施錠

左ハンドル車

① エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
③ 施錠の位置

リモコン操作で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

施錠する

▶ 助手席ドアとトランクを閉じます。

▶ 運転席ドアを開いた状態で、ドアロックスイッチ (施錠)**(3-26)** を押します。

ドアロックスイッチが作動しないときは、助手席ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 車から降りて、運転席ドアを閉じます。

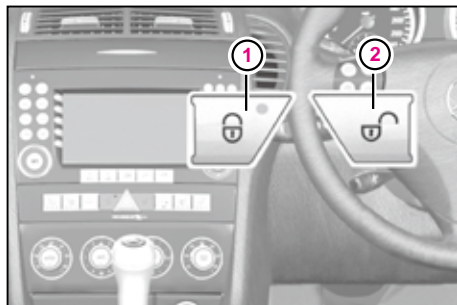
▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのキーシリンダーに差し込み、施錠の位置③ (後方) にまわします。

▶ 運転席ドアのロックノブが下がったことを確認します。

▶ エマージェンシーキーを①の位置にまわして抜きます。

注 意 !

- ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、トランクが施錠されていないことがあります。このときは、トランクを独立施錠 **(3-30)** してください。
- エマージェンシーキーで運転席ドアを施錠しても、助手席ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れは施錠されません。

ドアロックスイッチ

① ドアロックスイッチ（施錠）
② ドアロックスイッチ（解錠）

車内から、すべてのドアとトランクをスイッチ操作で解錠 / 施錠することができます。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）②を押します。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）①を押します。

注　意　！

ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せたときは特に注意してください。

知　識

- ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内のドアレバーを引いてドアを開くと、他のドア、トランクも解錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップやグローブボックス、アームレストの小物入れは施錠されません。
- リモコン操作で施錠してあるときは、ドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。
- 助手席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。
- 運転席ドアが開いているときは、助手席ドアとトランクが解錠 / 施錠されます。
- ドアロックスイッチで車を施錠していても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると自動的に解錠されます。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（4-46）をご覧ください。

注 意 ！

- 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを 0 の位置にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

知 識

車速感応ドアロックにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると自動的に解錠されます。

トランク

知　識

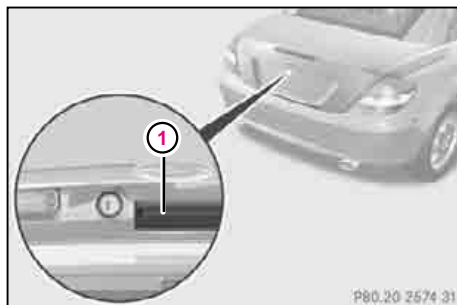
- トランク内にはラゲッジカバーがあります（3-47）。

  ラゲッジカバーのフックがホルダーに正しく固定されていないときはバリオルーフを開くことはできません。このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞ ｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞ ﾃｸﾀﾞｻｲ !" と表示されます。
- トランクが完全に閉じていないときはバリオルーフを開閉することはできません。このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マーク（10-6）が表示されます。
- トランクを開くと、トランク内部左側のトランクランプが点灯します。
- トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マーク（10-6）が表示されます。

注　意　！

- トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。
- トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。
- トランクに人を乗せないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。
- 貴重品は絶対に車内やトランク内に置いたままにしないでください。
- 強風のときにトランクを開くと、風にあおられ、トランクが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

  また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。
- トランクが開いているときでも、リモコン操作で施錠してからトランクを閉じると、トランクが施錠されます。トランク内のキーの閉じ込みに注意してください。

トランクを開く

① ハンドル

▶ ハンドル①を引きます。

トランクが少し開きます。

▶ トランクを引き上げます。

② トランクオープナーボタン

または

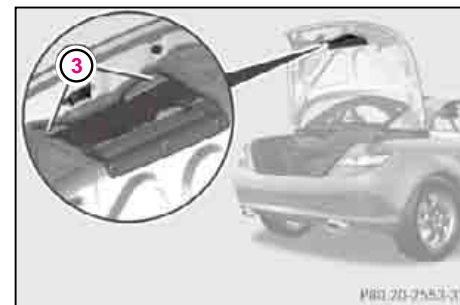
▶ キーのトランクオープナーボタン②を押し続けます。

トランクが少し開きます。

▶ トランクを引き上げます。

注　意　！

車の後部左側にあるアンテナを取り外すと、リモコン機能の感度が低下します。

トランクを閉じる

③ 凹部

▶ トランク内側の凹部③に手をかけ、トランクを下げてから、押さえます。

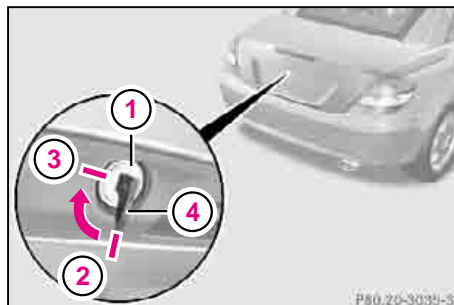
トランクの独立施錠

トランクを独立して施錠できます。

トランクを独立施錠しているときは、トランクハンドルや、キーのトランクオープナーボタンでトランクを開くことはできません。

また、キーの解錠ボタンやドアロックスイッチ（解錠）でトランクを解錠することはできません。

知　識

駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

① キーシリンダー
② 独立施錠解除位置
③ 独立施錠位置
④ エマージェンシーキー

トランクを独立施錠する

- ▶ トランクを閉じます。
- ▶ 図のようにトランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキー④（3-10）を差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキーを独立施錠位置③にまわします。
- ▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキーを抜きます。

知　識

エマージェンシーキーには方向性があります。

注　意　！

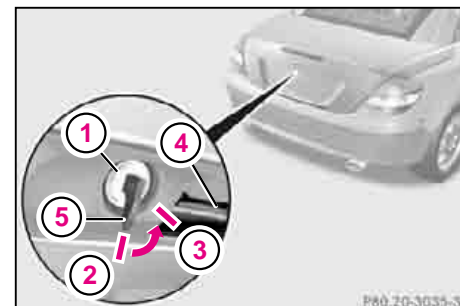
- エマージェンシーキーは、必ず図のような向きに差し込んでください。トランクを損傷するおそれがあります。
- トランクを開いた状態でも、左記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

独立施錠を解除する

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキー（3-10）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠解除位置②にまわします。

▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキーを抜きます。

エマージェンシーキーでのトランクの解錠

① キーシリンダー
② エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
③ 解錠の位置
④ ハンドル
⑤ エマージェンシーキー

トランク

リモコン操作でトランクを開いたり、解錠できないときはエマージェンシーキー（3-10）で解錠します。

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキー⑤を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置③にまわします。

▶ ハンドル④を引きます。

トランクが開きます。

▶ エマージェンシーキーを②の位置にまわして抜きます。

注 意 ！

- 盗難防止警報システム装備車では、エマージェンシーキーでトランクを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。警報を解除するには、キーの [解錠ボタン] か [施錠ボタン] を押すか、キーをエンジンスイッチに差し込みます。
- エマージェンシーキーで解錠したときはトランクを閉じると再び施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

知 識

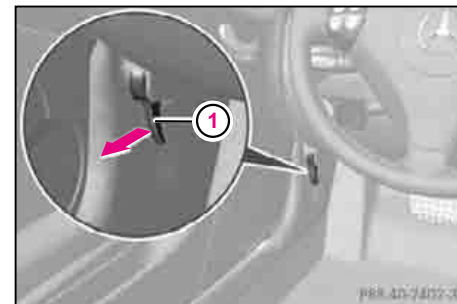
エマージェンシーキーでトランクを解錠しても、ドア、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れは解錠されません。

ボンネット

警　告

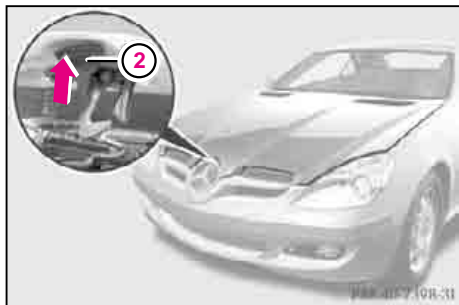
- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが **2** の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

  高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

左ハンドル車

① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

ボンネット

② ロック解除ノブ

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に押しながらボンネットを開きます。

知 識

開いた位置から押し上げると、ボンネットをさらに開くことができます。

注 意 !

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触し、損傷するおそれがあります。
- 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

  また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm ～ 30cm の位置で手を放して閉じます。

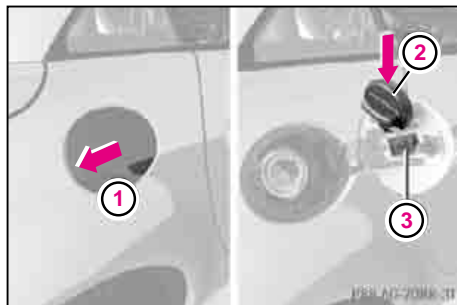
▶ 完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

警　告

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

注　意 ！

- ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。
- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。
- 盗難防止警報システム装備車では、ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

燃料給油口

① 燃料給油フラップ
② キャップ
③ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップを開く

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の位置を押します。

キャップを外す

▶ キャップ②を反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにゆっくりまわして外します。

▶ 外したキャップ②を燃料給油フラップの裏側にあるホルダーに置きます。

キャップを取り付ける

▶ キャップ②を燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいにまわします。

キャップがロックする音が聞こえます。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ①を押します。

警　告

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

注　意　!

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎると、燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。

  燃料が車の塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 燃料給油フラップが解錠されない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル③が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては **(8-16)** をご覧ください。
- 燃料給油フラップは、リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

盗難防止警報システム＊

① 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のときに、ドア、トランク、グローブボックス、アームレストの小物入れのいずれかが開けられるか、ボンネットのロックが解除されると、サイレンと非常点滅灯による警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

表示灯①が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

注 意 ！

- システムを待機状態にするときはボンネットが完全に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。
- システムが待機状態のときに車内からドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- システムを待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- ドアが開けられたとき
- トランクが開けられたとき
- グローブボックスやアームレストの小物入れが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

警報が作動すると、ホーンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。

また、ルームランプも約 5 分間点灯します。

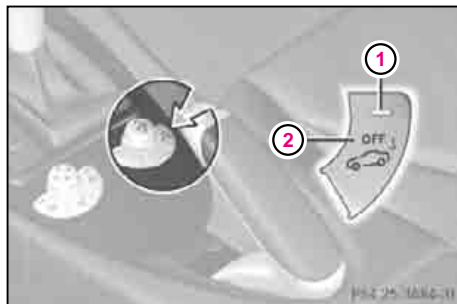
知　識

リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠して開くと、警報が作動します。

警報が作動したときの解除方法

▶ キーの 🔓 か 🔒 を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

知　識

ドア、トランク、グローブボックス、アームレストの小物入れなどを開くか、ボンネットのロックを解除して警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

けん引防止警報機能＊

左ハンドル車

① 表示灯

② けん引防止警報機能解除スイッチ

盗難防止警報システムが待機状態のとき、けん引などで車が持ち上げられて車が傾くと、けん引防止警報機能が作動して、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

けん引防止警報機能を待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

約 30 秒後にけん引防止警報機能が自動的に待機状態になります。

けん引防止警報機能の待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

知　識

けん引防止警報機能が待機状態のときにジャッキアップすると、警報が作動する場合があります。

警報が作動したときの解除方法

▶ キーの [解錠ボタン] か [施錠ボタン] を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

車を立体駐車場に入れたり、カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するときは、けん引防止警報機能が作動することがあります。そのようなときはけん引防止警報機能を解除してから施錠してください。

けん引防止警報機能を解除する

▶ エンジンスイッチを **0** か **1** の位置にします。またはキーを抜きます。

▶ けん引防止警報機能解除スイッチ②を押します。

表示灯①が数秒間点灯し、その後消灯して、けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

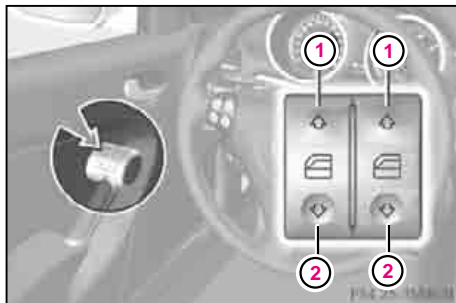
けん引防止警報機能が解除され、車が傾いても警報が作動しなくなります。

知　識

けん引防止警報機能を解除しても、盗難防止警報システムは作動します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
① 閉じる
② 開く

ドアウインドウスイッチは左右のドアにあります。

運転席ドアには、左右のドアウインドウのスイッチがあります。

エンジンスイッチが 1 か 2 の位置のときに、ドアウインドウを開閉することができます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチの②の部分を軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチの②の部分をいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチの①の部分を軽く押します。

押している間だけ閉じます。

スイッチの①の部分をいっぱいまで押すと、自動で閉じます。

知　識

- ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを押すと、その位置で停止します。
- エンジンスイッチを **0** の位置にするかエンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間はドアウインドウを開閉することができます。約 5 分以内にドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。
- リモコン操作でドアウインドウを開閉することができます＊。詳しくは **(3-11)** をご覧ください。
- ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。ドアウインドウが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止し、その位置から少し下降します。
- 運転席のドアウインドウは、挟み込み防止機能が作動してから約 5 秒以内に再度閉じたときは挟み込みを感知しません。

注　意！

- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。
- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームのすき間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたときは、ドアウインドウが自動で開閉できなくなることがあります。このときは、スイッチの①の部分を軽く押して全閉にし、そのまま 2 秒以上保持してください。この操作を左右のドアウインドウで行なってください。再び、ドアウインドウが自動で開閉できるようになります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

バリオルーフスイッチでの開閉

左ハンドル車
① バリオルーフスイッチ

バリオルーフスイッチでドアウインドウとリアクォーターウインドウを開閉することができます。

エンジンスイッチが 2 の位置のときに操作できます。

バリオルーフが閉じているときにドアウインドウとリアクォーターウインドウを開く

▶ バリオルーフスイッチ①を後方に素早く 2 度押します。

ドアウインドウとリアクォーターウインドウが自動で開きます。

バリオルーフが開いているときにドアウインドウを開く

▶ バリオルーフスイッチ①を後方に素早く 2 度押します。

ドアウインドウが自動で開きます。

注 意 ！

ドアウインドウやリアクォーターウインドウを開くときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームのすき間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

知 識

- ドアウインドウやリアクォーターウインドウが自動で開いているときに、バリオルーフスイッチを操作すると、その位置で停止します。
- バリオルーフスイッチを操作して開いたドアウインドウは、ドアウインドウスイッチで閉じることができます。
- バリオルーフスイッチを操作して開いたリアクォーターウインドウは、ドアウインドウスイッチで閉じることができません。バリオルーフスイッチを操作して閉じてください。

左ハンドル車

① バリオルーフスイッチ

バリオルーフが閉じているときにドアウインドウとリアクォーターウインドウを閉じる

▶ バリオルーフスイッチ①を前方に素早く 2 度押して保持します。

押している間だけドアウインドウが閉じます。ドアウインドウが閉じた後、リアクォーターウインドウが押している間だけ閉じます。

または

▶ バリオルーフスイッチ①を前方に 1 度押して保持します。

リアクォーターウインドウが押している間だけ閉じます。

注　意　！

ドアウインドウやリアクォーターウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。

バリオルーフが開いているときにドアウインドウを閉じる

▶ バリオルーフスイッチ①を前方に素早く 2 度押して保持します。

押している間だけドアウインドウが閉じます。

バリオルーフ

警　告

- バリオルーフを開閉するときは、ルーフやトランク、ドアウインドウやリアクォーターウインドウなど作動する部分に触れないでください。また、それらが作動する範囲に障害物がないことも確認してください。
- 身体や物が挟まれそうになったときは、バリオルーフスイッチから手を放してください。バリオルーフの作動が停止します。
- 万一のとき以外はバリオルーフの開閉操作を途中で停止しないでください。けがをしたり、ルーフを損傷するおそれがあります。

  開閉操作を途中で停止すると、以下の時間が経過した後に油圧装置の圧力が低下し、ルーフが倒れ込みます。

  ◇エンジンスイッチが **2** の位置のときは約 7 分

  ◇エンジンスイッチが **2** 以外の位置、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは約 10 秒

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻｶﾞﾘﾏｽ !" と表示されます。
- バリオルーフは必ずトランク内に確実に収納するか、または完全に閉じている状態にしてください。

バリオルーフ

注　意　！

- バリオルーフの開閉は停車しているときに行なってください。
- バリオルーフを開閉するとき、ルーフは上方に、トランクは後方に動きます。上方および後方、ルーフやトランクの作動範囲に十分な空間があることを確認してください。
- ルーフラックを装着しているときは、バリオルーフを作動させないでください。
- ロールバーの後方に腰掛けたり重い物を置かないでください。
- 車を離れるときは、盗難を避けるため、必ずバリオルーフを閉じ、ドア、ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、トランクなどが閉じていること、各部が施錠されていることを確認してください。
- バリオルーフ開閉時にルーフや荷物を損傷させないため、以下の点に注意してください。

  ◇荷物をラゲッジカバーより高く積み上げないでください。

  ◇ラゲッジカバーの上や前方に物を置かないでください。

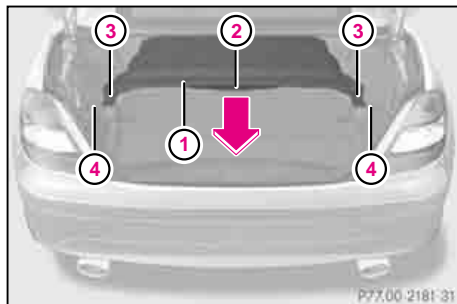
  ◇ラゲッジカバーが荷物に押し上げられないようにしてください。

  ◇ロールバーの後方に物を置かないでください。
- 気温が約－ 15℃以下のときはバリオルーフを開閉しないでください。
- バリオルーフを開閉するときは、トランクおよびラゲッジカバーが閉じていることを確認してください。
- バリオルーフ開閉中にトランクハンドルを操作しないでください。
- トランクが完全に閉じていないときはバリオルーフを開閉することはできません。このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マーク（**10-6**）が表示されます。

知　識

リモコン操作でバリオルーフを開閉することができます＊。詳しくは（**3-11**）をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ラゲッジカバー

① ラゲッジカバー
② ハンドル
③ フック
④ ホルダー

ラゲッジカバーを開く

▶ ハンドル②を握ってロックを解除し、フック③をホルダー④から外します。

ラゲッジカバー①が奥に引き込まれます。

この状態のときには、バリオルーフを開くことはできません。

ラゲッジカバーを閉じる

▶ ハンドル②を持ってラゲッジカバー①を矢印の方向に引き出し、両端のフック③をホルダー④にかけます。

この状態のときに、バリオルーフを開くことができます。

知　識

フックがホルダーに正しく固定されていないときに、バリオルーフを開こうとすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞ ｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

バリオルーフを開く

左ハンドル車
① バリオルーフスイッチ

注　意　!

バッテリーあがりを防ぐため、バリオルーフを操作するときはできるだけエンジンをかけてください。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ セレクターレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ バリオルーフスイッチ①を後方に押して、そのまま保持します。

バリオルーフが開きはじめます。

マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されます。

バリオルーフが完全に開いたあと、ドアウインドウが閉じます。

注　意　!

- バリオルーフを開く前に以下の点を確認してください。

  ◇トランク内のラゲッジカバーが引き出され、両端のフックがホルダーにかかっていること

  ◇トランクが正しく閉じていること

  ◇ロールバーの後方に物が置かれていないこと

- バリオルーフやリアウインドウが濡れているときにバリオルーフを開くと車内に水が入ることがあります。バリオルーフを開くときは、バリオルーフやリアウインドウの水滴を拭き取ってください。

- バリオルーフを開いているときに、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは（**10-11**）をご覧ください。

注　意　!

- 以下のときはルーフがトランクに正しく収納されていません。

  ◇マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されているとき

  ◇発進時や走行中に、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ/ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ" と表示され、警告音が約 10 秒ほど鳴ったとき

  このときは、停車してバリオルーフスイッチ①を後方に押し、バリオルーフを完全に開いてください。

- バリオルーフの動きに連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも開閉します。

バリオルーフを閉じる

左ハンドル車
① バリオルーフスイッチ

注　意　!

バッテリーあがりを防ぐため、バリオルーフを操作するときはできるだけエンジンをかけてください。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ セレクターレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ バリオルーフスイッチ①を前方に押して、そのまま保持します。

バリオルーフが閉じはじめます。

マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されます。

バリオルーフが完全に閉じたあと、ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じます。

バリオルーフ

注 意 !

- バリオルーフを閉じる前に以下の点を確認してください。

  ◇トランク内のラゲッジカバーが引き出され、両端のフックがホルダーにかかっていること

  ◇トランクが正しく閉じていること

  ◇ロールバーの後方に物が置かれていないこと

- シートやシート後方のスペースには、バリオルーフが閉じてきたときに干渉するおそれのある物を置かないでください。また、サンバイザーをフックから外した状態でバリオルーフを閉じると、バリオルーフとサンバイザーが当たり、損傷するおそれがあります。

- 以下のときはバリオルーフが完全に閉じていません。

  ◇マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されているとき

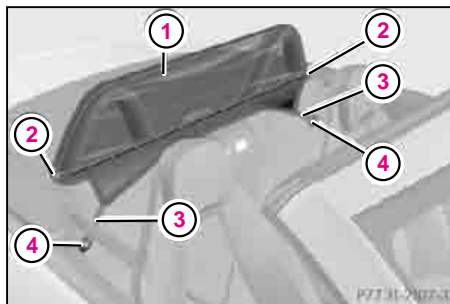
  ◇発進時や走行中に、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ/ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ" と表示され、警告音が約 10 秒ほど鳴ったとき

  このときは、停車してバリオルーフスイッチ①を前方に押し、バリオルーフを完全に閉じてください。

- バリオルーフの動きに連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも開閉します。

- バリオルーフを閉じているときに、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは **(10-11)** をご覧ください。

ドラフトストップ

ドラフトストップは、バリオルーフを開いて走行するときに生じる風を整流するための装備です。車内への風の巻き込みを減少させます。

① ドラフトストップ
② ホック
③ ロープ
④ フック

ドラフトストップを取り付ける

▶ 左右のシートを前方に移動するか、バックレストを前方に倒します。

▶ 左右のロープ③を、ホック②が外側を向くようにして、フック④にかけます。

▶ 左右のホック②をロールバーに固定します。

▶ ドラフトストップ①をロールバーにかぶせます。

注　意　！

- ドラフトストップ①をロールバーにかぶせてから、ホック②を固定しないでください。ドラフトストップを損傷するおそれがあります。
- ドラフトストップ①をロールバーにかぶせるときは、ネット部分ではなく、縁の部分を持つようにしてください。ドラフトストップを損傷するおそれがあります。

ドラフトストップを取り外す

▶ ドラフトストップ①をロールバーから外します。

▶ ホック②を外します。

▶ ロープ③をフック④から外します。

警　告

- ドラフトストップは必要なときだけ使用するようにしてください。以下の場合は、ドラフトストップを使用しないでください。
  - ◇ 後方視界が十分に確保できない場合
  - ◇ 周囲が暗い場合
- バリオルーフを閉じて走行するときは、ドラフトストップを使用しないでください。後方視界の妨げになるおそれがあります。

注　意　！

自動防眩ルームミラー装備車では、ドラフトストップを装着したときなど、ルームミラーが後続車のライトに照射されない場合は、ミラーの自動防眩機能は作動しません。十分注意して走行してください。事故を起こすおそれがあります。

ルームミラー

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

注　意　！

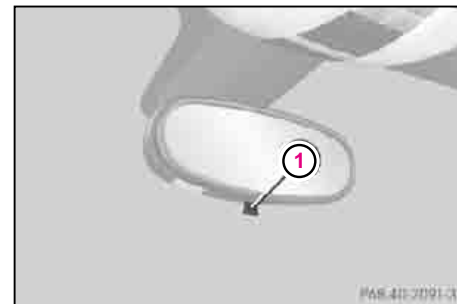
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。
- ルームミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラーの調整

自動防眩ルームミラー装備車

ルームミラーを調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

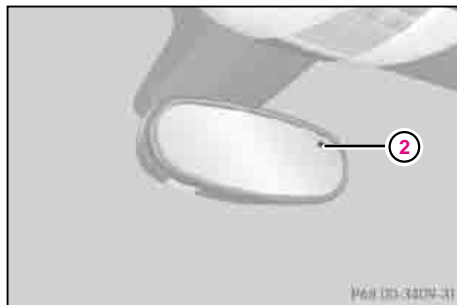
ルームミラーの手動防眩＊

① ノブ

ルームミラーを防眩にする

▶ ノブ①を手前に引きます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ルームミラー

自動防眩機能＊

② センサー

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置で周囲が暗いときに、ルームミラーのセンサー②が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

知 識

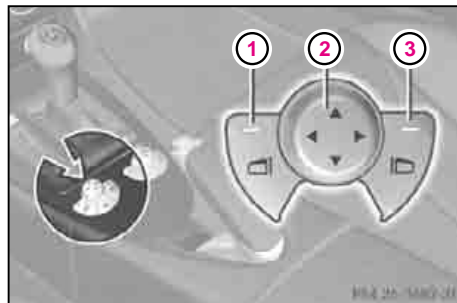
- ルームミラーのセンサー②に後方からのライトが当たらないときは、自動防眩機能は作動しません。
- セレクターレバーが **R** に入っているときやルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。
- ルームミラーと連動して運転席側のドアミラーも自動防眩になります。

注 意 !

- ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。
- 万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- ドラフトストップを装着したときなど、ルームミラーが後続車のライトに照射されない場合は、自動防眩機能は作動しません。十分注意して走行してください。事故を起こすおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ドアミラー

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車

① 運転席側ドアミラー選択ボタン
② 調整スイッチ
③ 助手席側ドアミラー選択ボタン

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整したい側のドアミラー選択ボタン①または③を押します。

ボタンの表示灯が点灯します。

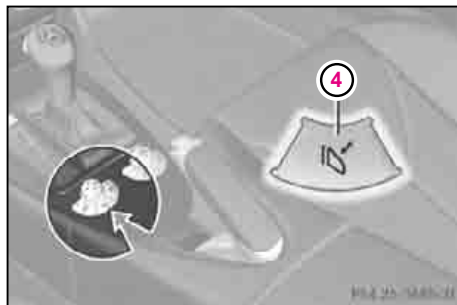
▶ ドアミラー選択ボタンの表示灯が点灯しているときに、調整スイッチ②を操作してドアミラーの角度を調整します。

注　意　!

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

知　識

- ドアミラー選択ボタン①③の表示灯は、何も操作しないと約15 秒後に消灯します。
- ドアミラーにはヒーターが装着されています。リアデフォッガー **(6-12)** を作動させたときや外気温度が下がったときは自動的に温められ、凍結を防ぎます。
- ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます **(3-16)**。
- 自動防眩ルームミラー装備車の運転席側ドアミラーは、ルームミラーに連動して自動防眩になります **(3-54)**。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車
④ 格納 / 展開スイッチ

エンジンスイッチが 1 か 2 の位置のときに操作することができます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納 / 展開スイッチ④を押します。

ドアミラーを展開する

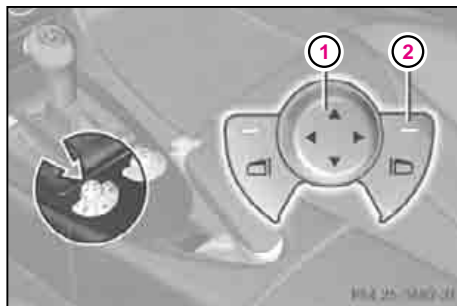
▶ 再度、格納 / 展開スイッチ④を押します。

注 意 !

- ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行するときはドアミラーを展開してください。
- ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。
- ドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによってはドアミラーが変色するおそれがあります。
- 走行時はドアミラーが完全に展開していることを確認してください。ドアミラーが振動して、後方視界が確保できなくなるおそれがあります。

知 識

- リモコン操作で施錠するときにドアミラーも連動して格納することができます。詳しくは(3-9)をご覧ください。
- 走行速度が約 50km/h 以上のときは、スイッチでドアミラーを格納することはできません。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

左ハンドル車
① 調整スイッチ
② 助手席側ドアミラー選択ボタン

助手席側ドアミラーが選択されているときにセレクターレバーを **R** に入れると、助手席側ドアミラーが自動的に下向きになり、車両後方下部の視界を確保して後退を容易にすることができます。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに作動します。

助手席側ドアミラーを記憶させていた角度にする

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ セレクターレバーを **R** に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶されていた角度になります。

知 識

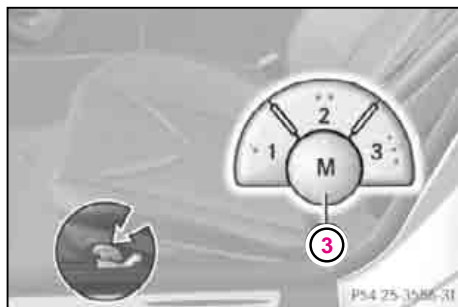
- 運転席側ドアミラーが選択されているときは、この機能は働きません。

  このときは、助手席側ドアミラー選択ボタンを押して、助手席側ドアミラーを選択してください。

- パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択ボタンの表示灯が点灯します。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- セレクターレバーを **R** の位置から他の位置に入れて約 10 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタンを押したとき

後退時のドアミラーの角度を記憶させる

左ハンドル車

③ メモリースイッチ

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

ボタンの表示灯が点灯します。

▶ 表示灯が点灯しているときに、調整スイッチ①で、後退時に自分が後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。

▶ 運転席シートのメモリースイッチ③を押します。

▶ 約 3 秒以内に調整スイッチ①をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

▶ 調整スイッチ①で走行時の角度に助手席ミラーを調整します。

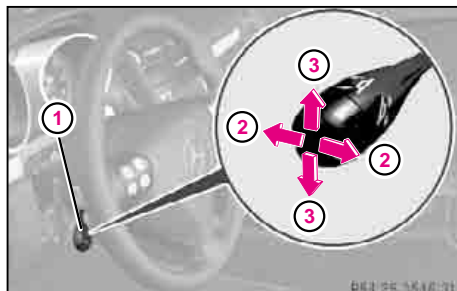
注　意　！

走行する前に、後方が十分確認できるように助手席側ドアミラーの角度を調整してください。

知　識

- 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。
- 助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

ステアリング

ステアリング位置の調整

① ステアリング調整レバー
② 前後位置の調整
③ 上下位置の調整

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、または運転席ドアが開いているときにステアリングの位置を調整することができます。

知　識

ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます(3-16)。

前後位置の調整をする

▶ レバー①を②の方向に操作します。

上下位置の調整をする

▶ レバー①を③の方向に操作します。

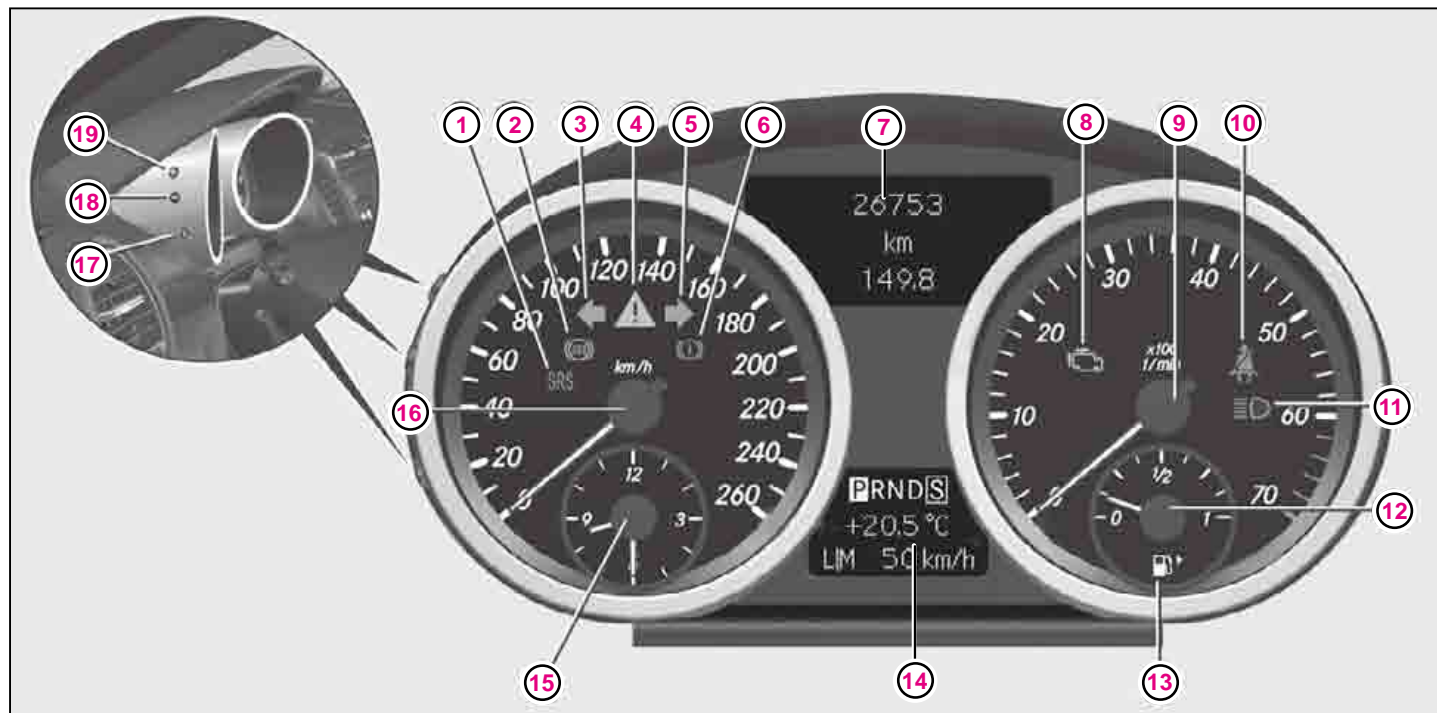
警　告

- ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。エンジンスイッチからキーを抜いてあっても、運転席ドアが開いているとステアリング調整レバーを操作することでステアリングが動き出し、ステアリングに挟まれるおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

注　意　!

- ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

メーターパネル

各部の名称

	名称	ページ
①	エアバッグシステム警告灯	3-62
②	ABS 警告灯	3-62
③	方向指示表示灯	3-62
④	ESP 表示灯	3-63
⑤	方向指示表示灯	3-62
⑥	ブレーキ警告灯	3-63
⑦	マルチファンクションディスプレイ（車両情報メイン画面）	3-63

	名称	ページ
⑧	エンジン警告灯	3-64
⑨	タコメーター	3-64
⑩	シートベルト警告灯	3-65
⑪	ハイビーム表示灯	3-65
⑫	燃料計	3-65
⑬	燃料残量警告灯	3-66
⑭	マルチファンクションディスプレイ（車両情報サブ画面）	3-66

	名称	ページ
⑮	時計	3-66
⑯	スピードメーター	3-67
⑰	リセットボタン	3-67
⑱ ⑲	メーター照度調整ボタン	3-67

① エアバッグシステム警告灯

SRS

エンジンスイッチを 1 の位置にすると数秒間点灯します。また、2 の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときや数秒後またはエンジン始動後に消灯しないとき、エンジンがかかっているときに点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席乗員検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システムの故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは（**2-10**）をご覧ください。

② ABS 警告灯

エンジンスイッチを 2 の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、BAS、ESP は作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは（**5-40**）をご覧ください。

注　意　！

ABS 警告灯が点灯したときは ESP、BAS も作動を停止します。指定サービス工場で点検を受けてください。

③⑤ 方向指示表示灯

方向指示灯や非常点滅灯を作動させたときに点滅します。

詳しくは（**5-28､29**）をご覧ください。

④ ESP 表示灯

エンジンスイッチを 2 の位置にすると点灯し (点灯しないときは表示灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。ESP の機能を解除したときに点灯します。また、ESP が作動したときに点滅します。

知 識

ESP の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP 表示灯が点滅しますが、ESP は作動しません。ただし、このときにブレーキを効かせると、ESP は自動的に作動します。

詳しくは (5-42) をご覧ください。

⑥ ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを 2 の位置にすると点灯し (点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

また以下のようなときに点灯します。

- ブレーキ液の量が不足しているとき
- パーキングブレーキを解除していないとき

注 意 !

- ブレーキ液の量が不足して点灯したときはブレーキシステムに漏れがあることが考えられます。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

⑦ マルチファンクションディスプレイ（車両情報メイン画面）

各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに表示されます。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき

  約 30 秒後に消灯します。
- リセットボタン、またはメーター照度調整ボタンを押したとき

  約 30 秒後に消灯します。
- エンジンスイッチを 1 か 2 の位置にしたとき

  エンジンスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒後に消灯します。
- 車外ランプが点灯したとき

  車外ランプが消灯してから約 30 秒後に消灯します。

詳しくは（4-5）をご覧ください。

⑧ エンジン警告灯

エンジンスイッチを 2 の位置にすると点灯し (点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

エンジンがかかっているときに点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

- エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限され、アクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- 燃料切れの場合にエンジン警告灯が点灯したときは、燃料を補給した後にエンジン始動を 3 〜 4 回繰り返すと、エマージェンシーモードが解除されます。

⑨ タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

注　意 ！

指針がレッドゾーン（赤色表示部）に入らないように運転してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジン回転数がレッドゾーンに入ると、エンジンを保護するため一時的に燃料の供給を停止します。このとき、軽い振動があったりアクセルペダルを踏んでも加速しなくなりますが、異常ではありません。

環　境

必要以上にエンジン回転数を上げないように走行してください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

⑩ シートベルト警告灯

エンジンスイッチを 2 の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

詳しくは（2-8）をご覧ください。

⑪ ハイビーム表示灯

ヘッドランプを上向きで点灯したときに点灯します。

⑫ 燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンク容量は約 70 リットルです。

注　意　！

給油のときはエンジンを停止してください。

⑬ 燃料残量警告灯

エンジンスイッチを 2 の位置にすると黄色に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に白色の点灯に戻ります。

エンジン始動後も黄色に点灯しているとき、またはエンジンがかかっているときに黄色に点灯したときは燃料の残量が少なくなっています。

警告灯が点灯したときの残量は約 9 リットル（SLK 55 AMG は約 10 リットル）です。

知　識

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

⑭ マルチファンクションディスプレイ（車両情報サブ画面）

シフト位置や外気温度などを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに表示されます。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき

  約 30 秒後に消灯します。

- リセットボタン、またはメーター照度調整ボタンを押したとき

  約 30 秒後に消灯します。

- エンジンスイッチを 1 か 2 の位置にしたとき

  エンジンスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒後に消灯します。

- 車外ランプが点灯したとき

  車外ランプが消灯してから約 30 秒後に消灯します。

詳しくは（4-6）をご覧ください。

⑮ 時計

時刻の設定については (4-36) をご覧ください。

⑯ スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイル（mph）に変更することもできますが、マイル表示にすると km/h 表示に比べ、同じ数字でも約 1.6 倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐため km/h 表示にしてください。

表示の切り替えについては**（4-33）**をご覧ください。

知　識

- 1 マイル (mph) は約 1.6km/ h です。
- マイル表示を選択すると、マルチファンクションディスプレイの表示もマイル表示になります。

⑰ リセットボタン

トリップメーターや各種設定をリセットします。

詳しくは**（4-5、9、12、23、27、31、37、50、51）**をご覧ください。

⑱⑲ メーター照度調整ボタン

周囲が暗いときにメーターパネルの明るさを調節できます。

- ▶ ⊕ボタン⑲を押すと明るくなります。
- ▶ ⊖ボタン⑱を押すと暗くなります。

ステアリングスイッチ

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	設定スイッチ / 音量スイッチ ＋ − 各種設定の設定グループ選択画面でグループを選択します。また、設定項目画面で数値や設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。 各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。 SLK 55 AMG では、レースタイマーが操作できます（4-21）。
③	通話開始 / 終了スイッチ (電話) 電話を受信 / 切断することができます。
④	表示切り替えスイッチ メイン画面を選択します。
⑤	スクロールスイッチ 選択したメイン画面内の各画面を切り替えます。

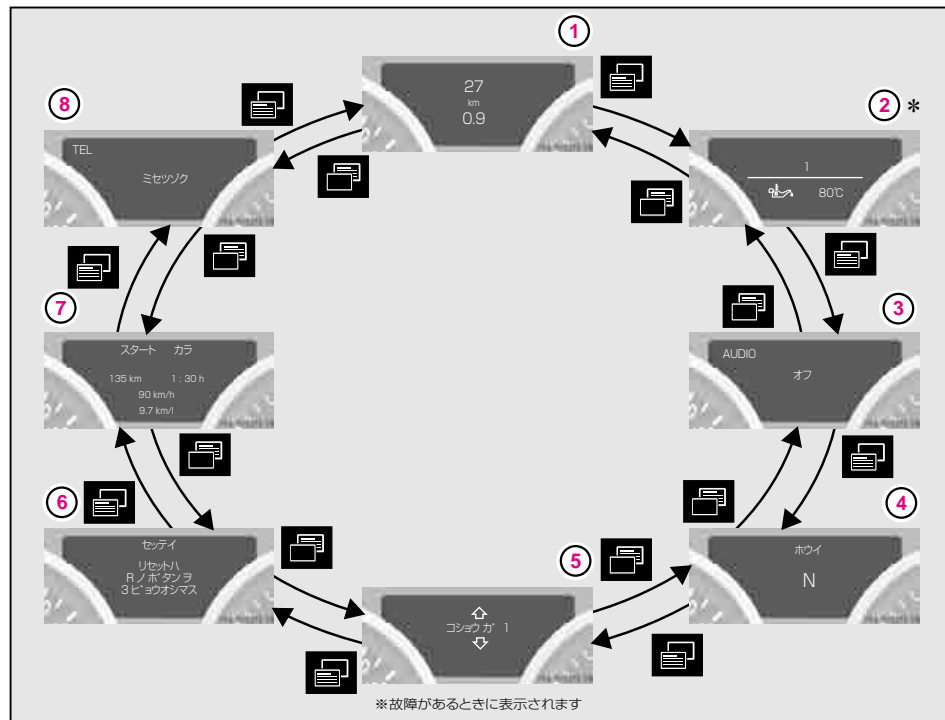
警　告

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

注　意　！

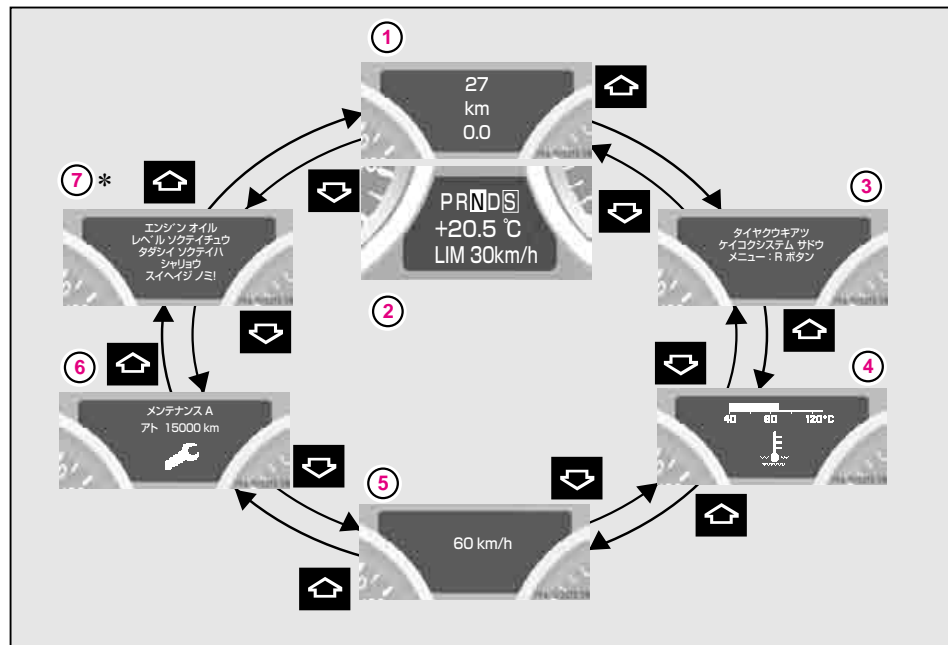
走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

メイン画面一覧

マルチファンクションディスプレイでは、車の情報や故障の表示および各種の設定をすることができます。

以下のように主要な機能が 8 種類あります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

車両情報

①	車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）	4-5
②	車両情報サブ画面（シフト位置表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示＊ / 走行モード表示 / 外気温度表示 / 走行速度表示 / クルーズコントロール表示 / 可変スピードリミッター表示）	4-6
③	タイヤ空気圧警告システム画面	4-7
④	冷却水温度画面	4-10
⑤	走行速度 / 外気温度表示画面	4-11
⑥	メンテナンスインジケーター画面	4-12
⑦	エンジンオイル量点検画面＊	4-15

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）

① トリップメーター
② オドメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

トリップメーター

リセット後の走行距離を表示します。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0 に戻す）

▶ リセットボタン（**3-67**）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報サブ画面

① シフト位置表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示＊
② 走行モード表示
③ 外気温度 / 走行速度表示
④ クルーズコントロール / 可変スピードリミッターの設定速度表示

シフト位置表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示＊

オートマチックトランスミッションのシフト位置を表示します **(5-6)**。

ティップシフトのときは選択しているギアレンジを表示します **(5-9)**。

マニュアルギアシフト＊のときは選択しているギアを表示します **(5-13)**。

走行モード表示

オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します **(5-7)**。

外気温度 / 走行速度表示

外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メータークラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 " **(4-34)** で行ないます。

クルーズコントロール / 可変スピードリミッターの設定速度表示

クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターで設定した速度を表示します。

詳しくは **(5-52)** をご覧ください。

警　告

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

注　意　!

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

タイヤ空気圧警告システム画面

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

警　告

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、4 本のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（8-16）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

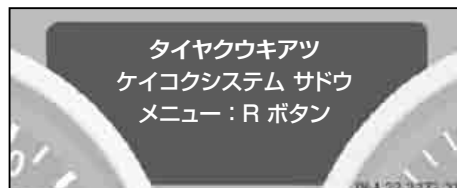
警　告

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

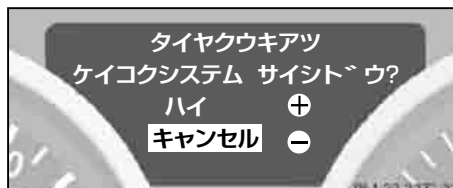
知　識

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ ﾃﾞ ｼﾖｳｶﾉｳ" と表示されたときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます **(4-5)**。

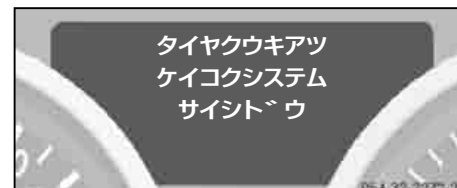
▶ または を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

" ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ：R ﾎﾞﾀﾝ " と表示されます。

タイヤクウキアツ
ケイコクシステム サイシト゛ ウ?
ハイ
キャンセル

▶ リセットボタン **(3-67)** を押します。

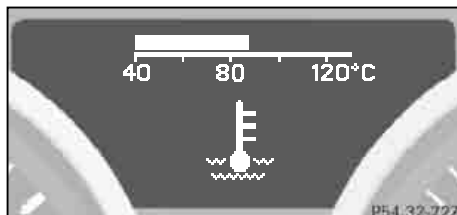
マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ？" と表示されます。

知 識

マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ？" と表示されてから、約 15 秒経過すると、再起動は中断されます。

▶ を押して、" ハイ " を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ " と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

冷却水温度画面

エンジンの冷却水温度を表示します。

冷却水温度画面を表示させる

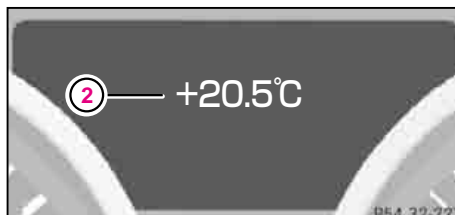
▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます (4-5)。

▶ [△] または [▽] を押して、冷却水温度画面を表示させます。

知　識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃ まではオーバーヒートは起こしません。
- 暑い日や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ (10-8､9) が表示されない限り、問題ありません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度表示
② 外気温度表示

走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メーター クラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 " **(4-34)** で行ないます。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます **(4-5)**。

▶ [▲] または [▼] を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

知 識

- 走行速度の表示単位を km/h 表示または mph 表示に切り替えることができます **(4-33)**。
- 各種設定の " メータークラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 " **(4-34)** で " ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ " を選択すると、この画面は走行速度表示になります。

  " 車両情報サブ画面の表示設定画面 " で " ｿｸﾄﾞ " を選択すると、この画面は外気温度表示になります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備実施日の約1カ月前になると、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタンを押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面は手動でも表示できます。

手動で表示させる

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます **(4-5)**。

▶ [▲] または [▼] を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。# には A から H までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

点検実施時期を過ぎたときは、以下のようなメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｦ ｺｴﾏｼﾀ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｦ ｺｴﾏｼﾀ "

注　意　！

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

知　識

走行速度の表示単位を mph 表示に切り替えると、メンテナンスインジケーター画面に " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ ﾋｮｳｼﾞ ﾃﾞｷﾏｾﾝ " と表示されることがあります。このときは、走行速度の表示単位を km/h 表示に切り替えると、数分後に通常の表示に戻ります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

知　識

- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽA"、"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ" の後に表示される A から H のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。
- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽA ＋"、"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ＋" など、A から H のアルファベットの後に "＋" の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。
- ブレーキパッドは次回のメンテナンス以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、指定サービス工場で相談の上、以下のように対処してください。

  ◇ 今回のメーカー指定点検整備で交換する

  ◇ 後日に別途交換する
- メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

  エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

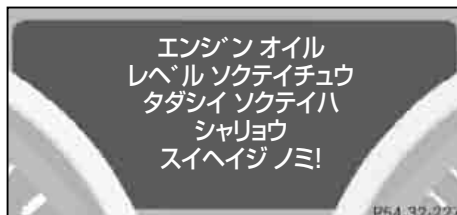
メーカー指定点検整備後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

注　意　！

メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジンオイル量点検画面＊

エンジンオイルの量を点検し、表示します。

注 意 ！

運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

※ SLK 200、SLK 280、SLK 350 は、エンジンオイルレベルゲージ **(8-8)** でエンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイル量の点検

▶ 安全で水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、約 5 分待ちます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます **(4-5)**。

▶ [△] または [▽] を押して、エンジンオイル量点検画面を表示させます。

"ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲﾁｭｳ ﾀﾀﾞｼｲ ｿｸﾃｲﾊ ｼｬﾘｮｳ ｽｲﾍｲｼﾞ ﾉﾐ!" と表示されます。

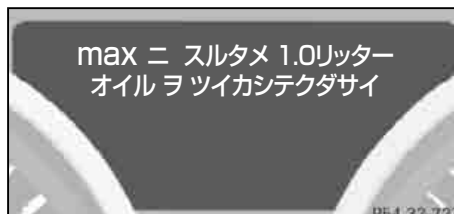
知 識

エンジンを停止してからの待ち時間が足りないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｦ ﾏﾓｯﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

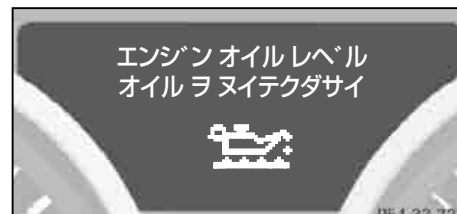
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

点検結果に応じて、次のいずれかのメッセージが表示されます。

このときは、エンジンオイル量は適正です。

このときは、エンジンオイルを約 1.0 リットル補給してください。

知　識

- エンジンオイル量に応じて、表示される数値が変わります。
- エンジンオイルの補給については（**8-9**）をご覧ください。

このときは、エンジンオイルが多すぎます。

運転はしないで、エンジンオイルの量を適正にしてください。

注　意　！

エンジンオイルが多すぎると、エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

このときは、エンジンオイルレベルが安定していません。

約 5 分ほど待ってから点検をやり直してください。

再度マルチファンクションディスプレイに " ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｦ ﾏﾓｯﾃ ｸﾀﾞｻｲ !" と表示されたときは、約 30 分ほど待ってから点検をやり直してください。

注 意 !

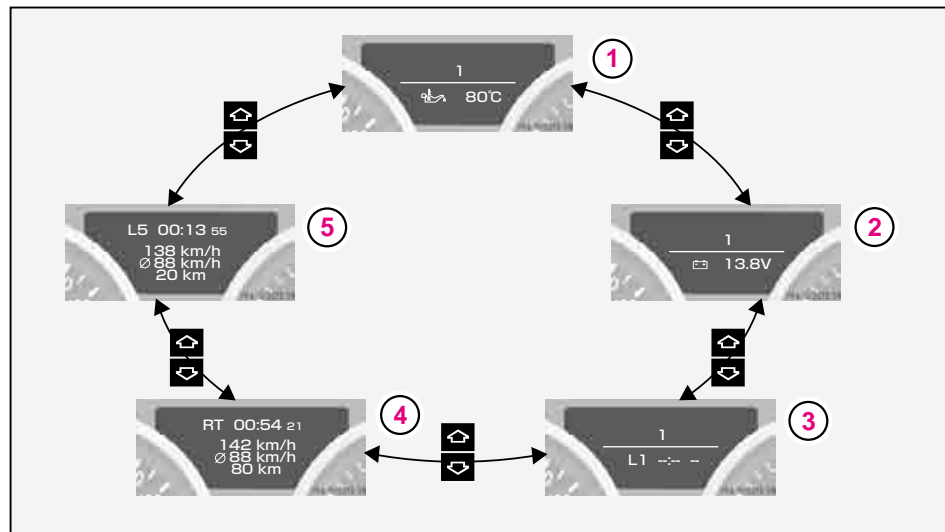
エンジンがかかっているときに、マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **(10-9、10)** をご覧ください。

知 識

- マルチファンクションディスプレイに " ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ !" と表示されたときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。
- エンジンがかかっているときは、エンジンオイル量を点検できません。マルチファンクションディスプレイに " ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ !" と表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

AMG 表示

AMG 表示＊

①	ギア表示・油温表示画面	4-19
②	ギア表示・電圧表示画面	4-20
③	ギア表示・レースタイマー画面	4-21
④	計測結果表示画面（全ラップ）	4-24
⑤	計測結果表示画面（ラップ別）	4-25

※ AMG 表示は、SLK 55 AMG のみ表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ギア表示・油温表示画面

① ギア表示
② 油温表示

ギア表示・油温表示画面を表示させる

▶ [button] または [button] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます。

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

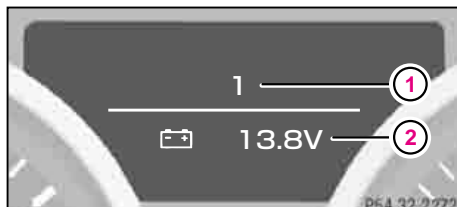
油温表示②は、エンジンオイルの油温を表示します。

注　意！

油温表示画面のマークが点滅しているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約 80℃未満になっています）。このときは必要以上にエンジン回転数を上げないように運転してください。

知　識

エンジンスイッチが **1** の位置のときは、油温表示画面は表示されません。このときは " ーーー℃ " が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ギア表示・電圧表示画面

① ギア表示
② 電圧表示

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

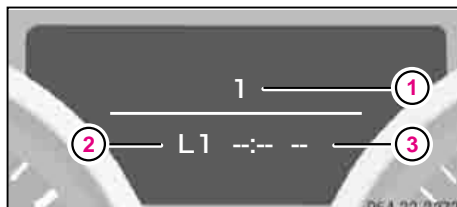
電圧表示②は、バッテリーの電圧を表示します。

ギア表示・電圧表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（4-19）。

▶ [▲] または [▼] を押して、ギア表示・電圧表示画面を表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ギア表示・レースタイマー画面

① ギア表示
② ラップ表示
③ 計測タイム

ギア表示・レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

レースタイマーは、エンジンスイッチが **2** の位置のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

ギア表示・レースタイマー画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます **(4-19)**。

▶ [△] または [▽] を押して、ギア表示・レースタイマー画面を表示させます。

知　識

- 計測タイムは 1 秒単位で表示されます。
- ギア表示・レースタイマー画面を表示させているときは、[+] または [−] を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイム計測を開始する

▶ ＋ を押します。

タイム計測が開始されます。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に ＋ を押します。

タイム計測が停止します。

知　識

- タイム計測を停止しているときに ＋ を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。
- タイム計測中に、停車してエンジンスイッチを **1** の位置にすると、タイム計測が停止します。

  その後、エンジンスイッチを **2** の位置にするかエンジンを始動して ＋ を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に − を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

知　識

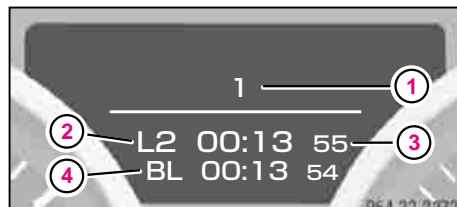
スプリットタイムを表示しているときに再度 − を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます（**4-23**）。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに − を押します。

計測タイムが消去され、表示が 00:00₀₀ に戻ります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップタイムを記録する

① ギア表示
② ラップ数
③ 計測タイム
④ 最速ラップタイム

最大 9 件までの計測タイムをラップタイムとして記録することができます。

▶ タイム計測中に ━ を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 ━ を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

知　識

- ラップタイムが記録されているときは、計測タイム③の下に最速ラップタイム④が表示されます。
- ラップタイムが 9 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムを消去してください。

記録したラップタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに、リセットボタン（3-67）を 2 回押します。

記録したすべてのラップタイムが消去され、表示が 00:00 00 に戻ります。

知　識

- 記録したラップタイムを個別に消去することはできません。
- エンジンスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒経過すると、計測タイムとラップタイムは消去されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）

① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの平均速度
④ 計測した全ラップの総走行距離

2 周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測後に計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます(4-19)。

▶ [△] または [▽] を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を表示させます。

知　識

タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）

① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップの平均速度
⑤ 表示されているラップの走行距離

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測後にラップごとの結果を表示できます。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます (4-19)。

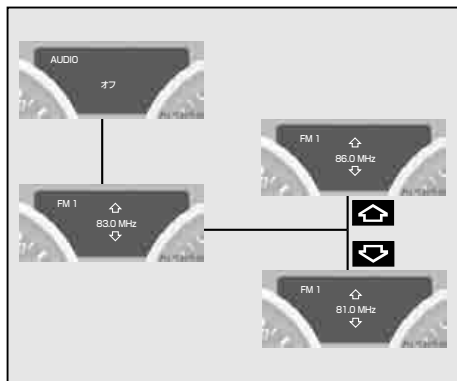
▶ [▲] または [▼] を押して、表示させたいラップの計測結果表示画面を選択します。

知　識

- 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。
- タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオ / ナビゲーション・進行方向方位表示

オーディオ

オーディオの使用時にそれぞれの情報を表示します。

オーディオのメイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

オーディオのメイン画面表示中に、[▲] または [▼] を押すと、ラジオの選局や CD の選曲などができます。

音量調節

▶ [+] または [−] を押すと、音量を調節できます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

ナビゲーション・進行方向方位表示

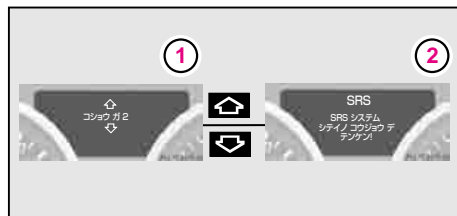
マルチファンクションコントローラーのナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示することができます。

ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障表示

故障表示画面

①	故障件数画面 （この例では、2件故障があります）
②	故障メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

知　識

故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

複数の故障があるときは、故障メッセージ画面が約5秒間隔で順番に表示されます。

[▲] または [▼] を押すか、リセットボタンを押すと、故障メッセージが消えます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障メッセージを手動で確認する

エンジンスイッチが 1 か 2 の位置のときに表示できます。

▶ [icon] または [icon] を押して、故障件数画面①を表示させせます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [icon] または [icon] を押して、故障メッセージ画面②を順番に表示させせます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを 0 の位置にすると、故障メッセージの表示が消えます。

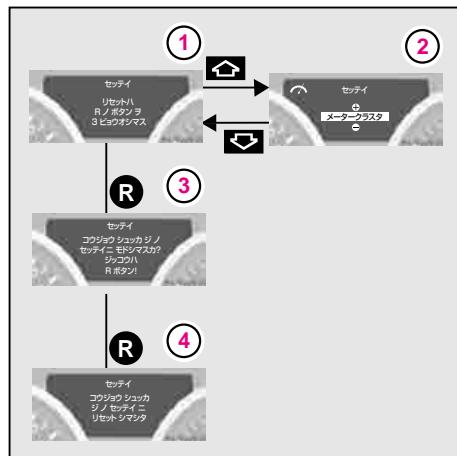
ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを 1 か 2 の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

注　意　！

- 表示される故障や不具合は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や不具合の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障 / 警告メッセージについては (10-3 ～) をご覧ください。

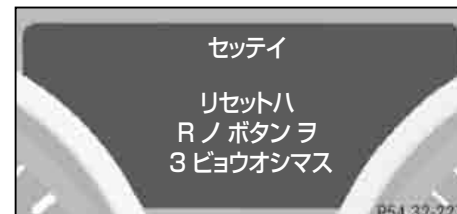
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

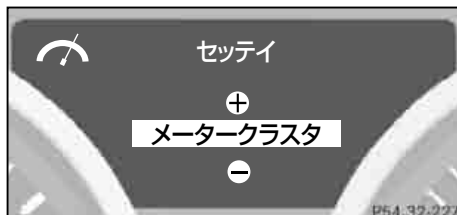
1 セッテイ リセットハ Rノ ボタン ヲ 3 ビョウオシマス
2 セッテイ + メータークラスタ −
R 3 セッテイ コウジョウ シュッカ ジ ノ セッテイニ モドシマスカ? ジッコウハ R ボタン!
R 4 セッテイ コウジョウ シュッカ ジ ノ セッテイ ニ リセット シマシタ

①	各種設定メイン画面	4-29
②	設定グループ選択画面	4-30
③	各種設定項目の初期化画面	4-31
④	各種設定項目の初期化完了画面	4-31

注　意　！

走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [−] を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、[△] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

設定項目画面を選択する

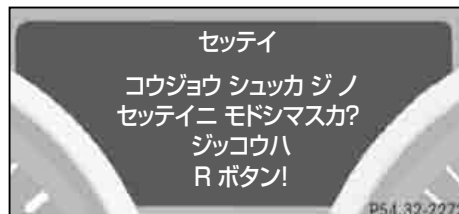
▶ [△] または [▽] を押して、設定項目画面を選択します。

設定項目画面の数値や設定を変更する

▶ [＋] または [−] を押して、数値や設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。

変更･選択した設定が記憶されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

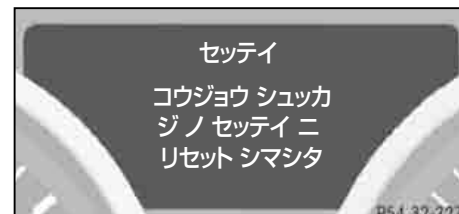
各種設定項目の初期化

初期化画面

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する (戻す) ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ [icon] または [icon] を押して、各種設定メイン画面を表示させます **(4-29)**。

▶ リセットボタン **(3-67)** を約 3 秒間押し続けます。

左記の初期化画面が表示されます。

初期化完了画面

▶ 初期化画面の表示中 (約 5 秒以内) に、リセットボタンを押します。

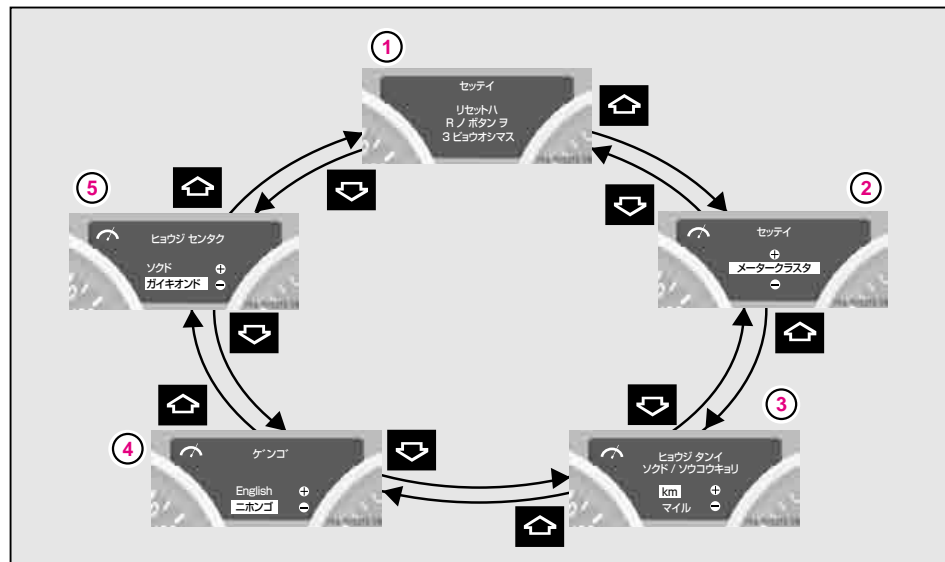
初期化が実行され、上記の初期化完了画面が表示されます。

知　識

- 初期化画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。
- 各種設定項目を初期化すると、設定グループ選択画面が表示されます。
- 走行中に初期化操作を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

メータークラスタ

①	各種設定メイン画面	4-29
②	設定グループ選択画面	4-30
③	速度・距離単位設定画面	4-33
④	ディスプレイ言語設定画面	4-34
⑤	車両情報サブ画面の表示設定画面	4-34

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [■] または [■] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます (4-29)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" メータークラスタ " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [△] を押します。

メータークラスタの最初の設定項目画面が表示されます。

速度・距離単位設定画面

スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示が km/h、km になります。
マイル	表示が mph、マイル、MI になります。

注 意 !

1 マイル (mph) は約 1.6km/h です。スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

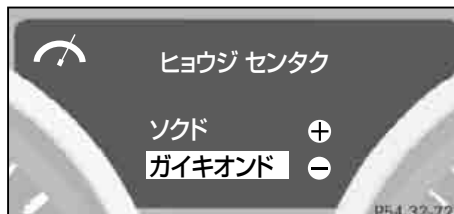
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

車両情報サブ画面の表示設定画面

車両情報サブ画面（4-6）に表示される項目の設定ができます。

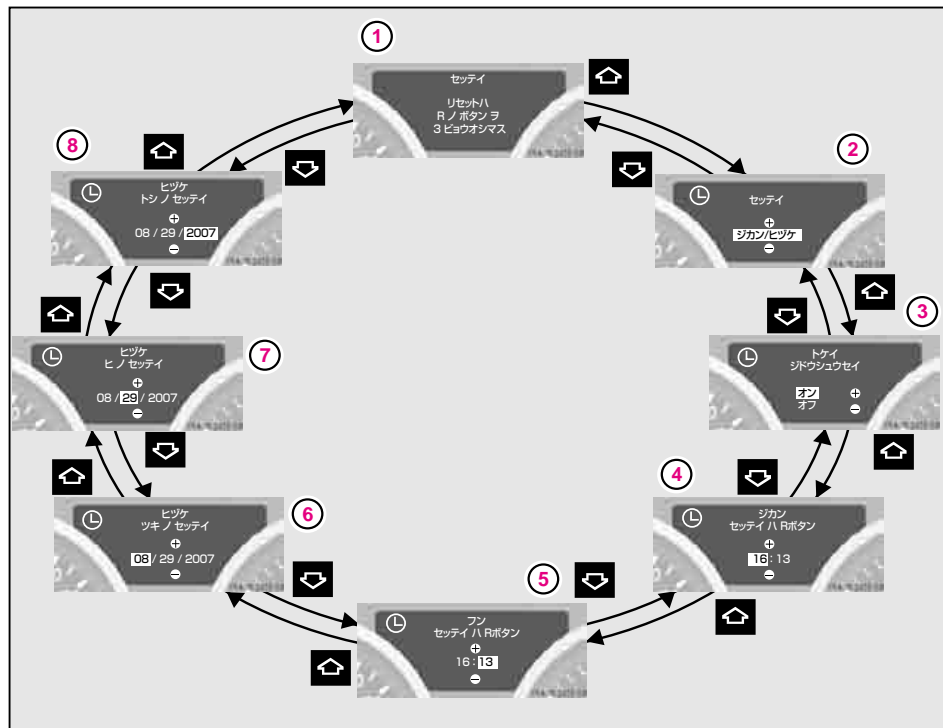
▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ソクド	車両情報サブ画面の表示が走行速度になります。
ガイキオンド	車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。

知　識

車両情報サブ画面の表示を切り替えると、走行速度 / 外気温度表示画面（4-11）の表示も切り替わります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ジカン / ヒヅケ

①	各種設定メイン画面	4-29
②	設定グループ選択画面	4-30
③	時刻の設定方法選択画面	4-36
④	時刻の設定画面（時）	4-37
⑤	時刻の設定画面（分）	4-37
⑥	日付の設定画面（月）	4-38
⑦	日付の設定画面（日）	4-38
⑧	日付の設定画面（年）	4-38

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます (4-29)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [ボタン] を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" ジカン / ヒヅケ " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [ボタン] を押します。

ジカン / ヒヅケの最初の設定項目画面が表示されます。

時刻の設定方法選択画面

メーターパネルの時計の時刻をマルチファンクションコントローラーの時刻に連動させせることができます。

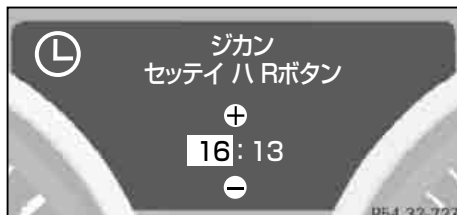
▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	メーターパネルの時刻がマルチファンクションコントローラーの時刻に連動します。
オフ	メーターパネルの時刻などを手動で設定します (画面④～⑧)。

知　識

オンを選択した場合、画面④～⑧は表示されません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

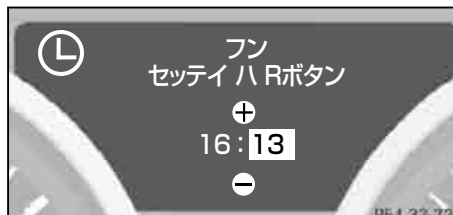
時刻の設定画面（時）

メーターパネルの時計の「時」を設定します。

▶ ＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。

続けて「分」を設定するときは、△ を押します。

▶ 設定を終了するときはリセットボタン **(3-67)** を押します。

時計の針が動き、修正した時刻に設定されます。

時刻の設定画面（分）

メーターパネルの時計の「分」を設定します。

▶ ＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。

続けて「月」を設定するときは、△ を押します。

▶ 設定を終了するときはリセットボタンを押します。

時計の針が動き、修正した時刻に設定されます。

知　識

- リセットボタンを押して時刻を設定すると、時計の針が早く回転したり、反時計回りに動くことがあります。
- マルチファンクションディスプレイに表示される時刻は、メーターパネルの時計の時刻です。
- 各種設定項目を初期化しても、時刻は工場出荷時の設定になりません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

日付の設定画面（月）

日付の「月」を設定します。

▶ ＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。

▶ 続けて「日」を設定するときは、⇧ を押します。

日付の設定画面（日）

日付の「日」を設定します。

▶ ＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。

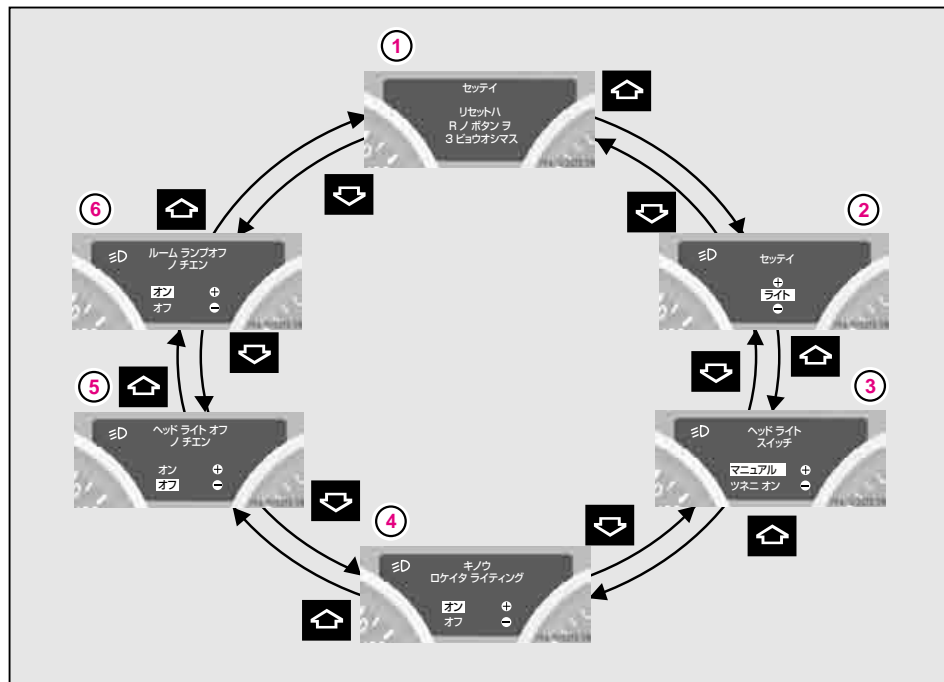
▶ 続けて「年」を設定するときは、⇧ を押します。

日付の設定画面（年）

日付の「年」を設定します。

▶ ＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ライト

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます (4-29)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

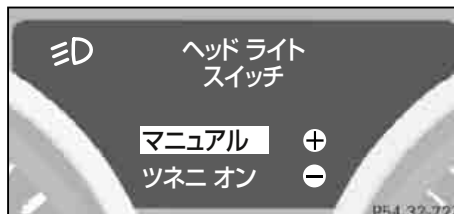
設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" ライト " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [△] を押します。

ライトの最初の設定項目画面が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
マニュアル	手動点灯モードです。ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。日本ではこのモードに設定してください。
ツネニ オン	常時点灯モードです。エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

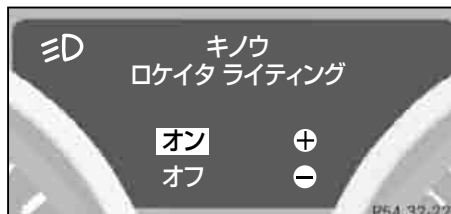
注　意　!

設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに " ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾁｭｳﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ " と表示されます。

知　識

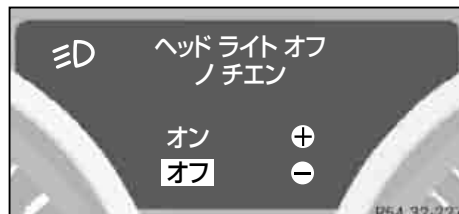
- 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。
- 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ **＋** または **－** を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは **(3-9)** をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

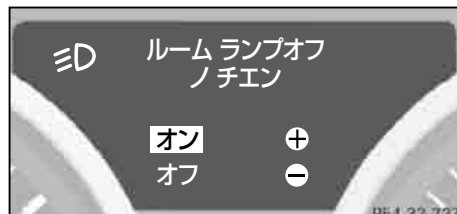
周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約15 秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは **(5-25)** をご覧ください。

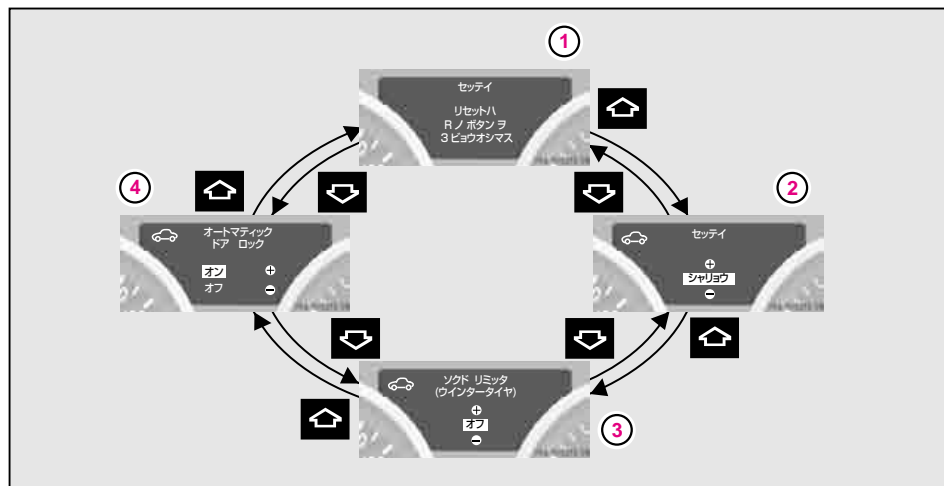
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは (6-14) をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	4-29
②	設定グループ選択画面	4-30
③	ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面	4-45
④	車速感応ドアロック設定画面	4-46

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ ] または [ ] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます(4-29)。

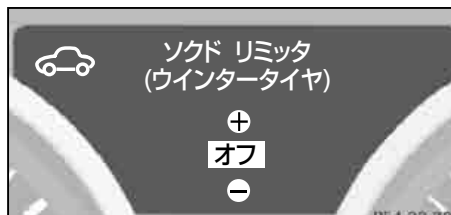
▶ 各種設定メイン画面①表示中に [⇧] を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" シャリョウ " を選択します。

▶ [⇧] を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

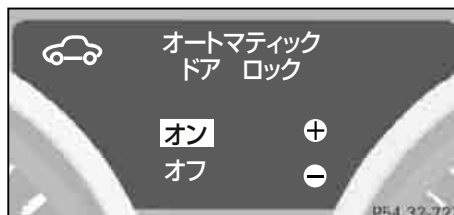
▶ [+] または [−] を押して、設定内容を切り替えます。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

知　識

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（5-50）で設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

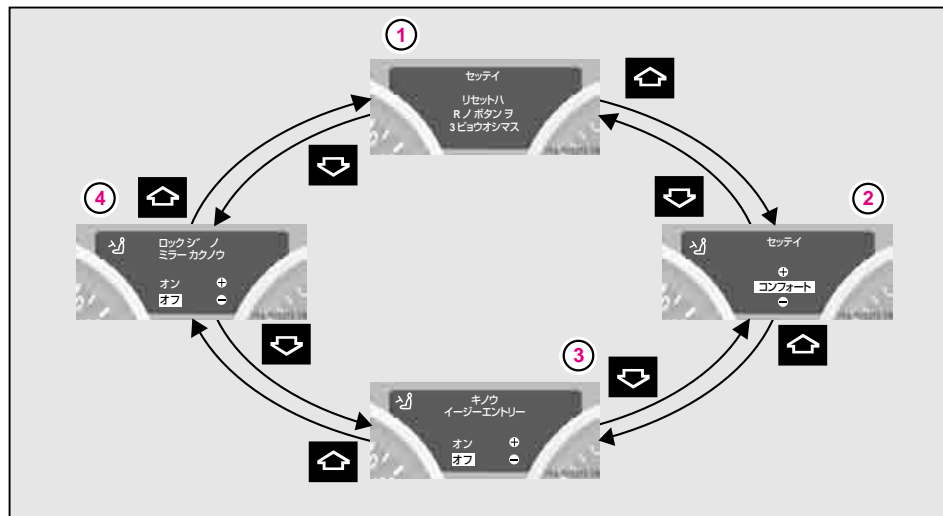
車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとトランクを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは (3-27) をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

コンフォート

①	各種設定メイン画面	4-29
②	設定グループ選択画面	4-30
③	イージーエントリー設定画面	4-48
④	施錠時のドアミラー格納設定画面	4-48

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます (4-29)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [⇧] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" コンフォート " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [⇧] を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面が表示されます。

イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ステアリングが上方に移動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは **(3-22)** をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納設定画面

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは **(3-9)** をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します。

エンジンスイッチを **0** の位置にしてから、またはキーを抜いてから約 4 時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

ショートトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターは、手動でもリセットすることができます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、リセットボタン **(3-67)** を押し続けて、表示をリセットします。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点として情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます **(4-50)**。

▶ [ボタン] を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、リセットボタン **(3-67)** を押し続けて、表示をリセットします。

知　識

リセット後、ロングトリップメーターは 99,999km 走行後、または 9,999 時間経過後に自動的にリセットされます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（**4-50**）。

▶ [▽] を押して、走行可能距離画面を表示させます。

注 意 ！

走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

電話画面を表示させる

▶ [icon] または [icon] を押して、電話画面を表示させます。

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ [icon] を押します。

電話を受信できます。

通話を終える（電話を切断する）

▶ ステアリングの通話終了スイッチ [icon] を押します。

電話を切断できます。

メモリー番号による電話の発信

メモリーしてある電話番号に電話をかけることができます。

▶ 電話画面表示中に、[icon] または [icon] を押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ [icon] を押します。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジンスイッチ

左ハンドル車

	作動内容
⓪	0：キーを差し込む / 抜く位置
①	1：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
②	2：走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
③	3：エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを③の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターがまわり続けて、エンジンが始動します。

タッチスタート

エンジンスイッチを 3 の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続けて、エンジンが始動します。

警　告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

注　意　！

- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差すことはできません。

知　識

- セレクターレバーが **P** に入っていないときはエンジンスイッチからキーを抜くことができません。
- エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。
- キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

ステアリングロック

ステアリングをロックする

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

ステアリングがロックされます。

ステアリングロックを解除する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

ステアリングのロックが解除されます。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動するとき

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが **P** に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

注 意 !

- エンジンは、セレクターレバーが **N** に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを **P** に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知 識

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

エンジンが始動しないとき

▶ セレクターレバーが **P** に入っていることを確認します。

▶ エンジンスイッチを **0** か **1** の位置に戻してから再始動します。

それでもエンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを停止するとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキレバーを確実に引き、セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

注　意　！

水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

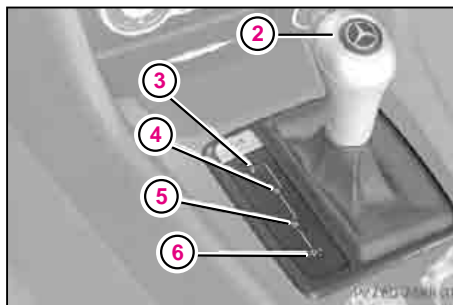
オートマチックトランスミッション

シフト位置表示

① シフト位置表示
（ドライブに入っている状態）

エンジンスイッチを 2 の位置にすると選択されたシフト位置の表示①が反転します。

セレクターレバー

② セレクターレバー

▶ セレクターレバー②を動かして、シフト位置を選択します。

注　意　！

シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

知　識

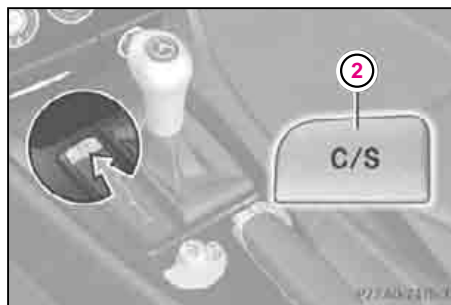
エンジンスイッチが 2 の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを **P** から動かすことはできません。

	シフト位置	
③	**P** パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
④	**R** リバース	後退するときの位置
⑤	**N** ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
⑥	**D** ドライブ	走行するときの位置 1 速～ 5 速（7G-TRONIC 装備車は 1 速～ 7 速）の範囲で自動的に変速します。

走行モード

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

選択された走行モード①はマルチファンクションディスプレイに表示されます。

マニュアルギアシフト非装備車
② 走行モード選択スイッチ

マニュアルギアシフト装備車
③ 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト非装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

S モード→ C モード→ S モードと切り替わります。

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ③を押します。

S モード→ C モード→ M モード→ S モードと切り替わります。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

オートマチックトランスミッション

走行モード	
S モード	十分な加速を得たいときに使用します。 セレクターレバーを **R** に入れたときは C モードより力強く後退します。
C モード	S モードより早めにシフトアップが行なわれます。ゆるやかな運転や滑りやすい路面を走行するときに適しています。 セレクターレバーを **R** に入れたときは S モードよりゆるやかに後退します。
M モード＊	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは **(5-12)** をご覧ください。

警　告

選択したモードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

知　識

- S モードまたは C モードを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは停止したときのモードになります。
- M モードが選択された状態でエンジンを停止したときは、S モードか C モードに切り替わります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードがCモードかSモードのときにティップシフトにすることができます。

警　告

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

① ギアレンジ表示

選択したギアレンジがマルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示①に表示されます。

レンジ	
D	1速～5速（7G-TRONIC装備車は1速～7速）の範囲で自動的に変速します。
6＊	1速～6速の範囲で自動的に変速します。
5＊	1速～5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速～4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速～3速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速～2速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

知　識

- ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。
- 加速時にエンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。
- エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。
- ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

セレクターレバーによる操作

② 低いギアレンジを選択
③ 高いギアレンジを選択

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが **D** に入っているときにセレクターレバーを②側に操作します。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示①にギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを②側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを③側に操作します。

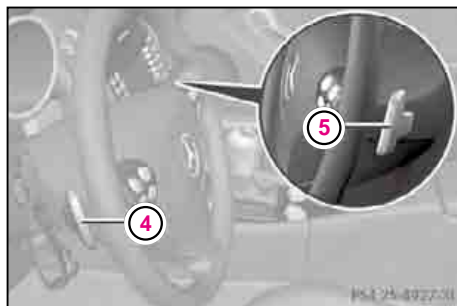
ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを③側に操作して保持します。

ギアレンジ表示①に "D" が表示されます。

知　識

ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを③側に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

パドルによる操作＊

④ 左側パドル
（低いギアレンジを選択）
⑤ 右側パドル
（高いギアレンジを選択）

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが **D** に入っているときに左側のパドル④を引きます。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示①にギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側のパドル④を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側のパドル⑤を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側のパドル⑤を引いて保持します。

ギアレンジ表示①に "D" が表示されます。

知　識

- ティップシフトにしていないときに右側のパドル⑤を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。
- SLK 350 およびスポーツパッケージ装備車では、右側のパドルには " ＋ "、左側のパドルには "ー" の表示があります。
- SLK 55 AMG では、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マニュアルギアシフト＊

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。

警　告

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

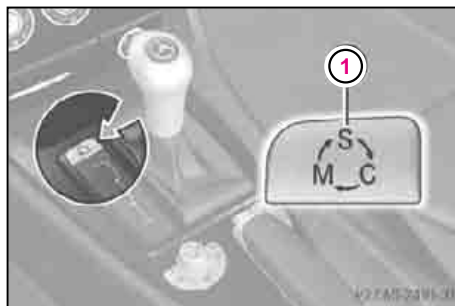
注　意　！

エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

知　識

- マニュアルギアシフトでは、ESP の機能を解除しないで走行することをお勧めします。
- エンジンが暖まっていないときは、シフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード選択スイッチ

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示③に "M" を表示させます。

② ギア表示
③ 走行モード表示

ギア表示②には選択されているギアが表示されます。

知　識

- マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、S モードか C モードに切り替わります。
- マニュアルギアシフトではギア表示②に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ＊ / ダウンに応じてギア表示②に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、S モードか C モードを選択します。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

セレクターレバーによるシフト操作

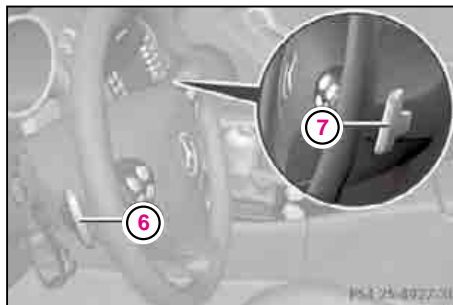
④ シフトダウン
⑤ シフトアップ

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを④の方向に操作します。

シフトアップする

▶ セレクターレバーを⑤の方向に操作します。

パドルによるシフト操作

⑥ 左側パドル（シフトダウン）
⑦ 右側パドル（シフトアップ）

シフトダウンする

▶ 左側のパドル⑥を引きます。

シフトアップする

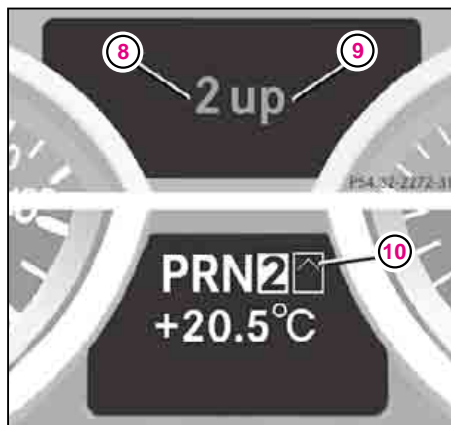
▶ 右側のパドル⑦を引きます。

知　識

- シフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。
- SLK350 およびスポーツパッケージ装備車では、エンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、シフトアップ操作をしなくても自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。
- シフトアップ/ ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。
- 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

- 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。
- SLK350 およびスポーツパッケージ装備車では、キックダウンを行なうことができます。

  キックダウンしているときは、シフト操作はできません。
- SLK55 AMG では、キックダウンを行なうことはできません。
- SLK350 およびスポーツパッケージ装備車では、右側のパドルには " + "、左側のパドルには "ー" の表示があります。
- SLK55 AMG では、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。
- セレクターレバーを左側に操作して保持するか、左側のパドルを引いて保持すると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

シフトアップ表示（SLK 55 AMG）

⑧ ギア表示
⑨ "up" マーク
⑩ シフトアップマーク

エンジン回転数が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、ギア表示⑧と "up" マーク⑨が表示されます。

また、シフトアップマーク⑩も表示されます。

必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P 、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

発進する

▶ エンジンを始動します。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行位置 D に入れます。

警　告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

注　意　！

急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

通常走行

通常はセレクターレバーを **D** に入れて走行します。アクセルペダルの踏み加減や走行速度に応じて、自動的に変速が行なわれます。

警 告

走行中はセレクターレバーを **N** に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知 識

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。

素早く加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

注 意 !

キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

上り坂を走行するとき

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

変速の少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂を走行するとき

下り坂を **D** で走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎることがあります。

▶ 坂の勾配などに応じてティップシフトで低いギアレンジを選択します。

エンジンブレーキの効きを強くして走行します。

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

滑りやすい路面を走行するとき

走行モード **(5-7)** を C モードに切り替え、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。

警　告

滑りやすい路面では、低いギアレンジや低いギアを選択することによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

知　識

エンジン回転数が許容回転数を超えるおそれがある場合は、低いギアレンジや低いギアを選択することはできません。このときは、ブレーキペダルを踏んで減速してから再度操作し、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

停車

セレクターレバーを **D** に入れたままブレーキペダルを踏みます。

やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを **P** に入れます。

警　告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが **D** か **R** に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注 意 !

- 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象 **(5-16)** で車が動かないようにしてください。
- セレクターレバーを **P** に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

▶ 完全に停車してブレーキペダルを踏み込んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にして、キーを抜きます。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

警 告

車を離れるときはセレクターレバーを **P** に入れ、必ずパーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。セレクターレバーを **P** に入れただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。

注 意 !

- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪の下り側を歩道方向に向けてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じ、施錠してください。

エマージェンシーモード

トランスミッションに異常が発生し、自動変速ができなくなったときは、自動的にエマージェンシーモードに切り替わることがあります。

この場合、以下の方法でギアを2速かリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

エマージェンシーモードでの走行

▶ 安全な場所に停車して、セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ エンジンスイッチを**0**の位置にして、約10秒間待ちます。

▶ エンジンを始動します。

▶ セレクターレバーを **D** に入れます。

2速ギアに固定され､前進できます。

または

▶ セレクターレバーを **R** に入れます。

リバースギアに固定され、後退できます。

注　意！

- 2速やリバースに変速できなかったり、変速できても走行できないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能が大きく制限されます。十分に注意して走行し、指定サービス工場で点検を受けてください。

パーキングロックの解除

セレクターレバーを **P** から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。

故障時に車をけん引されるときなどにパーキングロックを解除します。

① カバー
② ロック解除ノブ

パーキングロックを解除する

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

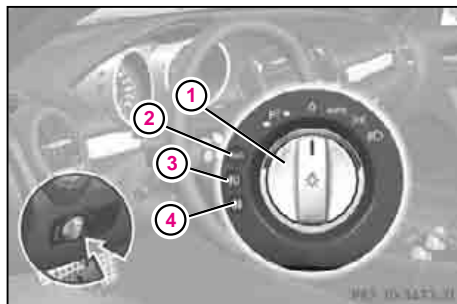
▶ カバー①の右端部または左端部を内側にずらしながら持ち上げます。

▶ ロック解除ノブ②を押し下げながら、セレクターレバーを **P** から他の位置に動かします。

注　意 ！

- セレクターレバーの開口部には角の鋭い部分が露出していますので、けがをしないように十分注意してください。
- この方法でセレクターレバーを動かせないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- セレクターレバーを動かすことができたときでも、指定サービス工場で点検を受けてください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車
① ランプスイッチ
② 車幅灯表示灯
③ フロントフォグランプ表示灯
④ リアフォグランプ表示灯

ランプスイッチ①をまわして各位置に合わせます。

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
(車幅灯マーク)	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、車幅灯表示灯②が点灯
(ヘッドランプマーク)	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

注　意！

エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動で点灯 / 消灯することができます。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を (ヘッドランプマーク) の位置に合わせます。

ヘッドランプを自動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を AUTO の位置に合わせます。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも点灯します。

警　告

- ランプの点灯/ 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき。
  - ◇ 対向車のライトなどにより、センサーが正常に作動しないとき。
- ランプスイッチを AUTO から の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

注　意 !

- ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを 0 の位置に戻して運転席ドアを開くと警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。このときは必ずランプスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ランプスイッチを か の位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサーにステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。
- ランプスイッチが AUTO の位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ランプは自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①の位置が [記号] または [記号] のとき、ランプスイッチ①を 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯③が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①の位置が [記号] または [記号] のとき、ランプスイッチ①を 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯③とリアフォグランプ表示灯④が点灯します。

警　告

ランプスイッチが AUTO の位置のときは、フォグランプを点灯することができません。

霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを [記号] の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

注　意 ！

フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

パーキングランプ

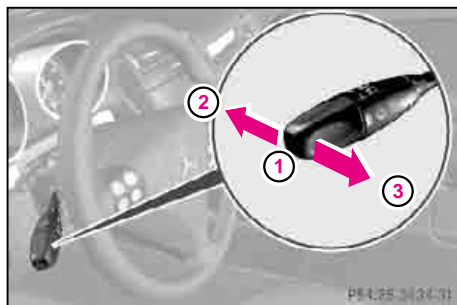
暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

エンジンスイッチが 0 の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを [P記号→] または [←P記号] の位置にします。

位置	作動内容
[P記号→]	右側のパーキングランプが点灯
[←P記号]	左側のパーキングランプが点灯

ヘッドランプの下向き / 上向きの切り替え

左ハンドル車
① 下向き
② 上向き
③ パッシング

注　意　！

対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを②の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

パッシングする

▶ コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間ヘッドランプが上向きになります。

また、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については**(4-42)**をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを再度 **2** の位置にします。

知 識

- エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約60秒後にランプは消灯し、この機能は解除されます。
- この機能は、ドアやトランクを開閉してランプが消灯してから約10秒以上経過すると働かなくなります。

コーナリングランプ＊

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約40km/h以下のとき
- ヘッドランプが点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが **R** に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

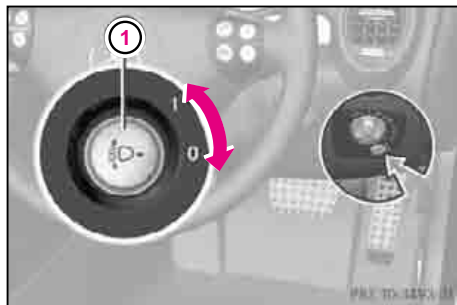
ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが **R** に入っているときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

知 識

- 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。
- フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。
- 点灯したフロントフォグランプは、約3分後に自動的に消灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル＊

① ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル

乗員数が増えたり荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときに調整します。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに調整できます。

ヘッドランプ照射角度を調整する

▶ ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル①を押します。

ダイヤルがポップアップします。

▶ ヘッドランプ照射角度調整ダイヤルをまわして、**0** または **1** に合わせます。

▶ 調整が終了したら、ヘッドランプ照射角度調整ダイヤルを押し込みます。

0	1 名乗車時または 2 名乗車時
1	1 名乗車時でトランクに荷物を積載時 または 2 名乗車時でトランクに荷物を積載時

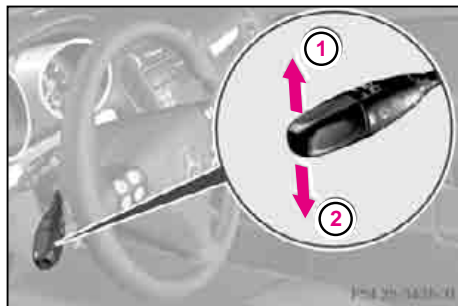
注　意　！

対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

知　識

バイキセノンヘッドランプ装備車のヘッドランプ照射角度は、自動的に調整されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

知　識

- 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。
- コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

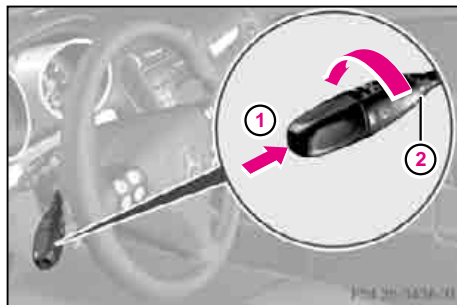
注　意　!

- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。

  方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ワイパー

① ティップ機能 / ウインドウウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

ワイパーを作動させる

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク②を **I** ～ **III** に合わせます。

レインセンサー装備車と非装備車では作動が異なります。

レインセンサー装備車

以下のように作動します。

位置	作動内容
0	停止
I	AUTO モード
II	低速モード
III	高速モード

知　識

- AUTO モードは、レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
- コンビネーションスイッチが II、III の位置のときも、停車時またはごく低速での走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。
- AUTO モードのときは、停車時にドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。
  - ◇ セレクターレバーが **P** または **N** に入っているときは、ドアを閉じてセレクターレバーを他の位置に入れたとき
  - ◇ セレクターレバーが **D** または **R** に入っているときは、ドアを閉じたとき

レインセンサー非装備車

以下のように作動します。

位置	作動内容
0	停止
I	間欠モード
II	低速モード
III	高速モード

知　識

- 停車時またはごく低速での走行時にワイパーの作動が自動的に以下のように切り替わります。
  - ◇ 間欠モード（ I ）のとき
    作動間隔が長くなります。
  - ◇ 低速モード（ II ）のとき
    間欠モードになります。
  - ◇ 高速モード（ III ）のとき
    低速モードになります。

  走行速度を上げると元のモードに戻ります。

- 間欠モードのときは、停車時にドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。
  - ◇ セレクターレバーが **P** または **N** に入っているときは、ドアを閉じてセレクターレバーを他の位置に入れたとき
  - ◇ セレクターレバーが **D** または **R** に入っているときは、ドアを閉じたとき

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずにワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウインドウウォッシャーを噴射させる

▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印①の方向に深く押し続けます。

その間ウインドウウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

知　識

エンジンがかかっていて、ヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約 5 回操作すると、ヘッドランプウォッシャー＊が作動します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

レインセンサー＊

フロントウインドウの図の位置にレインセンサーがあります。

注　意　!

レインセンサーの上にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

注 意 !

- ワイパーやウインドウウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。
- フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを **O**(停止)の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーブレードがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、キーを抜いてください。

知 識

- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。
- コンビネーションスイッチが **I** の位置のとき、エンジンを始動するとワイパーが 1 回作動することがあります。
- コンビネーションスイッチを **I** の位置にすると、ワイパーが 1 回作動します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ヘッドランプウォッシャー＊

エンジンがかかっていて、ヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャー（5-32）を約 5 回作動させると、ウォッシャー液が自動的にヘッドランプに向けて噴射されます。

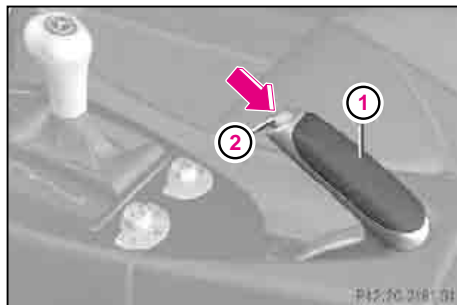
知　識

- エンジンを停止すると、ウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

注　意！

ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているので、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パーキングブレーキ

① パーキングブレーキレバー
② 解除ノブ

警　告

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

パーキングブレーキを効かせる

▶ パーキングブレーキレバー①を引き上げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除する

▶ パーキングブレーキレバー①を少し引き上げ、解除ノブ②をいっぱいに押し込んでからパーキングブレーキレバーを下げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が消灯します。

注　意　!

- パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、タイヤに輪止めをしてください。さらに前輪の下り側を歩道方向に向けてください。

知　識

パーキングブレーキを解除しないで走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ブレーキ

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。
- ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　!

- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキシステムを改造したり、スペーサーやブレーキダストシールドなどを使用しないでください。

知　識

- 高速道路を走行しているときなど、ブレーキをかけずに長時間走行していると、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、時々ブレーキを効かせてください。
- 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。
- 長い急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジを **3**、**2**、**1** にして、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。

(!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを 2 の位置にすると点灯し (点灯しないときは、警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります（エンジンスイッチが 1 の位置のときも点灯したままになります）。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、走行中に点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは (10-7) をご覧ください。

SLK 55 AMG のブレーキの注意事項

SLK 55 AMG の高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、SLK 55 AMG のブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

注 意 !

- SLK55 AMG のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは同様の注意が必要です。
- SLK55 AMG のブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

警　告

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意 !

- ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

  ◇ 雪の積もった路面や凍結した路面

  ◇ 砂利道などの荒れた路面

  ◇ 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面

  ◇ スノーチェーン装着時
- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS が作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。
- ブレーキを操作するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなることがあります。

警　告

ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。

知　識

- 路面の状況に関わらず、ABSは速度が約8km/hを超えると作動できるようになります。
- ABSに異常があると、以下のシステムも正しく作動しなくなることがあります。

  ◇ ESP

  ◇ BAS
- ABSに異常があると、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- バッテリーの電圧が下がると、バッテリーあがりを防ぐため一時的にABSが機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

ABSの作動

ABSには以下のような特性があります。

- ABSが作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。
- エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯したときは、ABSに異常があります。

通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、ESP、BASは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(10-3)**をご覧ください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

警　告

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても、制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意　！

- BAS に異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-3）**をご覧ください。

知　識

- BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。
- BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、通常のブレーキは作動します。
- バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

ESP

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

警　告

- ESP は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ESP 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ ESP 表示灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。発進時または走行中に点滅したときは、ESP が作動しています。

また、ESP オフスイッチで ESP の機能を解除 **(5-43)** しているときや、ESP が故障しているときは、点灯したままになります。

警　告

ESP 表示灯が点滅しているときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ操作
- ESP の機能の解除

注　意　！

マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、**(10-3、4)** をご覧ください。

ESP オフスイッチ

① ESP オフスイッチ

ESP オフスイッチは、ESP の機能を解除するためのスイッチです。

深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESP の機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESP オフスイッチ①を押します。

ESP の機能が解除され、ESP 表示灯が点灯したままになります。

ESP を待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度 ESP オフスイッチ①を押します。

ESP が待機状態になり、ESP 表示灯が消灯します。

警　告

- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除したときは、必ず路面の状況に合わせた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

  ◇ 急ハンドル

  ◇ 急ブレーキ

  ◇ 急発進、急加速

  ◇ 急激なエンジンブレーキ操作

- ESP の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができません。

知　識

エンジンを始動したとき、ESP は常に待機状態になります。

注　意　!

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしないでください。ESP が作動し、接地している車輪にブレーキがかかり、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- ダイナモメーターを使用してパーキングブレーキをテストするときは、エンジンを停止してください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- ESP が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP が作動することがあります（走行中に ESP 表示灯が点滅したままになります）。
- ABS に不具合が生じたときは、ESP も機能を停止します。
- ABS 警告灯 (ABS) が点灯しているときは、ESP も作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。
- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP 表示灯が点滅しますが、ESP は作動しません。

  ただし、このときにブレーキを効かせたときは、ESP は自動的に作動します。
- エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

  このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを **0** の位置に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると故障 / 警告メッセージや ESP 表示灯、ABS 警告灯は消灯します。

クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約 30km/h 以上です。

警　告

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇ 降雨時や雪道、凍結路などの滑りやすい路面

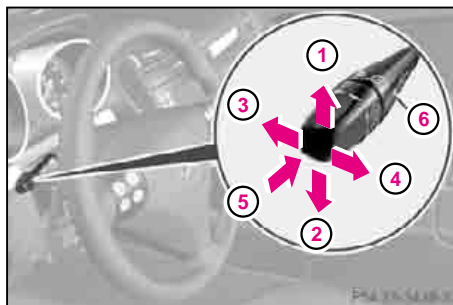
注　意　!

- クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（**10-5**）をご覧ください。
- 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択しエンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（5-52）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①か②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

記憶されている設定速度に設定されます。

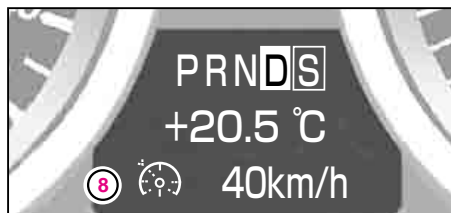
アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

設定速度がマルチファンクションディスプレイに表示された例

⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が数秒間表示されます。

警　告

記憶されている設定速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。

設定速度が車両情報サブ画面に移動し、表示された例

⑧ クルーズコントロールインジケーター / 設定速度

数秒後、車両情報サブ画面にクルーズコントロールインジケーターと設定速度⑧が表示されます。

知　識

- クルーズコントロールの設定速度の表示とスピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- 上り坂などを走行するときは、設定した速度を維持できないことがありますが、路面が平坦になると、設定した速度で走行を再開します。
- 設定速度が記憶されていない状態でレバーを④の方向に引いたときや走行速度が約 30km/h 以下のとき、ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しているときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。
- クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に上げ続けます。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に下げ続けます。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

知　識

- レバーを①か②の方向にごく短時間操作すると、1km/h 単位で速度の設定ができます。
- レバーを②の方向に下げて減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

注　意　！

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

知　識

- クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- 以下のときは、クルーズコントロールは自動的に解除されます。

◇ セレクターレバーを **N** に入れたとき

◇ ESP オフスイッチで ESP の機能を解除したとき

◇ ESP が作動したとき

◇ 走行速度が約 30km/h 以下になったとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ" と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときも自動的に解除されます。

警　告

クルーズコントロールはセレクターレバーを **N** に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを **N** に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度の下限は 30km/h です。また、上限は 210km/h ～ 250km/h の間です。

※ 設定できる制限速度の上限は、車種や仕様により異なります。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

警　告

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。

- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

注　意　！

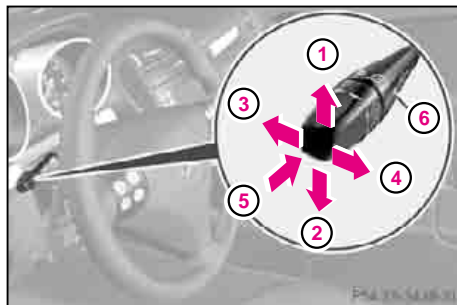
- 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **(10-5)** をご覧ください。
- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択しエンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

知　識

- スノータイヤスピードリミッター **(4-45)** を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、スノータイヤスピードリミッターの設定速度が上限になります。
- 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

①〜⑤　レバーの操作方向
⑥ 表示灯

クルーズコントロール（**5-46**）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

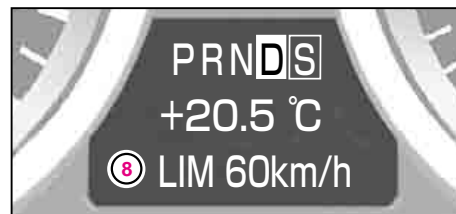
設定した制限速度がマルチファンクションディスプレイに表示された例

⑦ 設定速度

可変スピードリミッターを設定する

レバーの表示灯⑥が点灯していることを確認してください。

▶ レバーを①か②の方向に操作します。

- 走行速度が約 30km/h 以下のときは 30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。

設定した制限速度が車両情報サブ画面に移動し、表示された例

⑧ 設定速度

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

記憶されている制限速度に設定されます。

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が数秒間表示されます。

数秒後に車両情報サブ画面に設定速度⑧が表示されます。

注　意 ！

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

知　識

- 可変スピードリミッターの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- 設定速度が記憶されていないときにレバーを④の方向に引くと、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。
- アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは可変スピードリミッターを設定することはできません。

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に上げます。

設定速度が 10km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

設定速度が 1km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に下げます。

設定速度が 10km/h 単位で下がります。

注　意　!

設定速度を変更するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

知　識

次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約20km/h 以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき

注　意　！

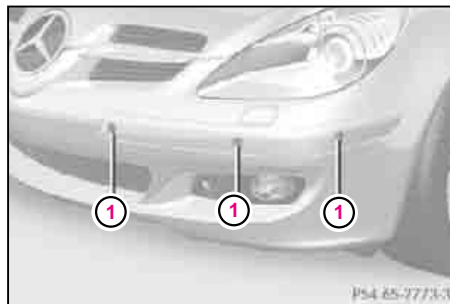
可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

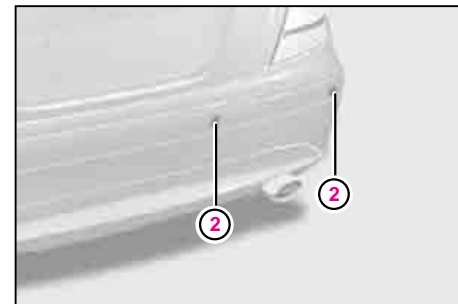
パークトロニック＊

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせる装置です。

注 意 ！

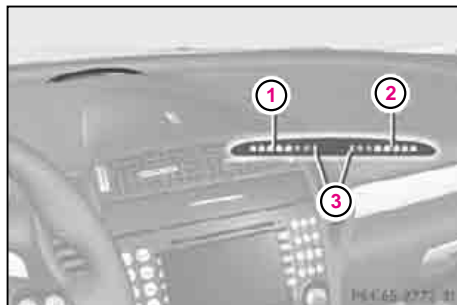
パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

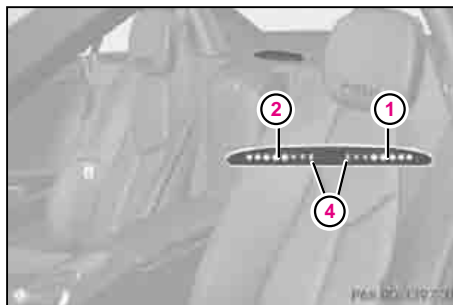
フロントバンパーの 6 個のセンサー①とリアバンパーの 4 個のセンサー②が車の周辺の障害物などを感知します。

リア
② センサー

注 意 ！

- センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。
- センサーに損傷を与えないように注意してください。正しく作動しなくなるおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
④ リア作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯は車室内後方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、表示灯の点灯数で示します。

注　意　！

システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチ（5-60）の表示灯が点灯します。

知　識

エンジンスイッチを 2 の位置にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

エンジンスイッチが **2** の位置でパーキングブレーキが解除されているとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R **N**	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯③④が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

知　識

- パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。
- パークトロニックは、速度が約 18km/h 以下のときに作動します。速度が約 18km/h 以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

フロントのセンサー感知範囲に障害物が入ったとき

フロントのセンサー感知範囲（5-59）に障害物が入ると、黄色インジケーターが1個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて1個目の赤色のインジケーターが点灯し、警告音が断続的に約3秒間鳴ります。

最短感知距離（約20～15cm）になると、上記のインジケーターに加えて2個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約3秒間鳴ります。

リアのセンサー感知範囲に障害物が入ったとき

リアのセンサー感知範囲（5-59）に障害物が入ると、黄色インジケーターが1個点灯して、断続的に警告音が鳴ります。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていき、警告音の間隔が短くなります。

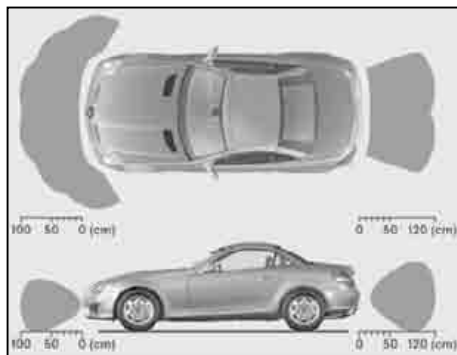
障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて1個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音の間隔がさらに短くなります。

最短感知距離（約20～15cm）になると、上記のインジケーターに加えて2個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に鳴ります。

注　意　！

障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなくなり、パークトロニックが正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

フロント バンパー側	センサー感知範囲
中央	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm

リア バンパー側	センサー感知範囲
中央	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

注　意　！

- 車の中央でバンパーから約20cm以内、コーナーでバンパーから約15cm以内にある障害物は感知できません。
- センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。
- 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります
- センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。
- 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく作動しないことがあります。
- 洗車機や大型車の排気ブレーキや工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックを停止することができます。

パークトロニックを停止する

▶ エンジンスイッチが 2 の位置のとき、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

知　識

パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にエンジンスイッチを 2 の位置にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

注　意　!

システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナー

エアコンディショナー（クライメートコントロール）は、設定温度や外気温度などに応じて、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

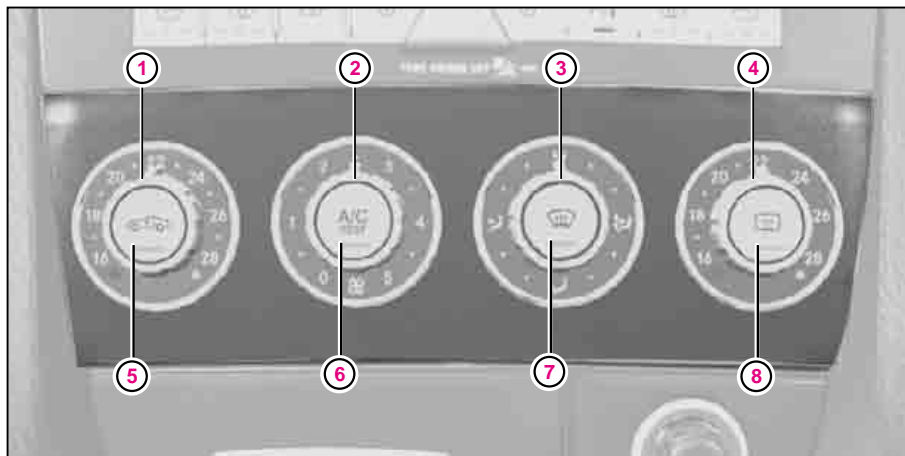
注　意 ！

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあります。火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットおよびエンジンルーム内の吸気口が、雪や氷、異物などで覆われないようにしてください。
- 送風口や車内の吸気口が覆われないようにしてください。

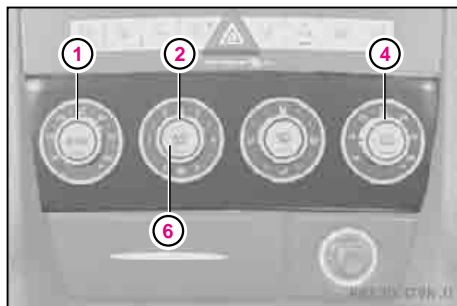
知　識

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが開いていると、設定温度を維持できません。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

  フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

コントロールパネル

	名称
①	送風温度調整ダイヤル（左側）
②	送風量調整ダイヤル
③	送風口選択ダイヤル
④	送風温度調整ダイヤル（右側）
⑤	内気循環スイッチ
⑥	AC スイッチ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑦	デフロスタースイッチ
⑧	リアデフォッガースイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた

① 送風温度調整ダイヤル（左側）
② 送風量調整ダイヤル
④ 送風温度調整ダイヤル（右側）
⑥ AC スイッチ

エアコンディショナーを作動させる

▶ 送風量調整ダイヤル②を 0 以外の位置にします。

AC スイッチ⑥の表示灯が点灯します。点灯しないときは、AC スイッチを押します。

▶ 送風温度調整ダイヤル①④で好みの温度を設定します。

知　識

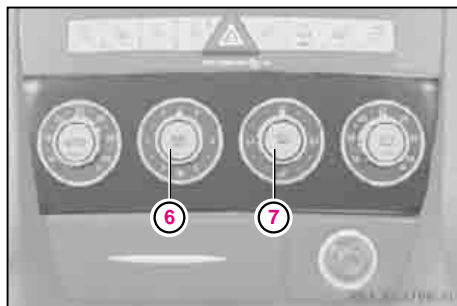
- 通常は 22℃に設定することをお勧めします。
- エンジンの始動直後は、設定にかかわらず、約 30 秒間足元にも送風されることがあります。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが開いていると、設定温度を維持できません。

エアコンディショナーを停止する

▶ 送風量調整ダイヤル②を 0 の位置にします。

知　識

ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

AC モード

⑥ AC スイッチ
⑦ デフロスタースイッチ

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AC モードに設定されているときは、ACスイッチ⑥の表示灯が点灯します。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ AC スイッチ⑥を押します。

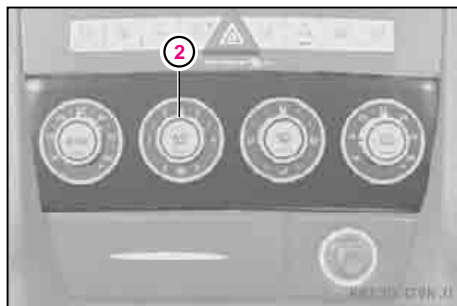
スイッチの表示灯が点灯します。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

知　識

- 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。
- AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- AC スイッチ⑥を押したときに、表示灯が点滅もしくは消灯したままのときはエアコンディショナーの冷媒が減っています。除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

送風量の調整

② 送風量調整ダイヤル

送風量を手動で調整することができます。

送風量を上げる

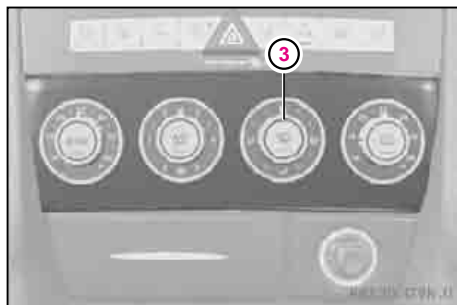
▶ 送風量調整ダイヤル②を時計回りにまわします。

送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル②を反時計回りにまわします。

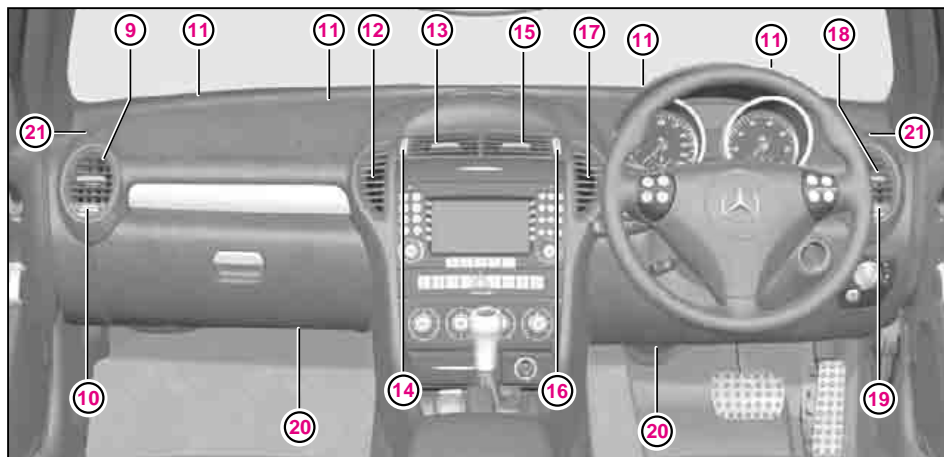
知　識

送風量調整ダイヤル②を 0 の位置にするとエアコンディショナーが停止します。

送風口を選択する

③ 送風口選択ダイヤル

▶ 送風口選択ダイヤル③をまわして、好みの送風口マークに合わせます。

知　識

- ダイヤルをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。
- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口マーク	主に送風される送風口
(マーク)	サイド送風口⑨⑱ 中央送風口⑫⑰ 上部中央送風口⑬⑮
(マーク)	フロントウインドウ送風口⑪ サイド送風口⑨⑱ ドアウインドウ送風口㉑ 中央送風口⑫⑰ 上部中央送風口⑬⑮
(マーク)	サイド送風口⑨⑱ 中央送風口⑫⑰ 上部中央送風口⑬⑮ フロントウインドウ送風口⑪ ドアウインドウ送風口㉑ 足元送風口⑳
(マーク)	足元送風口⑳ 中央送風口⑫⑰ 上部中央送風口⑬⑮ サイド送風口⑨⑱

送風口の開閉

サイド送風口⑨⑱と中央送風口⑫⑰、上部中央送風口⑬⑮は開閉することができます。

サイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル⑩⑲を外側にまわします。

徐々にサイド送風口⑨⑱が開き、送風量が上がります。

サイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル⑩⑲を内側にまわします。

徐々にサイド送風口⑨⑱が閉じ、送風量が下がります。

開閉ダイヤル⑩⑲を停止するまで内側にまわすと、サイド送風口⑨⑱が閉じます。

中央送風口、上部中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル⑭⑯を上方にまわします。

徐々に中央送風口⑫⑰と上部中央送風口⑬⑮が開き、送風量が上がります。

送風口開閉ダイヤル⑭⑯を停止するまで上方にまわすと、中央送風口⑫⑰は閉じます。上部中央送風口⑬⑮の送風量は上がります。

中央送風口、上部中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル⑭⑯を下方にまわします。

徐々に中央送風口⑫⑰と上部中央送風口⑬⑮が閉じ、送風量が下がります。

開閉ダイヤル⑭⑯を停止するまで下方にまわすと、中央送風口⑫⑰と上部中央送風口⑬⑮が閉じます。

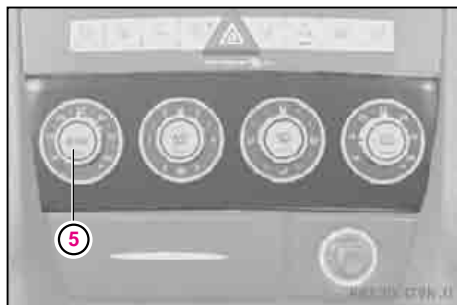
知　識

送風口開閉ダイヤルを停止するまで内側または下方にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

送風口の風向き調整

サイド送風口⑨⑱と上部中央送風口⑬⑮は風向きを調整することができます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

内気循環モード

⑤ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに設定 / 解除ができます。

内気循環モードに設定する

▶ 外気導入モードのときに、内気循環スイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑤をそのまま約 2 秒以上押して保持すると、開いているドアウインドウが閉じます。

バリオルーフが閉じているときは、ドアウインドウが全閉した後にリアクォーターウインドウも閉じます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように自動的に外気導入を始めます。

外気温度が 5℃以上のとき	約 30 分後
外気温度が 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに、内気循環スイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑤をそのまま約 2 秒以上押して保持すると、ドアウインドウが前回開いていた位置まで開きます。

バリオルーフが閉じているときは、リアクォーターウインドウが全開します。

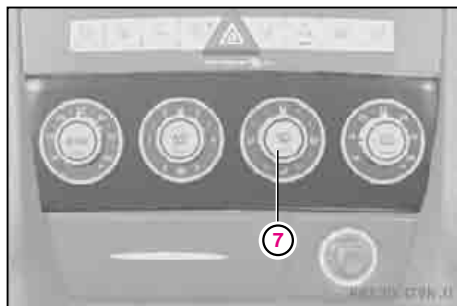
注 意 !

- 内気循環スイッチでドアウインドウとリアクォーターウインドウを閉じているときには、身体を挟まれないよう、十分に注意してください。身体が挟まれそうになったときは、ただちにスイッチから手を放してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウとリアクォーターウインドウを開いているときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。
- 外気温度が低いときや、ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。

知 識

- 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このときは内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

  約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- 内気循環モードのときに、AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。
- 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやリアクォーターウインドウを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやリアクォーターウインドウを内気循環モードの解除操作と連動して開くことはできません。

デフロスターモード

⑦ デフロスタースイッチ

フロントウインドウやドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ⑦を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- エアコンディショナーの送風量が上がり、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口を中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ⑦を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

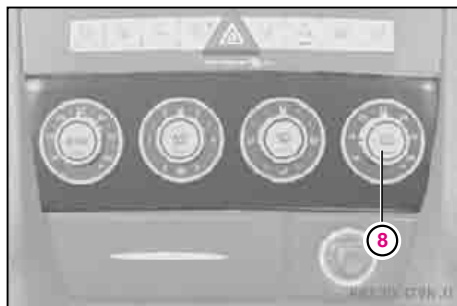
ただし、デフロスターモードに設定する前に AC モードを解除していたときは AC モードに、内気循環モードにしていたときは外気導入になります。

知 識

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスターモードに設定しているときは、送風温度や送風量の調整、送風口の選択はできません。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、ウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

リアデフォッガー

⑧ リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

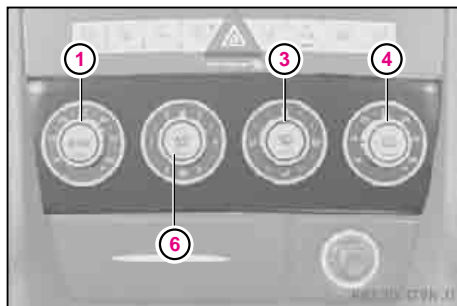
リアデフォッガーは、使用を開始してから約 6 ～ 17 分後に自動的に停止します。

注 意 !

- ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

知 識

- 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなるとリアデフォッガーは自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を開始します。
- リアデフォッガーを使用しているときは、ドアミラーが自動的に温まります。
- バリオルーフを開いているときは、リアデフォッガーを使用できません。リアデフォッガースイッチを押したときは、スイッチの表示灯が数回点滅した後に消灯します。

余熱ヒーター・ベンチレーション

① 送風温度調整ダイヤル（左側）
③ 送風口選択ダイヤル
④ 送風温度調整ダイヤル（右側）
⑥ 余熱ヒーター・
ベンチレーションスイッチ

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーが抜いてあるときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ 送風温度調整ダイヤル①④で送風温度を設定し、送風口選択ダイヤル③で送風口を選択します。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑥を押します。

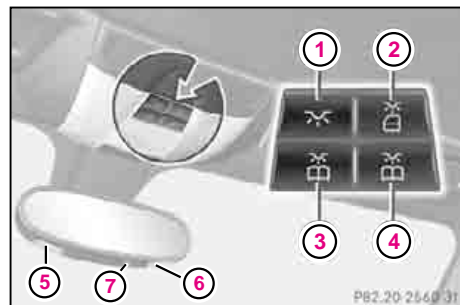
スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションは自動的に停止します。

- エンジンスイッチを **2** の位置にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

知　識

- 余熱ヒーター・ベンチレーションの作動時間は、冷却水の温度や設定された送風温度により異なることがあります。
- 外気温度が高いときや、冷却水の温度が低いときは温風は送風されません。
- 送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ルームランプ

① 手動点灯スイッチ
② 点灯モード切替スイッチ
（自動点灯モード / 常時消灯モード）
③ 読書灯（左側）スイッチ
④ 読書灯（右側）スイッチ
⑤ 読書灯（左側）
⑥ 読書灯（右側）
⑦ センターコンソールランプ

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード切替スイッチ②が押されていない状態にします。

周囲が暗いとき、以下のようにルームランプが点灯 / 消灯します。

また、運転席 / 助手席足元にあるフットウェルランプも、連動して点灯 / 消灯します。

- ドアを開くとルームランプが点灯します。

  ◇エンジンスイッチが **2** の位置のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については**(4-43)** をご覧ください。

- リモコン操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

知 識

自動点灯モードになっていても、周囲が明るいときはルームランプが点灯しないことがあります。

注 意 !

車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード切替スイッチ②が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する

手動で点灯 / 消灯する

▶ 手動点灯スイッチ①を押します。

ルームランプとフットウェルランプが点灯 / 消灯します。

読書灯

読書灯⑤⑥はルームミラーの下側にあります。

読書灯を点灯 / 消灯する

▶ 読書灯スイッチ③または④を押します。

読書灯⑤または⑥が点灯 / 消灯します。

知　識

ルームミラーの下側にセンターコンソールランプ⑦があります。エンジンスイッチが 1 か 2 の位置のときに点灯します。

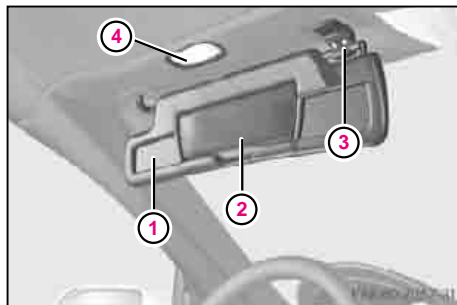
乗降用ランプ

ドアの下側にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプが自動点灯モードになっていて、周囲が暗いときにドアを開くと点灯します。

エンジンスイッチが 2 の位置のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

エンジンスイッチが 2 以外の位置のときは、ドアを開いたままにすると、約 5 分後に消灯します。

サンバイザー / バニティミラー

① サンバイザー
② バニティミラーカバー
③ フック
④ 照明

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ サンバイザー①をフック③から外します。

▶ サンバイザー①を横にまわします。

サンバイザー①を軸方向にスライドすることもできます。

注 意 !

- サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー②を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。
- バリオルーフを閉じるときは、必ずサンバイザーをフックに戻してください。フックから外した状態でバリオルーフを閉じると、バリオルーフとサンバイザが当たり、損傷するおそれがあります。

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ バニティミラーカバー②を上方に開きます。

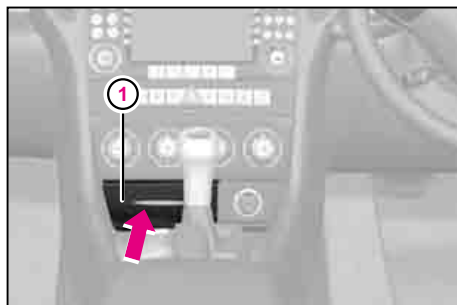
照明④が点灯します。

注 意 !

眩惑を防ぐため、走行中はバニティミラーカバーを閉じてください。

知 識

サンバイザーをフック③から外すと、照明は点灯しません。

灰皿

① 灰皿カバー

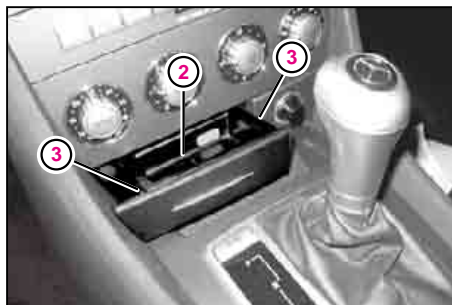
灰皿を開く

▶ 灰皿カバー①を押して開きます。

灰皿を閉じる

▶ 灰皿カバー①を押して閉じます。

② 灰皿
③ 凹部

注 意 !

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを効かせます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ 左右の凹部③をつまみながら、灰皿②を取り外します。

注 意 !

灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を元の位置に合わせ、押し込みます。

ライター

① ライター

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

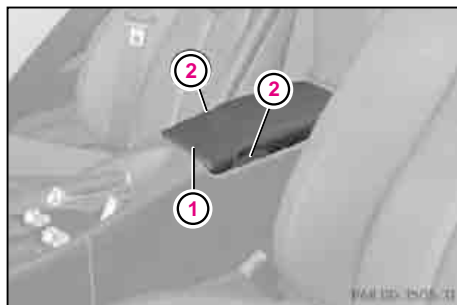
▶ ライター①を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

注 意 !

- ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。
- 安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。また、ライターが過熱して火災が発生するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電力 180W 以下の規格にあった電気製品を使用してください。

アームレスト

① アームレスト
② 凹部

アームレストの小物入れを開く

▶ 凹部②に指をかけて、アームレスト①のカバーを開きます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにアームレストの小物入れを開くと、小物入れ内部の照明が点灯します。

アームレストの小物入れを閉じる

▶ アームレスト①のカバーを下げて閉じます。

注 意 !

- 走行中は必ずアームレストのカバーを閉じてください。急ブレーキ時や衝突時に収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。
- アームレストのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物を損傷するおそれがあります。
- アームレストの小物入れには食料品を収納しないでください。

知 識

リモコン操作で施錠 / 解錠すると、アームレストの小物入れも連動して施錠 / 解錠されます。

アームレスト

携帯電話の接続

アームレストの小物入れには、携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

携帯電話を取り付ける

▶ 携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。

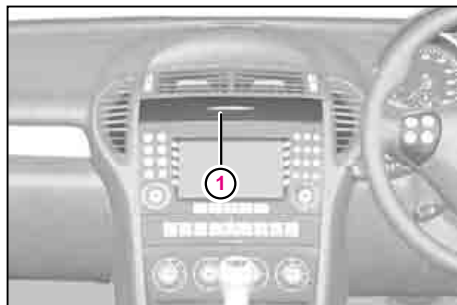
携帯電話を取り外す

▶ コネクター左右のロック解除ボタンを押しながら、携帯電話をコネクターから取り外します。

注 意 !

携帯電話がコネクターに接続できないときは、無理に取り付けないでください。携帯電話やアームレストのカバーを損傷するおそれがあります。

※ 電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

カップホルダー

① カバー

カップホルダーを使用する

▶ カップホルダーのカバー①を押します。

カップホルダーがポップアップします。

① カバー

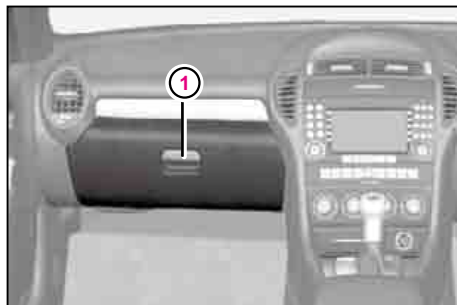
カップホルダーを収納する

▶ カップホルダーのカバー①を押し込みます。

注　意　！

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- カップホルダーの上に、飲み物の容器以外のものを置かないでください。
- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。
- カップホルダーに飲み物が入った容器を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

  スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

グローブボックス

右ハンドル車
① ハンドル

グローブボックスを開く

▶ ハンドル①を引いて開きます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックス内部の照明が点灯します。

グローブボックスを閉じる

▶ カバーを押してロックします。

グローブボックスを施錠 / 解錠する

▶ リモコン操作で施錠 / 解錠すると、グローブボックスも連動して施錠 / 解錠されます。

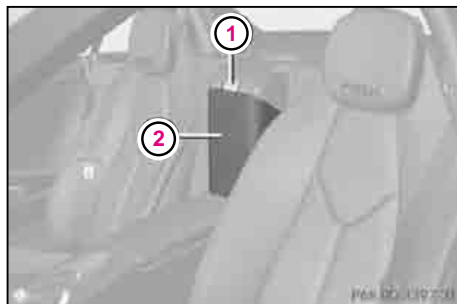
注 意 !

- 走行中は必ずグローブボックスを閉じてください。急ブレーキ時や衝突時などに乗員がけがをしたり、収納物が飛び出すおそれがあります。
- 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

知 識

グローブボックス内には CD チェンジャーがあります。

小物入れ

シート後方の小物入れ

① ボタン
② カバー

シート後方の小物入れを開く

▶ ボタン①を押します。

カバー②が開きます。

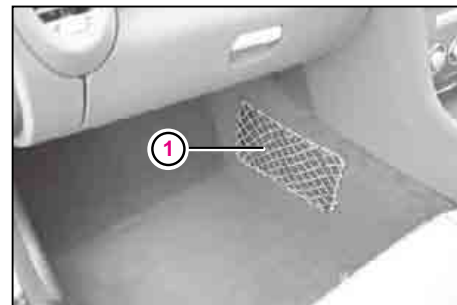
エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにシート後方の小物入れのカバーを開くと、小物入れ内部の照明が点灯します。

シート後方の小物入れを閉じる

▶ カバー②を押してロックします。

注　意　！

- 走行中は必ず小物入れのカバーを閉じてください。急ブレーキ時や衝突時などに収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。
- 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。カバーや収納物を損傷するおそれがあります。

収納ネット

右ハンドル車
① 収納ネット

助手席の足元に収納ネットがあります。

注　意　！

- 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

事故・故障のとき

警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災や爆発のおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを **N** に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを **N** に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

注　意！

踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

知　識

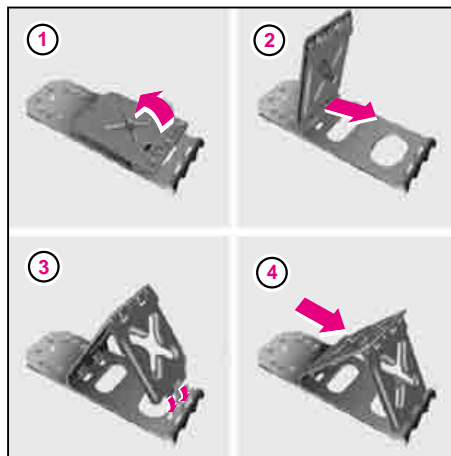
セレクターレバーを **P** から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（5-21）をご覧ください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに備えています。

知 識

- 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

輪止め

輪止めは車載工具など (7-5) とともに収納されています。

輪止めは図の順番で組み立てます。

注 意 !

輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

救急セット

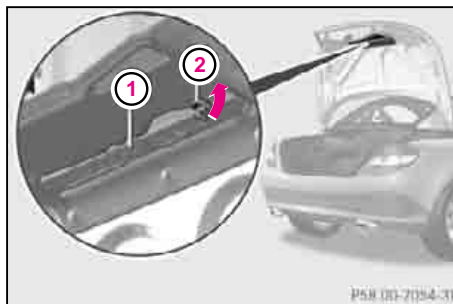
左側シート後方の収納ネットまたは応急用スペアタイヤのホイール内に収納されています。

知 識

救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

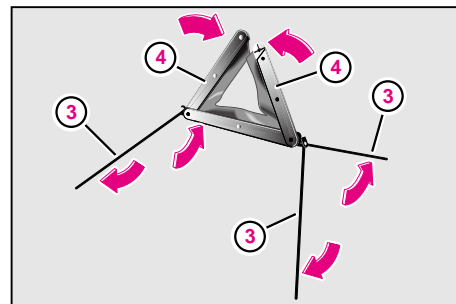
※ 救急セットの収納位置は予告なく変更されることがあります。

停止表示板

停止表示板はトランクリッドの裏側にあります。

① 停止表示板ケース
② ノブ

停止表示板を取り出す

▶ ノブ②を矢印の方向にまわし、停止表示板ケース①を取り外します。

▶ ケースから停止表示板を取り出します。

③ スタンド
④ 反射板

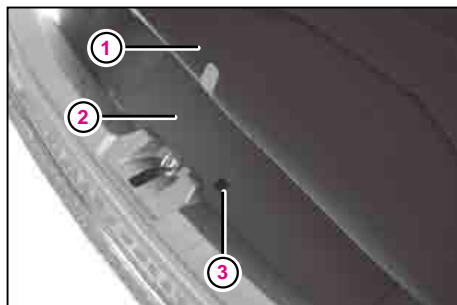
停止表示板を組み立てる

▶ 左右のスタンド③を引き出します。

▶ スタンド③を拡げて地面に立てます。

▶ 反射板④を引き出し、頂点をかみ合わせてロックします。

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

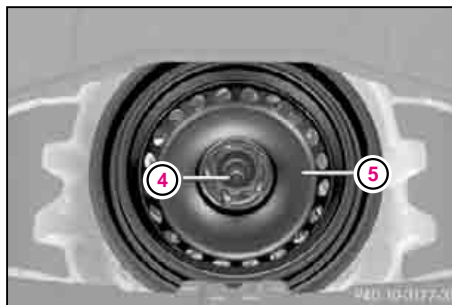
車載工具

① トランクフロアマット
② トランクフロアボード
③ ホール

車載工具はトランク内、応急用スペアタイヤの下にあります。

車載工具を取り出す

▶ トランクを開きます。

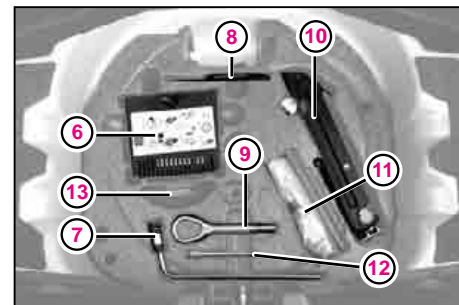
▶ トランクフロアマット①をめくってトランクフロアボード②のホール③に指をかけ、トランクフロアマットおよびトランクフロアボードを取り出します。

※ トランクマットおよびトランクフロアボードの形状が異なる場合があります。

④ スクリュー
⑤ 応急用スペアタイヤ

▶ スクリュー④を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ⑤を取り出します。

知 識

応急用スペアタイヤや車載工具を取り出しやすくするために、バリオルーフを閉じてください。

⑥ 電動エアポンプ
⑦ ホイールレンチ
⑧ 輪止め
⑨ けん引フック
⑩ ジャッキ
⑪ タイヤ収納カバー
⑫ ガイドボルト
⑬ バルブリムーバー

※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤのホイールに添付されています。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

パンクしたとき

警　告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

- 車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤを取り出すときや、タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。
- タイヤを交換するときは、エンジンを始動しないでください。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ エンジンを停止します。

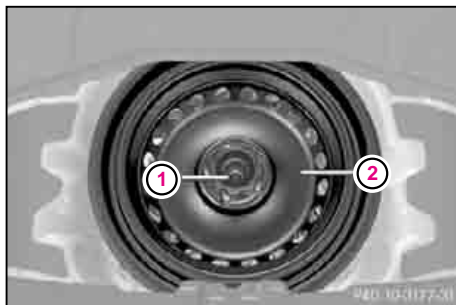
エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認します。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろし、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

知　識

高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤ、車載工具の取り出し

① スクリュー
② 応急用スペアタイヤ

輪止めとホイールレンチ、ジャッキとガイドボルト、電動エアポンプは応急用スペアタイヤの下に収納されています。

▶ スクリュー①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ②を取り出します。

知　識

応急用スペアタイヤや車載工具を取り出しやすくするために、バリオルーフを閉じてください。

警　告

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行性能が大きく変化します。十分注意して走行してください。

注　意　！

- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

輪止めをする

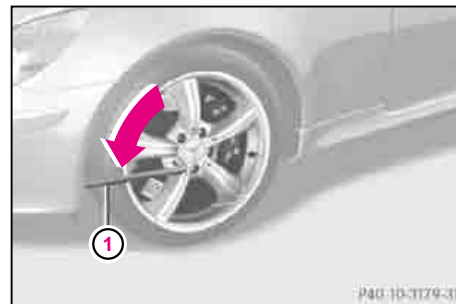
▶ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、以下のように輪止めをします。

- 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。
- 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

知　識

輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

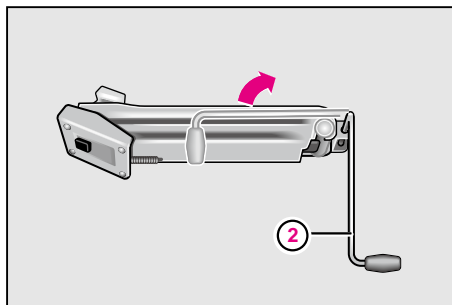
ジャッキアップ

① ホイールレンチ

▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

注　意　!

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

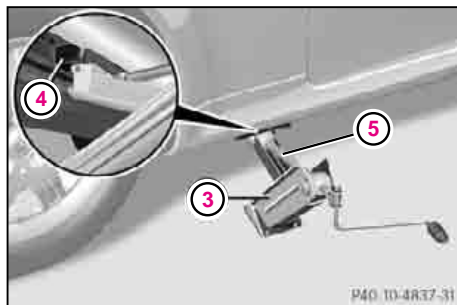
- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

② ハンドル

▶ 車載工具（7-5）からジャッキを取り出します。

ハンドル②を矢印の方向にまわしてから、時計回りにまわすと、ジャッキアームが上がります。

注　意　!

車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。

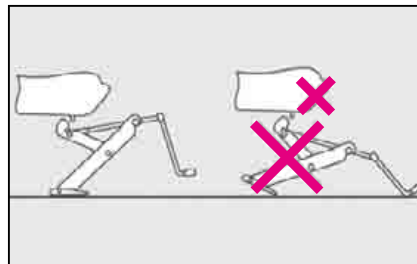
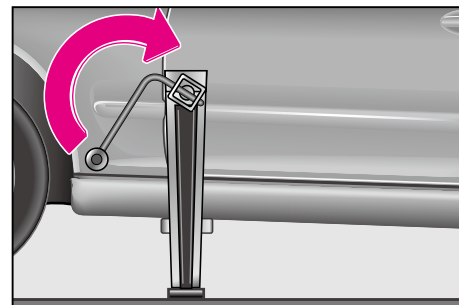
- かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。
- この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
- 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- ジャッキサポート以外の場所に使用しないでください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

③ ジャッキ
④ ジャッキサポート
⑤ ジャッキアーム

▶ ジャッキアーム⑤の先端をジャッキサポート④の位置に合わせます。

知　識

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所に設けられています。

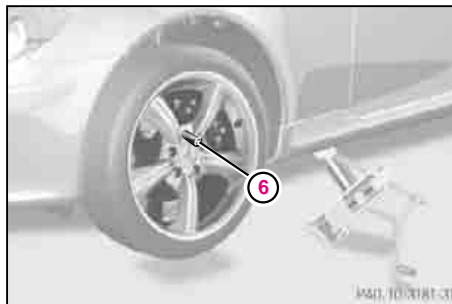
注　意 ！

- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキアームの先端が正しくジャッキサポートに入っていることを確認してください。
- 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。
- ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ ジャッキハンドルを矢印方向にまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

警　告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注　意　!

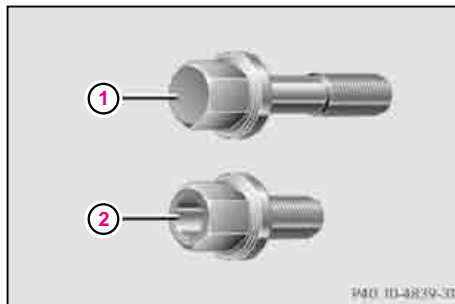
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランク、バリオルーフを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から 3cm 以内にしてください。

⑥ ガイドボルト

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ そのネジ穴に車載工具のガイドボルト⑥をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

注　意　!

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

ホイールボルト

① 標準タイヤ用ホイールボルト
② 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

▶ 応急用スペアタイヤを取り付けるためのホイールボルトを用意します。

応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②（短いホイールボルト）を使用してください。

知　識

応急用スペアタイヤに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

- 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤに添付されています。
- 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトには、ボルト頭部が中空になっていないものもあります。

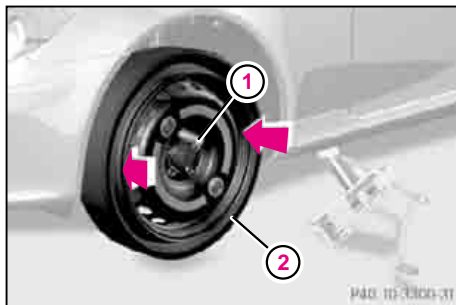
※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトの車載位置は予告なく変更されることがあります。

警　告

- 標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。

  ホイールを確実に取り付けることができず、ブレーキシステムを損傷したり、走行中にタイヤが外れて事故を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故につながるおそれがあります。

注　意　！

- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ山が損傷しているときは走行しないで、指定サービス工場に連絡してください。

応急用スペアタイヤの取り付け

① ガイドボルト
② 応急用スペアタイヤ

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト①に合わせて応急用スペアタイヤ②を取り付けます。

知　識

応急用スペアタイヤが回転方向の指定されたタイヤの場合、取り付ける位置によって、回転方向が逆向きになってしまうことがあります。応急的な走行には支障ありませんが、すみやかに標準タイヤに戻してください。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

警　告

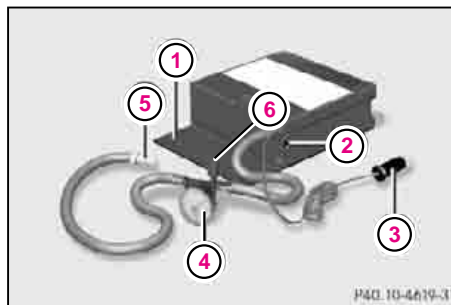
ジャッキアップした状態で、ホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いで、ジャッキが外れるおそれがあります。

応急用スペアタイヤに空気を入れる

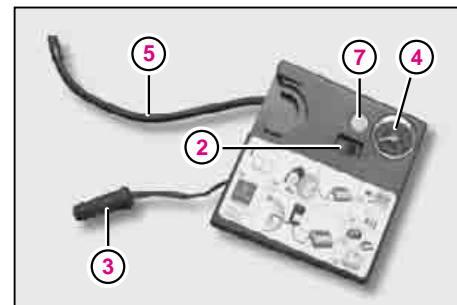
車種や仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

空気圧ゲージ別体型

① フラップ
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑥ 空気圧調整バルブ

フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。空気圧調整バルブ⑥が閉じていることを確認してください。

空気圧ゲージ一体型

② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑦ 空気圧調整ボタン

電動エアポンプの裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。
使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を **O**（オフの位置）にします。

▶ ライターソケット**（6-18）**に、電源プラグ③を差し込みます。

▶ エンジンスイッチを **1** の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を **I**（オンの位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

▶ 規定の空気圧になったら電動エアポンプの電源スイッチ②を **O**（オフの位置）にします。

知　識

応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベル、またはタイヤに記載されています。

規定の空気圧を超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめるか、空気圧調整ボタン⑦を押して空気を抜いて調整します。

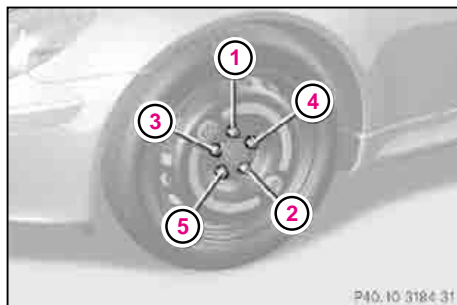
▶ ライターソケットから電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホース⑤を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

注　意　！

- 電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに記載されている取扱方法も参考にしてください。
- 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。
- 電動エアポンプの最大連続作動時間を守ってください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

  最大連続作動時間は、電動エアポンプに貼付されているステッカーに記載されています。
- 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。
- 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。
- 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

ホイールボルトの締め付け

▶ ホイールボルトを図の順番で均等に締め付けます。

▶ ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 11kg-m(110 Nm)です。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

注 意 !

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

◇ホイールレンチを確実に差し込んでください。

◇足で踏んでまわさないでください。

◇両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

また、パイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ山を損傷するおそれがあります。

警 告

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行性能が大きく変化します。十分注意して走行してください。

パンクしたタイヤをトランクに収納する

バリオルーフが閉じているときに、パンクしたタイヤをトランクに収納することができます。

▶ バリオルーフが閉じていることを確認します。

▶ 車載工具からタイヤ収納カバーを取り出します。

▶ パンクしたタイヤをタイヤ収納カバーに入れ、トランク内に収納します。

注 意 !

- 応急用スペアタイヤの収納場所にパンクしたタイヤを収納することはできません。
- パンクしたタイヤをトランク内に収納して走行する場合は、速度を落とし十分注意して走行してください。収納したタイヤが動き、トランク内を損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを元に戻す

パンクしたタイヤを修理して、応急用スペアタイヤを元に戻すときは、以下の手順に従って下さい。

この作業は指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

▶ バルブキャップを取り外します。

▶ 車載工具からバルブリムーバー**(7-5)**を取り出します。

▶ バルブリムーバーを使用してバルブを取り外し、完全に空気を抜きます。

▶ バルブリムーバーを使用してバルブを取り付けます。

▶ バルブキャップを取り付けます。

▶ 応急用スペアタイヤを元の場所に収納し、スクリューで固定します。

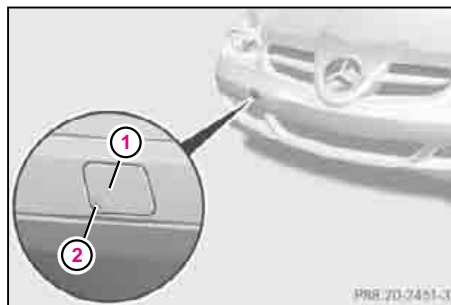
注 意 !

- 応急用スペアタイヤは十分乾燥させてからトランク内に収納してください。
- 応急用スペアタイヤを収納するときはスクリューで確実に固定してください。

けん引

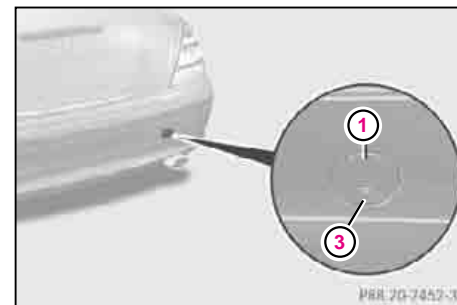
注 意 ！

- けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。
- やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。
- ステアリングロックを解除できないときは、けん引を行なわないでください。

フロントの取り付け位置

フロント
① カバー
② マーク部

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク部②を押して、カバー①を外します。

リアの取り付け位置

リア
① カバー
③ マーク部

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ マーク部③を押して、カバー①を外します。

※ SLK 350 AMG スポーツパッケージ、SLK 55 AMG はカバーの形状が異なります。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（7-5）からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

エンジンを始動できるとき

▶ エンジンを始動して、セレクターレバーを **N** に入れます。

エンジンを始動できないとき

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

フロントまたはリアをつり上げてけん引するとき

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ セレクターレバーを **N** に入れてから、エンジンスイッチを **0** の位置にします。

知　識

- フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを **0** の位置にしてください。ESP が作動して接地しているタイヤにブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- セレクターレバーを **P** から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（5-21）をご覧ください。

注 意 ！

- けん引されるときは、けん引防止警報機能＊を解除してください（3-40）。
- けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（4-46）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。距離が50kmを超えるときは、車両運搬車を利用するか、プロペラシャフトを外す、またはリアをつり上げてけん引してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッションを損傷しているときは、専門業者に作業を依頼し、プロペラシャフトを外してからけん引を行なってください。
- エンジンが停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。
- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

  ◇ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。

  ◇ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白布（30cm×30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。

  ◇ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。

  ◇けん引フック以外にはロープをかけないでください。

  ◇走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

  ◇ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに " ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ !" などの故障 / 警告メッセージが表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

警　告

- エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。
- 水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

注　意 !

- マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは (10-8、9) をご覧ください。
- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します (8-7)。

注　意 !

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

バッテリーがあがったとき

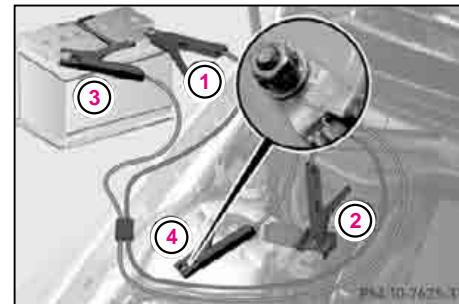
バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して、他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

知　識

- バッテリーあがりなどでリモコン操作で解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します（3-24）。
- バッテリーあがりなどでセレクターレバーを **P** から動かすことができなくなったときは、手動で動かすことができます（5-21）。

警　告

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

始動の方法

左ハンドル車
① 救援車の⊕端子
② 自車の⊕端子
③ 救援車の⊖端子
④ 自車の⊖端子

バッテリーがあがったとき

▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車の電気装置をすべて停止し、エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子①に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊕端子カバーを開きます。

▶ 自車のバッテリーの⊕端子②に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子③に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの⊖端子④に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

注 意 ！

電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにリアデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ランプは点灯させないでください。

▶ 取り付けたときと逆の手順でケーブルを外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

注 意 ！

- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装置を損傷します。
- 触媒装置の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。
  - ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
  - ◇エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しないでください。
  - ◇エンジン始動を２～３回試みても始動できないときは指定サービス工場に連絡してください。
- エンジンを始動できたときも、すみやかに指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
  - ◇ ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。
  - ◇ ケーブルがエンジンファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。
- バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやドアウインドウ、シール部などを損傷するおそれがあります。
- 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

知　識

- 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。
  - ◇ マルチファンクションコントローラーの再設定
  - ◇ パワーウインドウのリセット

ヒューズの交換

電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

警　告

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズなどを使用しないでください。また、針金などで代用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

◇ ヒューズを交換してもすぐに切れたり、装置が作動しないとき

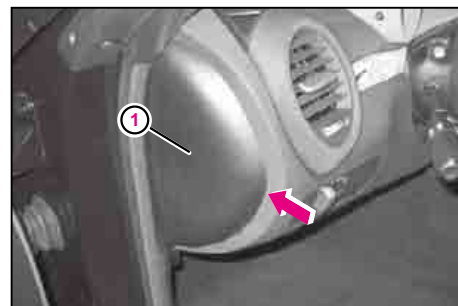
◇ ヒューズに異常はないが、電気装置が作動しないとき

ヒューズの位置

注　意　！

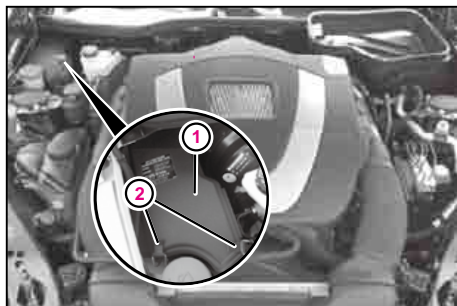
ヒューズボックスのカバーを脱着するときは、以下の点に注意してください。

- カバーを取り外したとき、内部に水分や雨などが入らないようにしてください。
- カバーを取り付けたとき、カバー側のシールが正しく密着するようにしてください。

インストルメントパネル左側面のヒューズボックス

① カバー

▶ 矢印の位置にドライバーなどを差し込み、カバー①を開きます。

ヒューズの配置表（英文）が入っています。

エンジンルーム内のヒューズボックス（SLK 55 AMG を除く車種）

右ハンドル車

① ヒューズボックスカバー
② フック

※ 左ハンドル車はフック②の位置が異なります。

エンジンルーム内のヒューズボックスは運転席側にあります。

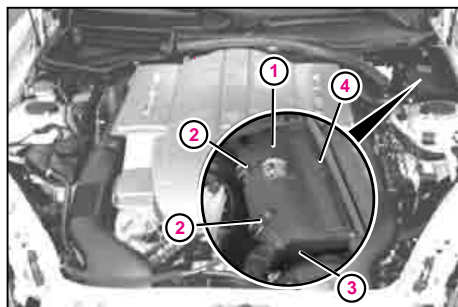
ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ 2 カ所のフック②を外します。

▶ ヒューズボックスのカバー①を取り外します。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ カバー①の後部を先に差し込み、手前側を密着させてからフック②を止めます。

エンジンルーム内のヒューズボックス（SLK 55 AMG）

① ヒューズボックスカバー
② フック
③ ヒューズボックス
④ ロックノブ

エンジンルーム内のヒューズボックスは運転席側にあります。

ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ 2 カ所のフック②を外し、ロックノブ④を車両後方へスライドさせます。

▶ ヒューズボックス③のカバー①を取り外します。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ カバー①の後部を先に差し込み、手前側を密着させてからフック②を止めます。

▶ ロックノブ④を車両前方へスライドさせてロックします。

ヒューズを交換する

すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧 **(9-7)** を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

電球の交換

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。

LED やバイキセノンヘッドランプ＊はユニット交換になるため、必ず指定サービス工場に作業を依頼してください。その他の電球の交換も、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

やむを得ずお客様自身で交換するときは、十分注意して該当箇所の電球を交換してください。

電球一覧は（9-6）をご覧ください。

警　告

- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが **2** の位置のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- バイキセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。

マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ

マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **（10-9）** をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

知　識

- ドアミラーの方向指示灯やハイマウントブレーキランプ、ブレーキランプ / テールランプは、すべての LED が切れたときに、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。
- ドアミラー部以外の方向指示灯の電球が切れると、方向指示灯作動時に方向指示表示灯の点滅と作動音の間隔が通常より早くなって、運転者に知らせます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

電球の取り扱い

電球を交換するときは、以下の点に注意してください。

- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になることがあります。
- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。電球には圧力のかかったガスが封入されているので、破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

  電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー社指定の点検整備

  ダイムラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

- 1 年および 2 年点検整備

  1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

  次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーターが装備されています (4-12)。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

日常点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンルーム

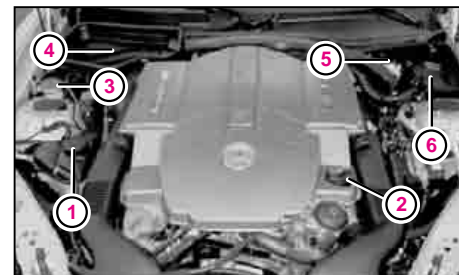
SLK 200

SLK 280 / SLK 350 (右ハンドル車)

※左ハンドル車の④⑤⑥は左右対称の位置にあります。

SLK 55 AMG

①	冷却水リザーブタンク	8-6
②	エンジンオイル フィラーキャップ	8-9
③	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-13

④	バッテリー (バッテリーカバーの下)	8-18
⑤	ブレーキ液 リザーブタンク	8-11

⑥	ヒューズボックス	7-27 7-28
⑦	エンジンオイル レベルゲージ	8-8

知　識

SLK 55 AMG にはエンジンオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面 **(4-15)** で点検してください。

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

警　告

- イグニッションシステムやキセノンヘッドランプ＊のバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換・廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

注　意　!

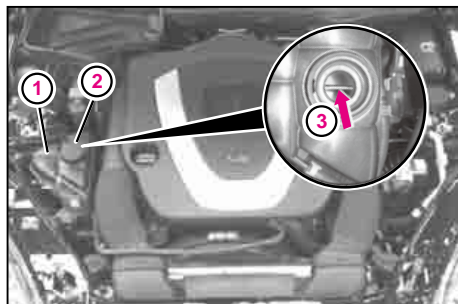
- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所で行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、バッテリー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一、目に入った場合は、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

V ベルト

自動調整式のため、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないか点検してください。

冷却水

冷却水の量を点検する

① リザーブタンク
② キャップ
③ バー

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク①の白と黒の境目まで液面があれば適量です。

または

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク①内のバー③の上面に達していれば適量です。

知　識

水温が高いときは約 15mm ほど液面が高くなります。

警　告

- 水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意 ！

冷却水の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域 (最低気温) によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

注　意　!

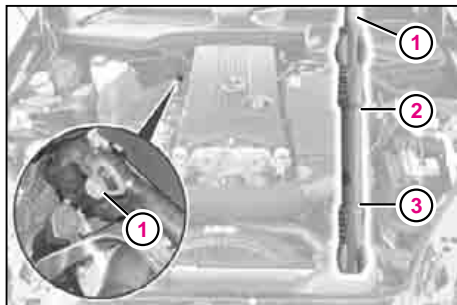
- 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度は約 50%から約 55%の間にしてください。濃度を約 55%以上にすると、冷却性能が低下します。
- 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する警告メッセージ（10-8、9）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイル

エンジンオイルの量を点検する＊

SLK 200
① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限（max）
③ 下限（min）

知　識

SLK 55 AMG にはエンジンオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面で点検を行なってください **(4-15)**。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動させ、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、5 分ほど待ちます。

エンジンオイルが温まる前にエンジンを停止したときは、約 30 分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限(max)②と下限(min)③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

注　意　！

- マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **（10-9、10）** をご覧ください。
- エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

知　識

慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

エンジンオイルを補給する

SLK 200
① エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。

警　告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意 ！

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(**10-9、10**)をご覧ください。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

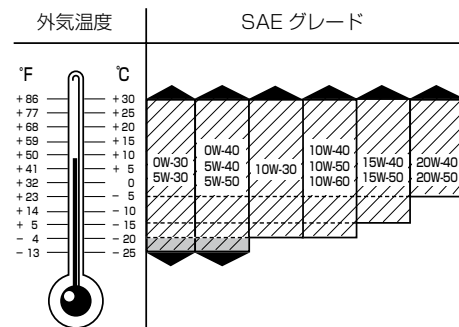
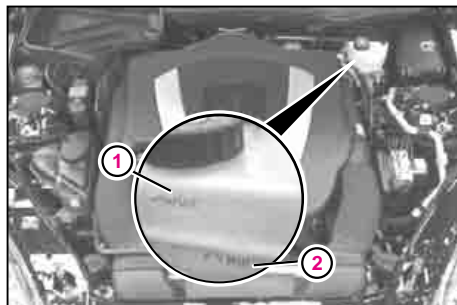
ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意　！

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。
- エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

ブレーキ液

左ハンドル車
① レベルインジケーター上限（MAX）
② レベルインジケーター下限（MIN）

※ 車種や仕様によりレベルインジケーターの位置が異なります。

ブレーキ液の量を点検する

▶ ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーター上限 (MAX) ①と下限 (MIN) ②の間にあれば正常です。

注　意　!

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-7）**をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯**（5-37）**が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

  安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

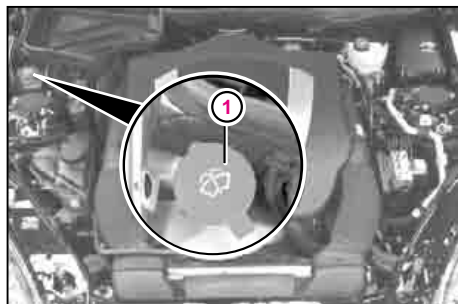
- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限 (MAX) を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

- ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウォッシャー液を補給する

① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

▶ リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します (9-11)。

警　告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

知　識

- ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー＊液のリザーブタンクは共用です。
- ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

注　意 ！

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは (10-11) をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態 (別冊「整備手帳」参照) を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないか点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります **(8-16)**。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

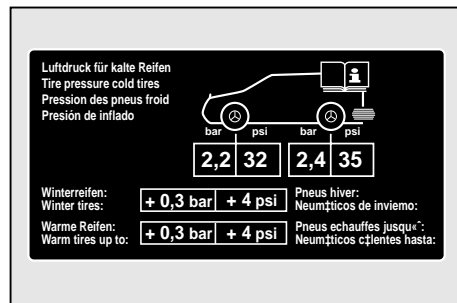
注　意　!

- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、損傷しているときは交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。
- タイヤおよびホイールのサイズが前後で異なるため、タイヤローテーションは行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車の安定性や操縦性が確保できません。

知　識

- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- タイヤ/ ホイールは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤ空気圧ラベル

① タイヤ空気圧ラベル

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベル①は燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

タイヤ空気圧ラベルはシンボル表記になっています。

単位は「bar(≒ kg/cm^2)」と「psi」で示しています。

警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

注 意 !

- 必ず法定速度を守って走行してください。
- 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

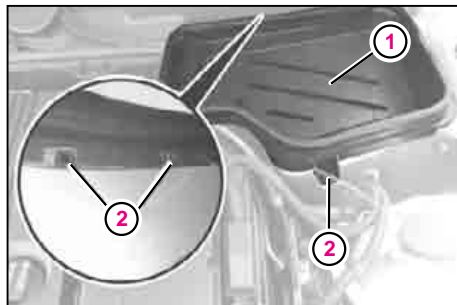
知 識

- "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。
- 乗員人数や荷物の量に応じたタイヤ空気圧の記載がある場合は、記載内容に従ってください。
- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。
- 積載荷物が少ないときに、重い荷物に対応した空気圧に調整すると、乗り心地が悪くなることがあります。
- 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベルまたはタイヤに記載されています。

環 境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

バッテリー

バッテリーの位置

右ハンドル車
① バッテリーカバー
② ノブ

バッテリーはエンジンルーム内の助手席側のバッテリーカバー①の下にあります。

バッテリーカバー①は 3 カ所のノブ②を反時計回りにまわして取り外します。

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーを取り扱うときは以下の点に十分注意してください。

警　告

- バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れるおそれがあります。
- バッテリーの上に金属製の物を載せないでください。バッテリーがショートし、可燃性のガスに発火して爆発するおそれがあります。
- 静電気の発生しやすいところにバッテリーを近付けないでください。発火して爆発するおそれがあります。

- 布などでバッテリーを拭かないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。静電気が発生して可燃性のガスに引火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて身体の静電気を放電させてください。
- バッテリー液が目に入ると失明するおそれがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- バッテリー液が皮膚に付着すると火傷を起こします。ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- バッテリー液が衣服や塗装面などに付着すると、腐食が起こります。ただちに多量の流水で洗い流してください。

- バッテリーケース側面部の液量表示が「min」以下のときは、エンジンを始動したりバッテリーを充電しないでください。液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに点検を受けてください。
- 接続するときは、極性（プラス⊕、マイナス⊖）を間違えないように注意してください。⊕端子と⊖端子をショートさせると、爆発するおそれがあります。
- バッテリーに火気を近付けないでください。

注　意　！

- 指定のバッテリーを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- エンジンがかかっているときは、バッテリー端子を外したり、ゆるめないでください。
- 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。
- 車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

- バッテリー端子の接続を外す前に、エンジンスイッチを **0** の位置にするかキーを抜き、すべての電気装置を停止してください。
- バッテリーを充電するときは車から取り外してください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。
- バッテリー端子を取り外したときは以下のような作業が必要になることがあります。
  - ◇マルチファンクションコントローラーの再設定
  - ◇パワーウインドウのリセット

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

知 識

- 車を長期間使用しないときの保管方法などは、指定サービス工場におたずねください。
- エンジンスイッチにキーを差しているときは、わずかに電力を消費しています。走行しないときは、バッテリー保護のためエンジンスイッチからキーを抜いてください。

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

VRLA バッテリー

ケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERY のラベルがあるバッテリーは、バッテリー液量の点検や補充はできません。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

点検については指定サービス工場におたずねください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です(8-24、25、9-14)。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクの凍結

- ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。
  - ◇ 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
  - ◇ ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
  - ◇ 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。
- ドアウインドウが凍結しているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやウインドウ、シール部などを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをCモードに切り替えてください(5-7)。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを **P** に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP の効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください (9-14)。

注　意　!

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
- スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。
- ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールをオイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着します。

- スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着中は、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

※ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください

注　意　！

- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。
- 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。
- SLK 200 スポーツパッケージ、SLK 280 スポーツパッケージ、SLK 350、SLK 350 AMG スポーツパッケージ、SLK 55 AMG の標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- 前輪にはスノーチェーンを装着しないでください。ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車両を損傷するおそれがあります。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、ガソリンおよびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダーの内側を洗い流してください。

- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼り付けないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをお勧めします。

車内

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  また、乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

洗車

- ▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。
- ▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。
- ▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。
- ▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。また、乾いた布などで強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。

- パークトロニックセンサー＊を清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- パークトロニックセンサー＊には、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーの作動モード（5-30、31）を停止の位置にしてください。
- 回転ブラシの硬さによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 車の後部左側に着脱式のアンテナを装備しています。自動洗車機で洗車するときは、損傷を防ぐため、アンテナを反時計回りにまわして取り外してください。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

警　告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

知　識

純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

環　境

ダイムラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

注 意 !

- 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体やコントロールユニット、センサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えることがあります。

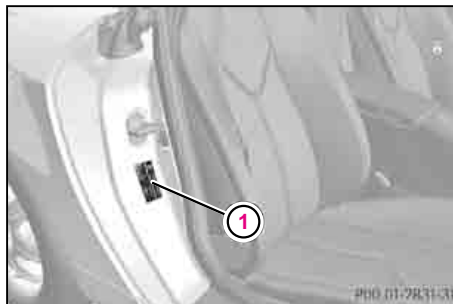
  ◇ エアバッグ収納部
  ◇ シートベルト
  ◇ インストルメントパネル
  ◇ センターコンソール
  ◇ ドア
  ◇ シート
  ◇ ピラー付近
  ◇ サイドシル付近

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

- 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

ビークルプレート

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。

① ニューカープレート

② エンジン番号

ニューカープレート

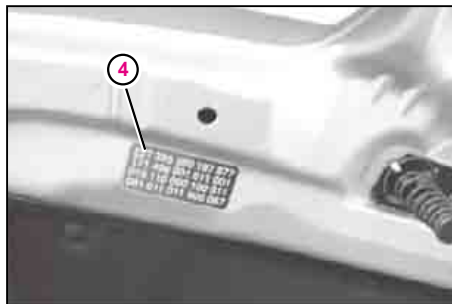
車の車台番号やカラーコードを記載したニューカープレート①は、運転席側または助手席側のドア開口部の車体側に貼付してあります。

エンジン番号

エンジン番号②は、エンジンブロックの右側後部に打刻してあります。

③ 車台番号

車台番号

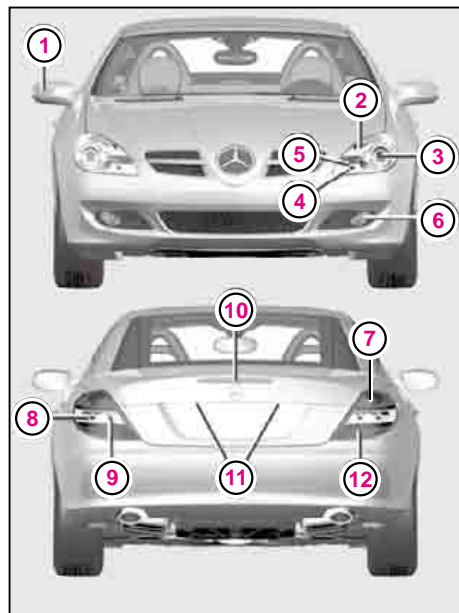
車台番号③は、右側シート後方のセンタートンネル側面に打刻してあります。

ボンネット裏側
④ オプションコードプレート

オプションコードプレート

オプションコードを示すプレート④は、ボンネット裏側に貼付してあります。

電球一覧

電球一覧

	ランプ	ワット数（規格）
①	ドアミラー方向指示灯	LED（発光ダイオード）
②	フロント方向指示灯	21W（黄色）
③	ヘッドランプ　上向き / 下向き （バイキセノンヘッドランプ装備車）	35W（キセノン D2S）
	ヘッドランプ　下向き （バイキセノンヘッドランプ非装備車）	55W (H7)
④	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W
⑤	ヘッドランプ　上向き	55W (H7)
⑥	フロントフォグランプ	55W (H7) または 55W (H11)
⑦	リアフォグランプ（右側のみ）	21W
⑧	リア方向指示灯	21W（黄色）
⑨	バックランプ	21W
⑩	ハイマウントブレーキランプ	LED（発光ダイオード）
⑪	ライセンスランプ	5W
⑫	ブレーキランプ / テールランプ	LED（発光ダイオード）

注　意　！

電球の交換を行なうときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス 1（インストルメントパネル左側面）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
21	5A	リアクォーターウインドウ、バリオルーフ
22	5A	盗難防止警報システム、自動防眩ルームミラー、ルームランプ、ドアミラー、レインセンサー、バニティミラー照明、読書灯
23	25A	エアスカーフ
24	25A	エアスカーフ
25	25A	シートヒーター
26	40A	マルチファンクションコントローラー
27	25A	セントラルロッキングシステム、乗降用ランプ、ドアミラー、ドアウインドウ、スイッチ照明
28	25A	セントラルロッキングシステム、乗降用ランプ、ドアミラー、ドアウインドウ、スイッチ照明
29	40A	エアコンディショナー、ブロアモーター
30	5A	メーターパネル
31	10A	オプション
32	25A	リアクォーターウインドウ
33	5A	ABS/BAS/ESP、オートマチックトランスミッション、ホーン、マルチファンクションステアリング、電動ステアリング調整、方向指示灯、ワイパー
34	30A	シート調整、電動ステアリング調整
35	30A	シート調整
36	15A	エンジンエレクトロニクス、ステアリングロック、スターター
37	7.5A	エアコンディショナー、エアスカーフ、盗難防止警報システム、チャイルドセーフティシート検知システム、セントラルロッキングシステム、ドアミラー、非常点滅灯、リアデフォッガー、パークトロニック、シートヒーター、スイッチ照明、けん引防止警報機能、バリオルーフ
38	40A	バリオルーフ
39	25A	リアクォーターウインドウ
40	5A	診断ソケット
41	5A	マルチファンクションコントローラー
42	5A	ABS/BAS/ESP、オートマチックトランスミッション、ホーン、マルチファンクションステアリング、電動ステアリング調整、方向指示灯、ワイパー

※仕様・装備などの違いにより、ヒューズが異なることがあります。
※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス 2（エンジンルーム内）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
43	15A	ホーン
44	5A	エアコンディショナー、グローブボックスランプ
45	7.5A	エアバッグシステム、チャイルドセーフティシート検知システム
46	40A	ワイパー
47	15A	ライター、マルチファンクションコントローラー、グローブボックスランプ
48	15A	エンジンエレクトロニクス
49	7.5A	エアバッグシステム
50	5A	ランプスイッチ、ヘッドランプ、スイッチ照明
51	5A	エンジン冷却ファン、ヘッドランプ照射角度調整、メーターパネル
52	15A	スターター
53	25A	エンジンエレクトロニクス
54	15A	エンジンエレクトロニクス、エンジン冷却ファン
55	7.5A	オートマチックトランスミッション、ヘッドランプ照射角度調整
56	5A	ABS/BAS/ESP
57	5A	エンジンエレクトロニクス、ステアリングロック、スターター
58		未使用
59	50A	ABS/BAS/ESP
60	40A	ABS/BAS/ESP
61		未使用
62	5A	診断ソケット、ランプスイッチ、ヘッドランプ
63	5A	ランプスイッチ、ヘッドランプ
64	10A	マルチファンクションコントローラー
65	40A	オプション

（A171 545 02 00 2006-09-01）

知　識

1 ～ **20** のヒューズはトランク内にありますが見ることはできません。指定サービス工場で点検を受けてください。

※仕様・装備などの違いにより、ヒューズが異なることがあります。
※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

必ずダイムラー社の純正品または指定品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
エンジンオイル	SLK 200	約 5.5	承認オイル	オイルフィルター分を含む
	SLK 280	約 8.0		
	SLK 350			
	SLK 55 AMG			

注 意 ！

- オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご参照ください。
- オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。
- オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オートマチックトランスミッションオイルに添加剤などを使用しないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
パワーステアリングオイル	全車	－	純正パワーステアリングオイル	専用オイル
ディファレンシャルオイル	全車	－	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
ブレーキ液	全車	－	純正ブレーキ液	DOT4 規格
冷却水	SLK 200	約 8.2	純正不凍液	水に純正不凍液を混ぜて使用 濃度に注意（**8-7**）
	SLK 280 SLK 350	約 9.8		
	SLK 55 AMG	約 11.1		

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
ウォッシャー液	全車	約 7.0	純正ウインドウ ウォッシャー液 夏用 、冬用	水と純正ウォッシャー液を 混ぜて使用
バッテリー	全車	−	12V / 62Ah、74Ah	エンジンルーム内に装備
エアコンディショナー冷媒	全車	−	R134a	R-12 を使用しないこと
燃　料	全車	約 70	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量 SLK 55 AMG を除く車種： 約 9.0 ℓ SLK 55 AMG：約 10.0 ℓ

注　意　！

- 燃料は必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

- 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。

- 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用して、故障が発生した場合は保証の適用外となりますので、ご了承ください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

タイヤとホイール

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質
SLK 200 SLK 280	前輪 205 / 55R16 後輪 225 / 50R16	前輪 7J × 16 後輪 8J × 16	前輪 34mm 後輪 30mm	軽合金
SLK 200 スポーツパッケージ SLK 280 スポーツパッケージ SLK 350	前輪 225 / 45R17 後輪 245 / 40R17	前輪 7.5J × 17 後輪 8.5J × 17	前輪 36mm 後輪 30mm	軽合金
SLK 350 AMG スポーツパッケージ SLK 55 AMG	前輪 225 / 40R18 後輪 245 / 35R18	前輪 7.5J × 18 後輪 8.5J × 18	前輪 37mm 後輪 30mm	軽合金

注　意　！

- SLK 200 スポーツパッケージ、SLK 280 スポーツパッケージ、SLK 350、SLK 350 AMG スポーツパッケージ、SLK 55 AMG の標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを取り付けないでください。

- タイヤローテーションは行なわないでください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

応急用スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
全車	145 / 70-17	4.5B × 17	12mm

注　意　！

応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

知　識

応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベルまたはタイヤに記載されています。

ウィンタータイヤ

車種	ウィンタータイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
SLK 200 SLK 280	205 / 55R16 M+S	7J × 16	34mm
	225 / 45R17 M+S	7.5J × 17	36mm
SLK 350	225 / 45R17 M+S	7.5J × 17	36mm
	225 / 40R18 M+S	7.5J × 18	36mm
SLK 55 AMG	205 / 50R17 M+S	7.5J × 17	37mm
	225 / 45R17 M+S	7.5J × 17	37mm
	225 / 40R18 M+S	7.5J × 18	37mm

※ウィンタータイヤは、前輪･後輪ともに同サイズのものを装着してください。

注 意 !

ウィンタータイヤのサイズはダイムラー社が指定するもので、日本国内で販売されているスタッドレスタイヤは、表示のサイズに対応していないことがあります。

知 識

- ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場におたずねください。

- スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。
- ウィンタータイヤの空気圧は、標準タイヤより 0.3bar 高い空気圧に調整してください。

積載荷物の制限重量

車種	ルーフラック	トランク
全車	50kg	100kg

注　意　!

- ルーフラックを使用するときは、必ずバリオルーフを閉じてください。
- ルーフラックを取り付けているときは、バリオルーフを開かないでください。バリオルーフやルーフラックを損傷するおそれがあります。

知　識

ルーフラック積載荷物の制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応などが表示されます。

知 識

- 故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。
- 重要度の低いメッセージは、ステアリングの ■■ や ⇧⇩、またはリセットボタン（3-67）により画面を切り替えることができます。
- 重要度の高いメッセージは画面を切り替えることができません。このときは故障内容が自動的に記憶されます。

注 意 ！

- 走行する前には必ずエンジンスイッチを **2** の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車の操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ABS	ABS ﾄ ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS と ESP の機能が解除されている。同時に BAS の機能も解除されている。上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ESP	ESP ﾊ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** システムの自己診断が完了していないため、一時的に ESP が作動しない状態になっている。 ABS は作動する。 ESP は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 約 20km/h 以上の速度で短い距離を走行してください。 メッセージが消えれば、ESP は作動できる状態になります。
		⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ESP の機能が解除されている。同時に BAS の機能も解除されている。 バッテリーが充電されていない可能性がある。 ABS は作動する。 ESP は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ESP	ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP の機能が解除されている。同時に BAS の機能も解除されている。 ESP は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾄﾗﾝｽ ﾐｯｼｮﾝ	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	オートマチックトランスミッションの作動が制限されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ！	タイヤから急激に空気が抜けている。	▶ 周囲の安全を確認し、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 必要であれば該当するタイヤを交換してください（**7-6**）。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整するか、またはタイヤを交換した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（**4-8**）。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ﾃﾝｹﾝ	ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。	▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（4-8)。
ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ	ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ!	タイヤ空気圧警告システムが故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS ｼｽﾃﾑ	ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	乗員保護補助装置（エアバッグ、シートベルトテンショナーなど）が故障している。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ / ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ	ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。	▶ 指定サービス工場でクルーズコントロールまたは可変スピードリミッターの点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
		トランクが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ トランクを閉じてください。
		トランクが完全に閉じていない状態でバリオルーフを開閉しようとした。	
		⚠ 事故のおそれがあります 盗難防止警報システム装備車： ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ただちに安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
		⚠ 事故のおそれがあります ドアが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ドアを閉じてください。
		ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。
		以下の原因によりバッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Ｖベルトの損傷	▶ ただちに安全な場所に停車して、Ｖベルトを点検してください。 **Ｖベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **Ｖベルトが損傷していないとき** ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。	▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
	ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞ ｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ！	ラゲッジカバーが正しくセットされていない状態でバリオルーフを閉じようとしている。	▶ ラゲッジカバーを引き出し、両端のフックをホルダーにかけて、正しくセットしてください（3-47）。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
(冷却水温度警告灯)	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ､ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ！	冷却水温度が異常に上昇している。	▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度画面（**4-10**）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		V ベルトが切れている可能性がある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。	▶ 冷却水を補給してください（8-7）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ [1]	左ヘッドランプ（ロービーム）が切れている。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。	▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください（4-40）。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	SLK 200 / SLK 280 / SLK 350： エンジンオイル量が減っている。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください（8-8、9）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ 1 ﾘｯﾀｰ ｵｲﾙ ｦ ﾂｲｶ！	SLK 55 AMG： エンジンオイル量が不足している。	▶ エンジンオイルを補給し、エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。

1） 他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ	SLK 55 AMG : エンジンオイル量が不足している。エンジンを損傷するおそれがある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイルを補給し、エンジンオイル量を点検してください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｵｲﾙ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ	SLK 55 AMG : エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや触媒を損傷するおそれがある。	▶ エンジンオイルを抜いてください。エンジンオイルを廃棄するときは規則に従ってください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ﾌｶﾉｳ	SLK 55 AMG : エンジンオイル量計測システムが故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	１つ以上のエレクトロニックシステムが情報を伝達できない状態になっている。以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターのインジケーター	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾃｲｼﾁｭｳﾉﾐ ｿｳｻｶﾉｳﾃﾞｽ	走行中にバリオルーフを開閉しようとしている。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ バリオルーフスイッチを操作してください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻｶﾞﾘﾏｽ！	油圧装置の圧力が低下し、完全に開閉されていないバリオルーフが倒れ込もうとしている。	▶ バリオルーフを完全に閉じるか、完全に開いてください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ / ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ	バリオルーフが完全にロックされていない。	▶ バリオルーフを完全に閉じるか、完全に開いてください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ！	バッテリーの電圧が低くなっている。	▶ エンジンを始動してください。
		バリオルーフの開閉操作が何度も繰り返されたため、安全のためにルーフの開閉機能が一時的に停止した。	▶ 約 10 分間待ってください。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてから、**2** の位置にするか、エンジンを始動してください。 ▶ バリオルーフスイッチを操作してください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｼﾞｭｳｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。	▶ ウォッシャー液を補給してください（8-13）。

トラブルの原因と対応

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、シートヒーターが自動的に停止している。	▶ 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアスカーフが自動的に停止した。 エアスカーフスイッチを押しても作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、エアスカーフが使用できない。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 ▶ 再度、エアスカーフスイッチを押してください。
エアコンディショナーの AC スイッチを押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 エアコンディショナーの AC スイッチを押しても、除湿 / 冷房されない。	エアコンディショナーの冷媒が不足している。	▶ 指定サービス工場でエアコンディショナーの点検を受けてください。
リアデフォッガーが短時間で停止し、表示灯が点滅する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、リアデフォッガーが自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 ▶ 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。	
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席に一定以下の体重の乗員が乗車して、シートベルトをバックルに差し込んでいるため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。	
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	⚠ **けがのおそれがあります** 上記の原因があてはまらない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。	▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • 電源の入ったパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード **電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯するとき** ▶ すみやかに指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。

表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。ESP と BAS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。ただし、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS の機能が解除されている。 ESP と BAS の機能も解除されている。 バッテリーが充電されていない可能性がある。 上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。ただし、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、ABS は作動できる状態になります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブル	考えられる原因および症状	対応
⚠ 走行中に黄色の ESP 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか、車が横滑りをしているため、ESP、ABS やトラクションコントロールなどが作動している。	▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP の機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
⚠ エンジンがかかっているときに黄色の ESP 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP の機能が解除されている。 車両操縦性や走行安定性を確保することができない。	▶ ESP を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
SRS 走行中に赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護補助装置に異常がある。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

トラブル		考えられる原因および症状	対応
(!)	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も聞こえる。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
(!)	エンジンがかかっていて、パーキングブレーキを解除しているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 状況を問わず、走行しないでください ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障／警告メッセージ（10-7）に従ってください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある。 • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートに荷物を置いている。	▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約25km/h を超えた。	▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートに荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。	▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

トラブルの原因と対応

警告音

トラブル	考えられる原因および症状	対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システム＊が待機状態のときに、運転席ドアまたはトランクをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システム＊が待機状態のときに、車内からドアを開くか、ボンネットのロックを解除した。	▶ キーの か を押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。	▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（**10-3 ～**）。
警告音が鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
警告音が鳴った。	ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを **0** の位置にしてください。
エンジンスイッチを **2** の位置にするか、エンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。 または 損傷箇所が見当たらない。		▶ 指定サービス工場に連絡してください。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状	対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。	▶ リモコン操作で解錠してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップの開閉機構に異常がある。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。

トラブルの原因と対応

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある可能性がある。 • 燃料供給に異常がある可能性がある。	▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 **何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。	▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（**7-23**）。 **エンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。	▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。
冷却水の温度表示が約 120℃以上を示している。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ すみやかに停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば冷却水を補給してください（**8-6、7**）。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
冷却水の温度表示が約 120℃以上を示している。	冷却水量が正常なときは、エンジンファンが故障している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状	対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。	▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常がある。	エマージェンシーモードにして、2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを **P** に入れてください。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。 ▶ 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ セレクターレバーを **D** に入れます。 2 速ギアになります。 または セレクターレバーを **R** に入れます。 リバースギアになります。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状	対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約2秒間警告音が鳴り、約20秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニック＊に異常があり、機能が停止している。	▶ すみやかに指定サービス工場でパークトロニック＊の点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニック＊が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。	▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（**8-29**）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニック＊が解除された。	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。	▶ 場所を変えて、パークトロニック＊の作動を確認してください（**5-58**）。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ヘッドランプ / 方向指示灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ヘッドランプまたはドアミラー方向指示灯の内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。	▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
ヘッドランプまたはドアミラー方向指示灯の内側が曇っている。	ヘッドランプユニットやドアミラー方向指示灯ユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。	▶ 指定サービス工場でヘッドランプやドアミラーの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ワイパーが正しく作動しない。	フロントウインドウに障害になる物が付着しているため、ワイパーモーターの作動が停止している。	▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	ワイパーが故障している。	▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（**5-30、31**）。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアウインドウが全閉しない。	⚠ **けがのおそれがあります** ドア内側のガイドレールなどに障害になる物が挟まっている。	▶ スイッチから手を放してください。 ドアウインドウが少し開きます。 ▶ スイッチの開く側を押して、ドアウインドウを開いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ スイッチの閉じる側を深く押します。 ウインドウに挟まれないように注意してください。
運転席ドアのドアウインドウが自動で全閉しない。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席ドアのドアウインドウを自動で全閉しているときに、ドアウインドウが自動で停止して少し開くことがある。	▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチの閉じる側を軽く押します。 **ドアウインドウが少し開くとき** ▶ 約 5 秒以内に、スイッチの閉じる側を深く押します。 挟み込み防止機能が働かない状態でウインドウが閉じます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。 ウインドウを閉じてから約 5 秒後に、挟み込み防止機能が働く状態になります。

ミラー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。		▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（**3-54**）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

キー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの先端を運転席ドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 **リモコン操作ができないとき** ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください（**3-24、25**）。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（**3-13**）。
	キーが故障している。	▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください（**3-24、25**）。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
キーのボタンを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を交換してください（3-13）。 電池は指定サービス工場で入手できます。
キーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに 0 の位置で長時間放置していた。	▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンスイッチがまわらない。	バッテリーの電圧が低下している。	▶ 必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 **それでもエンジンスイッチがまわらないとき** ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（**7-23**）。 または ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき		▶ 対応について、指定サービス工場におたずねください。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

ラ

ワ

英字

“ESP®” はダイムラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2008 年 1 月現在のものです。

対象モデル

SLK 200 KOMPRESSOR
SLK 280
SLK 350
SLK 55 AMG

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目９番９号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32070-010800500 H